

平成 22 年度

自己点検・評価報告書

学校法人 文化学園

文化女子大学短期大学部

目 次

* 文化女子大学短期大学部の特色について	1
I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	8
II 教 育 の 内 容	13
III 教育の実施体制	31
IV 教育目標の達成度と教育の効果	46
V 学 生 支 援	62
VI 研 究	80
VII 社 会 的 活 動	86
VIII 管 理 運 営	92
IX 財 務	108
X 改 革 ・ 改 善	115
** 将来計画の策定(自由記述)	119

《* 文化女子大学短期大学部の特色について》

(1) 短期大学を設置する学校法人（以下「法人」という）の沿革（概要）及び短期大学の沿革（概要）。

文化女子大学短期大学部（以下「本学」という）を設置する学校法人文化学園（昭和48年6月までは並木学園）の起源は、大正8年に創立者の1人である並木伊三郎が「婦人子供服裁縫教授所」を開設した時に遡る。その後、同教授所は大正11年に「文化裁縫学院」、さらに翌12年に「文化裁縫女学校」として東京府から認可を受け、洋裁教育を通じた洋装文化の普及に携わることとなった。そして、昭和10年に財団法人並木学園として組織を整え、昭和11年には校名を「文化服装学院」に改称した。

同時期に、学園は雑誌「装苑」の発行によって洋裁文化の普及に向けて新たな歩みを始め、今日の収益事業（出版事業他）の端緒を見ることができる。戦後の復興期を経て、学園は昭和25年4月、短期大学制度の発足に併せて文化女子短期大学を創立するとともに、翌26年に学校法人並木学園に組織変更し、昭和48年、創立50周年を機に「学校法人 文化学園」と改称して今日に至っている。学校法人としての歴史は、「文化服装学院」「文化女子短期大学」「文化女子大学」、収益事業部門それぞれの整備と拡充の歩みである。まず「文化服装学院」は産業界の動向に対応する教育課程を形成するとともに男女共学とし、専修学校制度による専門学校となった。次に、「文化女子短期大学」は「文化女子大学」の創立に伴い「文化女子大学短期大学部」となり今日に至っている。文化女子大学はその後、大学院の設置、学部・学科の増設、「文化女子大学室蘭短期大学」の開学（平成21年廃止）、附属学校の設置等、拡充と整備を図った。また、収益事業部門は出版事業、購買事業、不動産賃貸業等へと広がり、収益を教育部門へ寄附することで学園の発展に寄与している。

本学の歴史は昭和25年短期大学制度の発足を機に、並木学園（当時）が大学教育においても服装学教育を展開することを目的に文化女子短期大学を創立し、服装科（当時）を設置した時に始まる。この短期大学の教育経験を基盤に服装学教育とその研究を志す文化女子大学（家政学部服装学科）を創立したことに伴い、本学を文化女子大学短期大学部と改称した。以後、服装学科を中心に、周辺分野への研究教育志向の高まりに基づいて生活造形科（当時）を昭和40年に設置した。また、本学は国際的な連携による服装学教育の実績をもとに、国際的な文化比較、日本文化の理解と日本語教育などを企図して、昭和62年、小平キャンパスに国際文化学科を設置した。

その後、平成3年に文学部（現：現代文化学部）が設置されるに及び、同学科は同学部へ吸収された。本学はこのような経過の中で、現在、服装学科・生活造形学科と専攻科被服専攻を置いて文化女子大学との連携を密にしている。また、本学は、その規模と内容において国内有数の短期大学として知られたが、入学希望者の大学志向と18歳人口の減少という潮流の中で入学定員の見直しを余儀なくされた。同時に国際的都市型の短期大学を目指して学園再開発計画を策定し、平成10年度の現在のキャンパス完成を機に「新都心キャンパス」と呼称することとして、現在に至っている。

＊短期大学の特色等

学校法人文化学園の沿革

大正 8 年	並木婦人子供服裁縫店を開き婦人子供服裁縫教授所を開設
大正 11 年	文化裁縫学院 開設
大正 12 年	文化裁縫女学校に改称 東京府より認可を受け、以後、学園創立の年とする
昭和 10 年	財団法人並木学園 設置認可
昭和 11 年	文化裁縫女学校を文化服装学院と改称
昭和 25 年	文化女子短期大学創立
昭和 26 年	学校法人並木学園に組織改定
昭和 30 年	円形校舎 完成
昭和 39 年	文化女子大学 創立
昭和 44 年	文化女子大学室蘭短期大学 開学 文化女子大学図書館 開館
昭和 47 年	文化女子大学大学院 設置 文化女子大学附属すみれ幼稚園 開園
昭和 48 年	学校法人文化学園に法人名を改称
昭和 49 年	文化女子大学附属杉並高校 開校
昭和 51 年	文化女子大学室蘭短期大学附属幼稚園 開園
昭和 54 年	遠藤記念館 完成 文化学園服飾博物館 開館
昭和 55 年	文化外国語専門学校 開校
昭和 58 年	文化女子大学附属長野高等学校・文化女子大学長野専門学校 開校
昭和 60 年	文化女子大学小平キャンパス 完成
昭和 61 年	文化女子大学附属杉並中学校 開校
平成 10 年	超高層新校舎（21 階建て）完成
平成 11 年	文化・服装学総合研究所／文化学園ファッションリソースセンター設置
平成 14 年	文化学園国際交流センター 開設
平成 15 年	文化・衣環境学研究所／文化・住環境学研究所 設置
平成 17 年	文化学園知財センター 設置
平成 18 年	文化ファッション大学院大学 開学
平成 20 年	文化ファッション研究機構設置（文化・服装学総合研究所を改組） 専門学校文化服装学院広島校 開校
平成 21 年	文化女子大学室蘭短期大学 廃止

文化女子大学短期大学部の沿革

大正 12 年	学園創立
昭和 25 年	文化女子短期大学創立 服装科（現：服装学科）を設置
昭和 39 年	文化女子大学短期大学部に名称変更
昭和 40 年	生活造形科（現：生活造形学科）を設置
昭和 43 年	専攻科被服専攻・生活造形専攻を設置
昭和 62 年	国際文化学科を設置
平成 元年	専攻科国際文化専攻を設置
平成 16 年	専攻科国際文化専攻を廃止
平成 19 年	国際文化学科を廃止
平成 20 年	専攻科生活造形専攻を廃止

(2) 短期大学の所在地、位置（市・区・町・村の全体図）、周囲の状況（産業、人口等）等。

① 所在地 東京都渋谷区代々木3丁目22番1号（〒151-8523）

② 位置



文化女子大学短期大学部周辺地図

③ 周囲の状況（産業、人口等）

本学は東京都渋谷区と新宿区の区境にあり、新宿新都心に位置し最寄り駅は JR 新宿駅である（南口より徒歩7分）。

産業としては渋谷区、新宿区とも卸売・小売業が最も多く、2区合計における全産業の22.6%を占めている（平成18年調査）。人口は渋谷区が206,792人、新宿区が319,304人であり、2区を合わせて区部合計人口の約6.0%となっている（平成22年5月1日現在 外国人登録人口含む）。

渋谷区の表参道、代官山は有名ブティックが軒を連ねており、アパレル関係の業者が多く集まる我が国最大のファッション街であり、若者文化の発祥地ともなっている。

また本学は東京都庁に代表される高層ビル群の新宿新都心に隣接し、地域的にも文化的にも最適な教育環境となっている。

＊短期大学の特色等

(3)法人理事長、学長の氏名、連絡先及びその略歴、AL0の氏名、連絡先及びその略歴。なお、連絡先としては、TEL、FAX、E-Mail等を記載して下さい。

理事長・学長 大沼 淳

連絡先 TEL : 03-3299-2310

FAX : 03-3370-6202

略	歴
昭和 20 年 10 月	海軍兵学校修了（終戦のため）
昭和 24 年 4 月	人事院採用（昭和 33 年 2 月迄）
昭和 33 年 2 月	学校法人並木学園（現 文化学園）常任理事（昭和 35 年 9 月迄）
昭和 35 年 9 月	学校法人並木学園（現 文化学園）理事長（現在に至る）
昭和 39 年 11 月	全国各種学校総連合会会長（昭和 51 年 6 月迄）
昭和 40 年 5 月	文部省大学設置審議会委員 9 期（昭和 47 年 5 月迄）
昭和 43 年 11 月	文部省私立大学審議会委員 2 期（昭和 51 年 11 月迄）
昭和 44 年 4 月	文化女子大学短期大学部学長・文化女子大学学長（現在に至る）
昭和 51 年 6 月	全国専修学校各種学校総連合会会長（平成 2 年 5 月迄）（現 最高顧問）
昭和 59 年 12 月	臨時教育審議会専門委員（昭和 60 年 12 月迄）
平成 3 年 2 月	財団法人日本ファッション教育振興協会会長（現在に至る）
平成 5 年 5 月	文部省大学設置・学校法人審議会委員 3 期（平成 11 年 4 月迄）
平成 5 年 11 月	ファッションビジネス学会会長（現在に至る）
平成 8 年 9 月	財団法人私学研修福祉会理事長 3 期（平成 14 年 9 月迄）
平成 10 年 2 月	繊維ファッション産学協議会副理事長（現在に至る）
平成 12 年 4 月	日本私立大学協会会長（現在に至る）
平成 12 年 6 月	日本私立学校振興・共済事業団運営審議会委員（現在に至る）
平成 12 年 7 月	文部省国立大学等の独立行政法人化に関する調査検討会議委員 2 期 （平成 14 年 3 月迄）
平成 15 年 4 月	独立行政法人国立博物館運営委員会委員（平成 19 年 3 月迄）
平成 15 年 4 月	東京国立博物館評議員会評議員（平成 19 年 3 月迄）
平成 17 年 4 月	独立行政法人国立博物館運営委員会副委員長（平成 19 年 3 月迄）
平成 17 年 4 月	東京国立博物館評議員会会長（平成 19 年 3 月迄）
平成 18 年 2 月	日本私立学校振興・共済事業団運営審議会会長（現在に至る）
平成 18 年 4 月	文化ファッション大学院大学学長（現在に至る）
平成 19 年 8 月	東京国立博物館評議員会評議員・会長（現在に至る）
平成 19 年 11 月	独立行政法人国立文化財機構運営委員会副委員長（平成 21 年 3 月迄）

AL0 事務局学生部 副部長 相川 孝

連絡先 TEL : 03-3299-2331

FAX : 03-3370-6202

E-mail : aikawa@bunka.ac.jp

略	歴
昭和 51 年 3 月	桜美林大学経済学部卒業
昭和 51 年 4 月	文化学園外商事業部（昭和 59 年 9 月迄）
昭和 59 年 10 月	文化出版局販売部販売促進課課長補佐（平成 13 年 6 月迄）
平成 13 年 7 月	文化学園経理本部経理部経理一課課長（平成 17 年 3 月迄）
平成 17 年 4 月	文化女子大学短期大学部・文化女子大学事務局教務部学事課課長 （平成 18 年 6 月迄）
平成 18 年 7 月	文化女子大学短期大学部・文化女子大学事務局教務部副部長兼 学事課長（平成 22 年 3 月迄）
平成 22 年 4 月	文化女子大学短期大学部・文化女子大学事務局学生部副部長兼 入試広報課長兼学生支援課長（現在に至る）

(4)平成16年度から22年度までの学科・専攻（通信による教育を行う学科（以下「通信教育学科」という）、専攻科を含み、以下「学科等」という）ごとの入学定員、入学者数、入学定員充足率（％）、収容定員、在籍者数、収容定員充足率（％）を作表して下さい。廃止、募集停止等の学科等を含む、該当する期間内に設置されたすべての学科等について作成して下さい。なお、在籍者数は毎年度5月1日時点とします。

平成16年度～22年度の設置学科、入学定員等

学科等の名称		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	備考
服 装 学 科	入学定員	420	420	300	300	200	200	200	
	入学者数	367	367	266	284	214	185	156	
	入学定員充足率(%)	87	87	88	94	107	92	78	
	収容定員	840	840	720	600	500	400	400	
	在籍者数	953	736	619	543	487	400	348	
	収容定員充足率(%)	113	87	85	90	97	100	87	
生活造形学科	入学定員	220	220	140	140	60	60	60	
	入学者数	232	129	106	82	80	44	47	
	入学定員充足率(%)	105	58	75	58	133	73	78	
	収容定員	434	440	360	280	200	120	120	
	在籍者数	506	357	236	185	166	127	95	
	収容定員充足率(%)	116	81	65	66	83	105	79	
国際文化学科	入学定員	【募集停止】			【廃止】				
	入学者数								
	入学定員充足率(%)								
	収容定員	220	0	0					
	在籍者数	65	2	1					
	収容定員充足率(%)	29							
専攻科 被服専攻	入学定員	20	20	20	20	20	20	20	
	入学者数	94	109	53	68	30	34	17	
	入学定員充足率(%)	470	545	265	340	150	170	85	
	収容定員	20	20	20	20	20	20	20	
	在籍者数	94	109	53	68	30	34	17	
	収容定員充足率(%)	470	545	265	340	150	170	85	
専攻科 生活造形専攻	入学定員	20	20	20	20	【廃止】			
	入学者数	28	24	17	12				
	入学定員充足率(%)	140	120	85	60				
	収容定員	20	20	20	20				
	在籍者数	28	24	17	12				
	収容定員充足率(%)	140	120	85	60				

＊短期大学の特色等

(5)平成19年度～21年度に入学した学生の出身地別人数及び割合(10程度の区分)の表を毎年度5月1日時点で作成して下さい。なお、短期大学の実態に沿って地域を区分して下さい。

出身地別学生数(平成19年度～21年度)

各年度5月1日現在

地域		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
北海道		11	2.5	4	1.2	4	1.6
東北		24	5.4	15	4.6	10	3.8
北関東	茨城県	20	4.5	14	4.3	13	4.9
	栃木県	7	1.6	7	2.2	13	4.9
	群馬県	10	2.2	8	2.5	8	3.0
南関東	埼玉県	74	16.7	58	17.9	38	14.4
	千葉県	42	9.4	26	8.0	24	9.1
	東京都	112	25.1	88	27.1	60	22.8
	神奈川県	52	11.7	34	10.6	41	15.6
中部		55	12.3	45	13.9	31	11.8
近畿		6	1.3	1	0.3	2	0.8
中国		3	0.7	2	0.6	2	0.8
四国		1	0.2	1	0.3	0	0.0
九州		5	1.1	6	1.9	4	1.6
留学生		24	5.3	15	4.6	13	4.9
合計		446	100.0	324	100.0	263	100.00

(6)法人が設置する他の教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数を平成22年5月1日時点で作表して下さい。

法人が設置する他の教育機関の現状(平成22年5月1日現在)

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
文化女子大学	服装学部・造形学部 東京都渋谷区代々木3-22-1 現代文化学部 東京都小平市上水南町3-2-1	920	3,850	3,790
文化女子大学大学院	生活環境学研究科 東京都渋谷区代々木3-22-1 国際文化研究科 東京都小平市上水南町3-2-1	34	70	65
文化ファッション大学院大学	東京都渋谷区代々木3-22-1	80	160	143
文化服装学院	東京都渋谷区代々木3-22-1	2,020	5,080	3,997
専門学校文化服装学院広島校	広島県広島市中区上八丁堀7-15	85	170	110
文化外国語専門学校	東京都渋谷区代々木3-22-1	420	600	246
文化女子大学附属すみれ幼稚園	東京都多摩市諏訪 4-11	90	300	234
文化女子大学附属幼稚園	北海道室蘭市高砂町 3-11-50	35	105	68

(7)その他

評価員が誤解しないように事前に知ってもらいたい事項や事情があれば、記述して下さい。

本学は、学園組織の中に収益事業部門を置いて収益事業を展開し、その収益を学校会計に寄附することによって健全な収支のバランスを維持していることを特色としている。

収益事業としては、(1)出版業、(2)物品販売業、(3)旅館業、(4)代理業、(5)索道運送業、(6)不動産賃貸業・管理業、(7)駐車場業（寄附行為第5条）を掲げている。

このうち、出版業については「文化出版局」が雑誌（装苑、ミセス他）、書籍の発行に当たり、物品販売業に関しては文化事業局に購買事業部を置いて、学園内外に主として服装教育に関連する学用品、書籍、什器等を販売している。

一方、不動産賃貸業、管理業、駐車場業については、学園管理本部にビル管理室を置いて「新宿文化クイントビル」とその駐車場の運営に当たっている。

これら収益事業を通じた収益金による寄附が、本学の教育・研究を支える力となり、また、キャンパスの整備にも貢献している。

- ◆参考資料
- 1 学校法人文化学園抄史
 - 2 代々木の杜から世界へ 文化学園80年史

《 I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標 》

【建学の精神、教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

本学は、服装教育に主眼を置く文化学園の中に短期大学として創立された。その点で、建学の精神・教育理念は、昭和15年に「鬘訓」として定められた「互尊礼譲」「滅私尽務」「創造進新」に依拠するものであった。一方、短期大学創立当時の教育理念に、専門的職業的な知識技能の習得と豊かな美的情操と旺盛な研究心の育成が掲げられたこと、また、生活造形学科の設置に際しては、現代生活のより良き創造のための審美性と機能性の追求が強調されたことにも関連して、「創造進新」（常に新しい分野を開拓し、そして常に進歩的であれ）に重きをおく校風が次第に形成されていった。そして、昭和39年に文化女子大学が創立され、本学と併設大学とが連携して教育研究に取り組むシステムが成立するに及び、鬘訓は新しく「新しい美と文化の創造」と表現されるようになり、学則に明記して建学の精神・教育理念とするとともに、教育目的・教育目標に反映させるものとなっている。すなわち、「新しい美と文化の創造」はいつの時代にもいかなる社会にも共通する価値創造の理念であるとともに、本学が専門領域として教育研究の主眼を置く「服装」「生活造形」に通底する基本理念である。

この両分野の専門教育を通じて時代をリードする「新しい美」を追求し、次世代の「文化」を創造する感性と能力を有する人材の養成が、本学の教育理念である。

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

1) 学生への周知

学生へは学生手帳・履修要項・本学ホームページ・入学案内に記載、学科別掲示板に掲示、その他に、入学式における学長の式辞を始め、1年生の5月に長野県飯山市にある本学の研修施設文化北竜館で行われる必修科目「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」において説明している。

2) 保護者への周知

保護者へは入学式後に行う保護者懇談会において、主任教授から周知している。

3) 教職員への周知

教職員へは学生手帳と履修要項を全員に配布することによって周知している。

また、毎年度初めに教員・職員合同で行う「全学FD・SD研修会」や創立記念式典、新年年頭挨拶の際など、年間を通じて様々な機会に口頭や文書等で学長から繰り返し周知している。新採用教職員については就業式の際、学長講話により周知徹底している。

- ◇添付資料
- 1 平成22年度 文化女子大学短期大学部学則
 - 2 Student's Manual 履修要項 2010
 - 3 入学案内2011（サマーオープンカレッジパンフレット含む）
- ◆参考資料
- 3 文化女子大学ホームページ（建学の精神）
<http://bwu.bunka.ac.jp/outline/kengaku/index.html>
 - 4 学生手帳 2010（建学の精神）

【教育目的、教育目標について】

(1)多くの短期大学が複数の学科等を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います（例えば、設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標ならびにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

本学は、短期大学（昭和25年、服装科）として創立するに当たり「学生に良識ある社会人としての教養を得させるとともに服装に関する専門的職業的な知識技能を修めさせて豊かにして深い美的情操と旺盛な研究心を養い、服装の改善を通して我が国文化の向上に貢献できる女性を育成する」ことを教育目的として掲げた。また、生活造形科（当時）の設置（昭和40年）に当たっては、「現代社会が真に必要とするデザイン教育は、現代生活のよりよき創造のために、科学的・審美的側面と、生活の機能性との関連においてなされるべきものでなければならない」という観点に立った人材養成を教育目的に掲げている。すなわち、「生活造形に対しての正しい理念をもった人材即ち秩序ある生活設計の担い手としての家庭人、更に産業界のデザイン部門における指導的実務担当者として資質を涵養し広く社会に貢献し得る健康にして良識ある有能な女性を育成すること」を教育目的、教育目標としている。これら設置当初の理念は、時代を越えて本学の教育に継承されているが、社会や産業界の変化に呼応して教育の具体的内容は変更を余儀なくされたといつてよい。

したがって、現在本学は「新しい美と文化の創造」を建学の精神とし、学校教育法の定めにより、「社会人として必須な教養を体得させるとともに、社会に貢献し得る良識ある有能な女性を育成する」ことを、教育目的、教育目標の根幹においている。

服装学科・生活造形学科それぞれの教育目的、教育目標は学科設置当初の基本理念を踏まえつつ、社会や産業界、生活や文化の変化を念頭に置いたものに変容している。

すなわち、両学科とも、短期大学としての社会的使命に立脚した実践的教育と良識ある社会人の育成を目標にしている。同時に専攻科被服専攻も共通の理念に立って、より専門性を追求し、高度な技術の習得等の実践的能力を高めて社会に貢献し得る人材の育成を教育目的としている。

1) 服装学科の教育目的や教育目標

服装学科は、服装の造形及び流通に関する専門的な知識・技術を習得するとともに、良識ある社会人としての教養を体得し、社会と服飾産業界に貢献し得る人材の育成を教育目的に掲げている。加えて、本学科は以下の2コースを設置している。

①ファッションクリエイティブコース

主として服装の造形に関する基礎知識の習得と服装造形の実践的教育を行い、ファッションデザイナー、パタンナー等の育成を通じて、産業界に貢献する。

②ファッションビジネスコース

主としてファッションの流通に関する基礎知識の習得と販売や仕入れ、店舗運営に関する技術を習得するための実践的教育を行っている。

2) 生活造形学科の教育目的や教育目標

生活造形学科は、日常生活にかかわるモノづくり・デザインから「生活造形」を

I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

とらえ、その専門に関わる実践的教育を展開し社会人、職業人として有能な人材を育成することを教育目的としている。

3) 専攻科被服専攻の教育目的や教育目標

専攻科被服専攻は、ファッションクリエイティブコースの上級コースとして位置付けられており、服装造形に関するより高度な技術の習得を教育目的としている。

(2)それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在はどういう方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

それぞれの学科の教育目的や教育目標は、文化女子大学短期大学部学則第1条及び第3条に規定し、あわせて本学ホームページでも公開している。

学生に対しては入学時の全学的なオリエンテーション期間及び「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー－」で教員・学生が一体となり、その目的を確認し、徹底を図っている。

また、クラス担任制をとっているので、クラス集会等を活用して理解を深めている。服装学科では平成18年度から2年生との合同オリエンテーションで、2年生から1年生への指導を直接行っている。生活造形学科でも平成22年度から同様の合同オリエンテーションを始めた。一方教職員に対しては、両学科とも月次の学科会議等を通じて周知に努めている。

◇添付資料 1 平成22年度 文化女子大学短期大学部学則

◆参考資料 5 文化女子大学ホームページ（文化女子大学短期大学部学則）

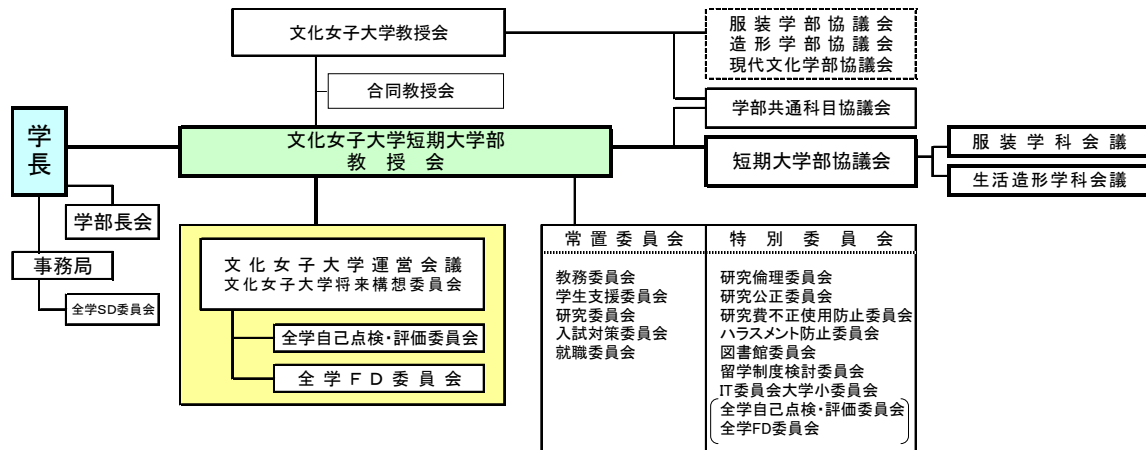
http://bwu.bunka.ac.jp/rules/school_rules.html

【定期的な点検等について】

(1)建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

本学の教育目的や教育目標を確認し、点検を行う組織としては「短期大学部教授会」、併設大学との「合同教授会」「文化女子大学運営会議」「文化女子大学将来構想委員会」がある。学科ごとの教育目的や教育目標の点検は、自己点検・評価として毎年行われる。その結果は全学自己点検・評価委員会が中心となって本学教授会、合同教授会、文化女子大学運営会議・文化女子大学将来構想委員会に報告する。その結果を受けて必要に応じて短期大学部協議会や各学科会議で点検・検討し、教授会に報告する。それらの検討事項は「文化女子大学・文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書」（詳細はP115X改革・改善【自己点検・評価について】(2)の項目参照）に掲載し、毎年記録している。なお、教授会として審議・決定した事項については言うまでもなく短期大学部教授会議事録に記録している。

教授会、大学運営会議、将来構想委員会には規程に基づく事務局職員も構成員となっており、教員と職員が協働で討議・確認をしている。最新の見直しとしては、平成21年度の学則改定において両学科の人材養成目的を検討し文言を新たなものとした。



建学の精神や教育理念の点検を行う組織図

- ◆参考資料
- 6 文化女子大学短期大学部教授会規程
 - 7 文化女子大学運営会議規程
 - 8 文化女子大学将来構想委員会規程
 - 9 平成21年度 文化女子大学運営会議・将来構想委員会議事録
 - 10 文化女子大学短期大学部協議会規程
 - 11 平成21年度 文化女子大学短期大学部教授会議事録

(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

建学の精神や教育理念の解釈については、社会や産業界の変化、学生及び保護者等の大学教育への期待や要望を踏まえながら、個々の教員はもとより、学内諸機関において、日常的な話題となることが多い。これら教員・職員間の考え方や意見は、学科会議を経て、協議会に集約され、一定のテーマのもとに解釈の見直しに向けて常置委員会や特別委員会において議論される流れになっている。これら議論の大筋は、大学運営会議、将来構想委員会での審議を経て取りまとめられる。

いずれにせよ、解釈の見直し等に関する案件は、教授会へ提案され結論とされる一方、最終的には理事会の承認を得ることとされている。

この結論に基づいて教育目的や教育目標については常置委員会、協議会を経て、教授会で決定される。そして、それらを学生や教職員に周知することに関しては、各常置委員会、特別委員会、事務局の各担当部門が役割に応じて行っている。

I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

【特記事項について】

(1) この《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

本学の建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標は、昭和15年に定められた饗訓に由来しているが、当時の社会状況や教育を取り囲む環境は、今日と大きく異なるものがある。そのため、前述の通り「創造進新」（常に新しい分野を開拓し、そして常に進歩的であれ）を今日的に解釈することと、本学が設置する両学科の教育目標と合致するとの判断に立って、建学の精神を「新しい美と文化の創造」としている。一方、短期大学教育の特色の重要な側面に実践的教育があるが、この点は社会や文化の変化に伴い、新たな解釈と見直しを行い、必要に応じて教育内容を変更していくこととしている。最新の見直しとしては、平成21年度の学則改定において両学科の人材養成目的を検討し文言を新たなものとした。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

《Ⅱ 教育の内容》

【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。

服装学科教育課程												(平成22年5月1日現在)	
科目の 種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備 考	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任			
総合 教養 科目	A (人間と文化)	文学	○				2				○	18 (1)	生活造形学科と合併
		美術	○				2				○	60 (1)	〃
		日本の文化	○				4				○	9 (1)	〃
		女性論 (近代史の女性たち)	○				2					58 (1)	平成22年度休講
		中国のことばと文化	○				2				○	32 (1)	生活造形学科と合併
		文章作法	○				2		○			16 (1)	
		史学	○				2				○	61 (1)	生活造形学科と合併
		英語の世界	○				2				○	22 (1)	〃
		人間と文化Z	○				2		○		○	5 (1)	〃
	B (人間と社会)	社会学	○				2				○	47 (1)	〃
		国際理解論	○				2				○	78 (1)	〃
		経済学	○				2				○	34 (1)	〃
		テレビ・ジャーナリズム論	○				2				○	26 (1)	〃
		法学	○				2				○	49 (1)	〃
		文化人類学	○				2				○	5 (1)	
		マスメディアの現場を知る	○				2				○	23 (1)	生活造形学科と合併
		人間と社会X	○				2				○	17 (1)	〃
		人間と社会Z	○				2						平成21・22年度休講
	C (人間と自然)	物理学	○				2				○	12 (1)	生活造形学科と合併
		生物学	○				2			○		29 (1)	〃
		数学	○				2				○	18 (1)	〃
		情報とコンピュータ	○				2				○	81 (2)	
		スポーツ演習		○			2				○	76 (2)	
		心理学	○				2				○	97 (1)	
		化学	○				2			○		24 (2)	
		臨床心理学	○				2				○	54 (1)	
		人間と自然Z	○				2				○	12 (1)	生活造形学科と合併
外国語科目	英語Ⅰ		○			2		○		○	169 (6)		
	フランス語Ⅰ		○			2				○	22 (2)		
	日本語Ⅰ		○			2				○	9 (1)		
	日本語表現		○			2		○			3 (1)	生活造形学科と合併	
	英語Ⅱ		○			2				○	12 (1)	〃	
	フランス語Ⅱ		○			2				○	2 (1)	〃	
	日本語Ⅱ		○			2				○	2 (1)	〃	
	オールイングリッシュ		○			2				○	5 (1)	〃	
形成 キャリア 教育 科目	キャリアデザイン (導入編) -フレッシュマンキャンパス-		○		1			○			188 (1)		
	キャリアデザイン (展開編) -コースセミナー-		○		1			○			198 (1)		
	クリエイティブキャリア論	○				2				○	43 (1)		

Ⅱ 教育の内容

科目の 種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
共通 必修 科目	服装学概説	○			2			○			189 (1)	
	服装社会学	○			2					○	193 (1)	
	服装デザイン	○			2					○	192 (2)	
	カラーコーディネート論	○			2					○	199 (2)	
	ファッションデザイン画Ⅰ			○	1					○	196 (4)	
	ファッションマテリアル	○			2					○	191 (2)	
	ビジネス実務演習		○		2					○	193 (4)	
	ファッションビジネス論Ⅰ	○			2			○		○	202 (4)	
選 択 科 目	被服管理学	○				2		○		○	139 (2)	
	コンピュータグラフィックス演習		○			2				○	45 (2)	
	ファッションデザイン史	○				2				○	144 (1)	
	コンピュータサイエンス	○				2				○	38 (1)	
	パターンメイキング人体論	○				2				○	54 (1)	
	快適デザイン論	○				2				○	32 (1)	
	日本服装史	○				2				○	91 (1)	
	西洋服装史	○				2				○	103 (1)	
	流行論	○				2				○	144 (1)	
	インテリアデザイン論	○				2				○	115 (1)	
	服装心理学	○				2				○	82 (1)	
	和裁			○		2				○	35 (1)	
専 門 教 育 科 目	学生チームによるブランド ビジネスモデルの構築		○			2		○			39 (1)	
	ファッション造形論Ⅰ	○			2			○			91 (2)	
	ファッション造形論Ⅱ	○			2			○			93 (2)	
	ファッション造形実習Ⅰ			○	3			○			91 (2)	
	ファッション造形実習Ⅱ			○	2			○			93 (2)	
	立体裁断演習Ⅰ		○		2			○			94 (3)	
	ファッションデザイン演習Ⅰ		○		1			○			96 (2)	
	ファッションデザイン画Ⅱ			○	1					○	101 (3)	
	ファッションクラフト(刺しゅう)			○	1					○	93 (2)	
	ファッションクラフト(編物)			○		1				○	57 (2)	
	ビジネスキャリア論	○				2				○	42 (1)	
	ファッションコーディネート論	○				2		○			87 (2)	
	ファッション造形論Ⅲ	○			2			○			90 (3)	
	ファッション造形論Ⅳ	○			2			○			91 (3)	
	ファッション造形実習Ⅲ			○	3			○			87 (3)	
	ファッション造形実習Ⅳ			○	2			○			87 (3)	
	ファッションデザイン演習Ⅱ		○		1			○			87 (3)	
	ファッションクラフト(服飾造花)			○		1				○	40 (1)	
	ファッションクラフト(帽子)			○		1				○	47 (2)	
	アパレルCAD演習		○			1		○			29 (2)	
	立体裁断演習Ⅱ		○			2		○			37 (2)	
	ファッションデザイン画Ⅲ			○		2				○	27 (1)	
	平面作図			○		2		○			35 (1)	
	アパレル商品学	○				2				○	59 (1)	
	デザイン発想	○				2				○	43 (1)	

Ⅱ 教育の内容

科目の 種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門 教育 科目	ビジネスキャリア論	○			2					○	100 (2)	
	ファッションコーディネート論	○			2			○			101 (2)	
	アパレル製品論Ⅰ	○			2			○			99 (2)	
	アパレル製品製作実習Ⅰ			○	3			○			100 (2)	
	ファッションマーケティング論Ⅰ	○			2					○	100 (2)	
	ファッションビジネス論Ⅱ	○			2			○			101 (2)	
	ビジネスPC演習		○		2					○	102 (2)	
	マーチャンディング演習		○		2					○	102 (2)	
	アクセサリクラフト (刺しゅう・編物)			○		1				○	12 (1)	
	ファッションデザイン画Ⅱ			○		1				○	101 (3)	
	バイヤー実務論	○			2					○	108 (3)	
	ファッションマーケティング論Ⅱ	○			2					○	109 (3)	
	ファッションビジネスセミナー	○			2			○			109 (1)	
	販売実務演習		○		2					○	108 (3)	
	ディスプレイ演習		○		2					○	109 (3)	
	アパレル製品論Ⅱ	○			2			○			110 (3)	
	アクセサリクラフト (服飾造花・帽子)			○		1				○	8 (1)	平成21年度「ファッションクラフトB」
	立体裁断演習		○		2			○			6 (1)	
	アパレル製品製作実習Ⅱ			○	2			○			25 (2)	
	アパレル製品製作実習Ⅲ			○	2			○			7 (1)	
	ファッション情報論	○			2					○	62 (1)	
	アパレル生産・流通論	○			2			○			33 (2)	
	グラフィックPOPデザイン演習		○		2					○	50 (2)	
	店舗設計実習			○	2					○	53 (2)	

生活造形学科教育課程

(平成22年5月1日現在)

科目の 種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
総合 教育 科目	文学	○				2				○	10 (1)	服装学科と合併
	美術	○				2				○	22 (1)	〃
	日本の文化	○				4				○	4 (1)	〃
	女性論 (近代史の女性たち)	○				2					4 (1)	平成22年度休講
	中国のことばと文化	○				2				○	1 (1)	服装学科と合併
	文章作法	○				2				○	23 (1)	
	史学	○				2				○	44 (1)	服装学科と合併
	英語の世界	○				2				○	6 (1)	〃
	人間と文化Z	○				2			○	○	3 (1)	〃
	社会学	○				2				○	13 (1)	〃
	国際理解論	○				2				○	25 (1)	〃
	経済学	○				2				○	3 (1)	〃
	テレビ・シネマリズム論	○				2				○	6 (1)	〃
	法学	○				2				○	6 (1)	〃
	文化人類学	○				2				○	17 (1)	
	マスメディアの現場を知る	○				2				○	24 (1)	服装学科と合併
	人間と社会X	○				2				○	3 (1)	〃
	人間と社会Z	○				2						平成21・22年度休講

Ⅱ 教育の内容

科目の 種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備 考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
総合 教養 科目 (人間と自然)	物理学	○				2				○	3 (1)	服装学科と合併
	生物学	○				2		○			2 (1)	〃
	数学	○				2				○	8 (1)	〃
	造形と情報学	○				2				○	27 (1)	
	スポーツ演習		○			2				○	15 (1)	
	心理学	○				2				○	35 (1)	
	化学	○				2		○			9 (1)	
	臨床心理学	○				2				○	8 (1)	
	人間と自然Ⅱ	○				2				○	0	服装学科と合併
外国語 科目	英語Ⅰ		○			2				○	26 (2)	
	フランス語Ⅰ		○			2				○	20 (1)	
	日本語Ⅰ		○			2				○	4 (1)	
	日本語表現		○			2			○		2 (2)	服装学科と合併
	英語Ⅱ		○			2				○	11 (1)	〃
	フランス語Ⅱ		○			2				○	3 (1)	〃
	日本語Ⅱ		○			2				○	2 (1)	〃
	オーラルイングリッシュ		○			2				○	1 (1)	〃
形成 教育 科目 キャリア 科目	キャリアデザイン（導入編） －フレッシュマンキャンプ－		○		1			○			45 (1)	
	キャリアデザイン（展開編） －コースセミナー－		○		1			○			81 (1)	
	クリエイティブキャリア論	○				2				○	26 (1)	
専門 教育 科目	デザイン論	○			2			○			46 (1)	
	美術概論	○			2					○	45 (1)	
	色彩学	○			2					○	44 (1)	
	住居学	○			2					○	46 (1)	
	基礎造形ⅠA			○	2					○	45 (1)	
	基礎造形ⅠB			○	2					○	44 (1)	
	生活デザイン基礎演習A		○		2			○		○	42 (1)	
	生活デザイン基礎演習B		○		2			○			32 (1)	
	色彩計画	○			2					○	40 (1)	
	インテリアデザイン論	○			2			○			28 (1)	
	インテリアデコレーション概論	○			2			○			31 (1)	
	素描			○	2					○	33 (1)	
	絵画			○	2					○	20 (1)	
	彫刻			○	2					○	27 (1)	
	デザイン表現素材演習		○		1					○	33 (2)	
	染色実習			○	2			○			22 (1)	
	織物実習			○	2			○			32 (1)	
	プリントデザイン実習			○	2			○			30 (1)	
	基礎設計製図A		○		2			○			15 (1)	
	生活雑貨デザイン演習A		○		2			○		○	41 (1)	
	生活雑貨デザイン演習B		○		2			○			30	

Ⅱ 教育の内容

科目の 種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備 考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門 教育 科目	インテリアデザイン演習		○			2		○			26 (1)	
	基礎設計製図B		○			2		○			15 (1)	
	生活デザイン論	○			2					○	76 (1)	
	近代のデザイン	○				2				○	62 (1)	
	美術史	○				2				○		平成22年度新設
	文様の世界	○				2				○	52 (1)	
	住居計画	○				2		○			32 (1)	
	生活雑貨論	○				2				○	29 (1)	
	基礎造形ⅡA		○			2		○			50 (1)	平成21年度 「基礎造形演習」
	基礎造形ⅡB		○			2				○		
	CAD演習		○			2				○	21 (1)	平成21年度 「インテリアデザイン演習Ⅱ」
	模型表現演習		○			2				○		
	立体表現の図学		○			1		○			43 (1)	
	造形心理学	○				2				○	75 (1)	
	コンピュータ実務演習		○			1				○		平成22年度新設
	造形とCG演習		○			1				○	44 (1)	平成21年度 「造形とCG演習B」
	イラストレーション実習			○		2		○		○	46 (1)	平成21年度 「生活雑貨デザイン演習」
	生活造形グループワーク			○		2		○		○		平成22年度新設
	生活雑貨デザイン実習			○		4		○		○	46 (1)	平成21年度 「生活雑貨デザイン実習Ⅱ」
	インテリアデザイン実習			○		4		○			21 (1)	
	創作実習			○	4			○		○	81 (3)	

専攻科被服専攻教育課程

(平成22年5月1日現在)

科目の 種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備 考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
必修 科目	特別講義	○			2			○			34 (1)	
	ショー企画演習		○		2					○	34 (1)	
	服装造形論及び実習Ⅰ			○	6			○			34 (1)	
	服装造形論及び実習Ⅱ			○	6			○			34 (1)	
	立体裁断A			○	1			○			34 (1)	
	立体裁断B			○	1			○			34 (1)	
選択 科目	ファッションマテリアル特論	○				2				○	11 (1)	
	アパレル産業論	○				2				○	6 (1)	
	ディスプレイ			○		2				○	27 (1)	
	ファッションクラフト			○		2		○			20 (1)	
	立体裁断演習		○			2				○	11 (1)	
	工業用パターンメイキング		○			2				○	10 (1)	
	アパレルCAD演習		○			2		○			1 (1)	
	ファッションデザイン画演習		○			2				○	3 (1)	
	インターンシップ (企業研修)		○			2		○			11 (1)	

Ⅱ 教育の内容

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

本学は教育課程を「総合教養科目」「外国語科目」「キャリア形成教育科目」「コラボレーション科目」「専門教育科目」「自由選択科目」の6つの柱で編成している。

特に「コラボレーション科目」「キャリア形成教育科目」「専門教育科目」のカリキュラムは、様々な工夫を凝らした本学の特徴ある科目である。

短期大学設置基準では卒業要件単位は62単位以上であるが、本学では平成10年度入学生から卒業要件単位を70単位以上とし、教育内容の充実を図っている。

1) 服装学科・生活造形学科共通

①総合教養科目

総合教養科目はA系列（人間と文化）・B系列（人間と社会）・C系列（人間と自然）にわかれ、各系列に9科目ずつ配置している。卒業要件単位としては各系列から1科目以上必ず選択し、合計8単位以上を取得することとなっている。

②外国語科目

「英語Ⅰ・Ⅱ」「オーラルイングリッシュ」「フランス語Ⅰ・Ⅱ」「日本語Ⅰ・Ⅱ」「日本語表現」を配置している。卒業要件単位としてはいずれかの外国語科目のⅠ（2単位）を取得しなければならない。

③キャリア形成教育科目

1年次の「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」、2年次の「キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー」で、自己の進路、専門知識、人生をより具体的に設計することを目的としている。各1単位、いずれも必修である。

また、2年次に「クリエイティブキャリア論」選択科目2単位も開講している。

④コラボレーション科目

コース、学部、学科、学年を越え、併設大学学生ともコラボレートし、専門性の異なる複数の教員（専任・兼任）や、海外提携校、産業界、地域社会とのコラボレーションによるユニークな科目を毎年多数企画している。卒業要件単位としては2単位以上取得することとしている。

⑤自由選択科目

「総合教養科目」「外国語科目」「コラボレーション科目」「専門教育選択科目」でそれぞれ指定されている卒業要件単位以上履修した場合の教科目、または他学科の教科目を履修した場合、それらの教科目は「自由選択科目」と見なされる。卒業要件単位は2単位である。

2) 服装学科の専門教育科目

服装学科（ファッションクリエイティブコース・ファッションビジネスコース）の専門教育科目は、専門領域の基礎知識と高度な専門知識に加え、実習という3つの柱で成立している。

両コース共通の必修科目と選択科目については21科目（2年間）中、講義16科目（76.2%）、演習3科目（14.3%）、実習2科目（9.5%）を開講している。

ファッションクリエイティブコースは、24科目（2年間）中、講義8科目（33.3%）、

演習 5 科目 (20.8%)、実習 11 科目 (45.9%) であり、服作りのためのデザイン、パターンメイキング、縫製技術等の理論と技術の習得を目的としている。

ファッションビジネスコースは、24 科目 (2 年間) 中、講義 11 科目 (45.9%)、演習 6 科目 (25%)、実習 7 科目 (29.1%) となっている。ファッションビジネスの流れや店舗経営、ディスプレイ、バイヤー論と技術等、ファッションの流通全般に関する知識と技術の習得を目的としている。

なお、1 年次の必修科目については両コース 16 科目、選択科目はファッションクリエイティブコース 7 科目、ファッションビジネスコース 6 科目、2 年次の必修科目はファッションクリエイティブコース 5 科目、ファッションビジネスコース 6 科目、選択科目は両コース 17 科目で構成しており、幅広く学べる充実したカリキュラム構成となっている。

専任教員については、服装造形における理論と作品製作関連科目、デザイン、ファッションビジネス、コンピュータ関連科目、マテリアル等の主要な科目に配置している。

3) 生活造形学科の専門教育科目

専門科目全体としては、講義科目を充実させるとともに、実習及び演習科目を重視した編成を特徴としている。42 科目 (2 年間) 中、講義 14 科目 (33.3%)、演習 15 科目 (35.7%)、実習 13 科目 (31%) である。1 年次は必修 6 科目、選択 17 科目、2 年次は必修 2 科目、選択 17 科目で構成し、専門性の異なる科目の選択を可能としており、デザインの幅広い領域について学習できるようにしている。

専任教員の専門は、グラフィックデザイン (パッケージデザイン等を含む)、織物、染物、インテリアデザイン (建築、家具等インテリアコーディネートを含む) 等の多岐にわたる。

4) 専攻科被服専攻の専門教育科目

専攻科被服専攻は、服装学科の課程を基礎とし、より発展させた課程であるため、教養科目は開講せず専門教育に特化し、専門教育科目 15 科目 (必修 6 科目、選択 9 科目) を開講している。特殊素材の扱いや個別製作においての縫製、技術を習得する。そして製作者が着用する自作自演のファッションショーの実施や、「インターシップ (企業研修)」を開講し、企業見学から業務体験まで幅広く体験することにより、より実践的な内容を学べるように配慮している。なお、服装学科同様、専任教員を担任・副担任として配置し、専門教育科目の指導と学生支援に当たっている。

◇添付資料 2 Student's Manual 履修要項 2010

4 授業計画 (Syllabus) 新都心キャンパス 2010

【服装学科】 【生活造形学科】 【専攻科】

Ⅱ 教育の内容

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

本学は、現代人にふさわしい教養教育と、社会で幅広く活躍できる人材育成のための教育に力を注ぎ、学科・コースごとに専門教育科目や総合教養科目の中で、積極的に資格取得の対策を盛り込み、資格取得率の向上を図っている。

各学科等で取得可能な免許・資格

免許・資格等の名称	学科等	服装学科	生活造形学科	専攻科 被服専攻	取得のための履修方法等
ピアヘルパー		○	○		在学中に心理学（2単位）、臨床心理学（2単位）、カウンセリング入門（2単位）を履修
カラーコーディネーター検定2級		○	○		カラーコーディネイト論（2単位）、色彩学（2単位）、色彩計画（2単位）
カラーコーディネーター検定3級		○	○		カラーコーディネイト論（2単位）、色彩学（2単位）、色彩計画（2単位）
ファッションビジネス能力検定2級		○			ファッションビジネス論Ⅱ（2単位）
ファッションビジネス能力検定3級		○			検定試験に準拠している教科書を授業で活用し、受験対策としている。ファッションビジネス論Ⅰ（2単位）
ファッション販売能力検定2級		○			ファッションビジネス論Ⅱ（2単位） 販売実務演習（2単位）
ファッション販売能力検定3級		○			ファッションビジネス論Ⅰ（2単位） 販売実務演習（2単位）
ブロンズライセンス認定試験		○			ファッションコーディネイト論（2単位）にて資格取得対策を行っている。
パターンメイキング技術検定2級		○		○	立体裁断演習（2単位）、工業用パターンメイキング（2単位）にて資格取得対策を行っている。
パターンメイキング技術検定3級		○		○	平面作図（2単位）、立体裁断演習（2単位）にて資格取得対策を行っている。
TOEIC		○	○		平成22年度は9月と3月に学内で試験実施予定。 希望者には事前に担当教員が集中講義を行う。

◇添付資料 2 Student's Manual 履修要項 2010

3 入学案内 2011（サマーオープンカレッジパンフレット含む）

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等どのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

履修要項のカリキュラム表には、選択科目の履修方法をわかりやすく備考欄に記載し、卒業要件単位も一覧表にして掲載している。シラバスには必修・選択の別を記載し、半期開講科目は15項目、通年開講科目は30項目にわけて詳細な授業計画を記載しており、選択科目を適切に判断して選択する道標となっている。

毎年度、前期授業開始前に全学的なオリエンテーション期間（以下「オリエンテーション」という）を設定し、期間中に履修ガイダンスの時間を設け詳細な履修指導を行っている（1年生1時間30分・2年生1時間）。また、クラス集会において、クラス担任・副担任が個別に履修相談にのり、さらにきめ細やかな学生指導と授業内容の補足等を行っている。担任・副担任は年間を通じてクラス集会や授業の際、教務課は年間を通じて窓口において、個別に履修相談に応じている。

時間割については、教員配置及び教室使用状況の許す限り、選択科目が重ならない

よう工夫しており、ほとんどの選択科目が重複せず履修可能となっている。服装学科 2 年生では、コンピュータ室やアパレル CAD 室の収容人数に対応して前年度中に説明会を行い、履修希望者数を確認したうえで次年度の時間割編成を決め、開講数や人数調整を行い、より多くの学生が履修できるよう対応している。

専攻科被服専攻については、オリエンテーションの履修ガイダンスの説明に加え、クラス集会を通じて担任・副担任から、学生の進路に合わせ専門性の高い科目をバランスよく履修できるように指導している。

◇添付資料 2 Student's Manual 履修要項 2010

4 授業計画 (Syllabus) 新都心キャンパス 2010

【服装学科】 【生活造形学科】 【専攻科】

◆参考資料 12 平成22年度 時間割

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件 (必修単位の修得、学生納付金の納付等) を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

服装学科・生活造形学科 卒業要件単位

	服 装 学 科	生活造形学科
総 合 教 養 科 目	8 単位以上	8 単位以上
外 国 語 科 目	2 単位以上	2 単位以上
コラボレーション科目	2 単位以上	2 単位以上
キャリア形成教育科目	2 単位	2 単位
専 門 教 育 科 目		
必 修 科 目	15 単位	18 単位
選 択 科 目	39 単位以上	36 単位以上
自 由 選 択 科 目	2 単位以上	2 単位以上
合 計	70 単位以上	70 単位以上

専攻科被服専攻 修了要件単位

必 修 科 目	18 単位
選 択 科 目	4 単位以上
合 計	22 単位以上

卒業要件の周知方法としては、オリエンテーションで行う履修ガイダンス及び、担任・副担任がクラス集会を通じて詳細な説明を行い、相談を受ける時間を設けている。

また、卒業要件単位・履修方法等の個別対応が必要な学生には、クラス担任・副担任が指導を行っている。

学生が履修届を提出する際にも記入ミスがないか担任・副担任、教務課がチェックした後コンピュータに入力し、さらに全学生へチェックリストを配付して卒業要件単位を充足しているか各自確認させている。単位不足がある場合はクラス担任を通じて、あるいはポータルサイトを利用して教務課窓口 to 学生を呼び、卒業要件単位を充足できるよう個別指導を行っている。

単位履修に関する細則第 6 条第 3 号により、学費未納であっても定期試験は受験できるが、学費納入が確認されるまでは成績評価はされず、単位認定はできない。その

Ⅱ 教育の内容

ため学費未納のまま卒業が認定されることはない。この細則も履修要項に記載し、オリエンテーションにおける履修ガイダンスやクラス集会等で学生に説明し、周知を図っている。

◇添付資料 2 Student's Manual 履修要項 2010

4 授業計画 (Syllabus) 新都心キャンパス 2010

【服装学科】 【生活造形学科】 【専攻科】

(6)教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者(学科長、学科主任等。以下「学科長等」という)が記述して下さい。

本学は、不断に教育課程の見直しを行うなかで、改善等を図ってきた。

いわゆる短期大学設置基準の大綱化を契機に卒業要件単位を70単位以上とし、総合教養科目の領域区分と必修単位数の見直しを行った。その後、人間力の育成と総合教養のさらなる充実を図るための「コラボレーション科目」や、学生生活のみならず卒業後も含めた豊かな人生をデザインできるような「キャリア形成教育科目」を開講するとともに、コース編成を変更し、カリキュラムの改定を重ねてきている。教育課程の見直しの結果、専門教育科目の現状は下記の通りである。

1) 服装学科

「ファッションクリエイティブコース」は、平成16年度まではコースの中で「テクニク専攻」と「デザイン専攻」にわかれていたが、コースの教科内容等の見直しを行い、専門性を高めるために平成17年度から両専攻の特色ある部分を取り入れ、「ファッションクリエイティブコース」に一本化した。さらに平成20年度からは技術とデザインの強化を図るため「立体裁断演習Ⅰ」(2単位)を1年次必修とし、「ファッションデザイン演習Ⅰ」(1単位)「ファッションデザイン演習Ⅱ」(1単位)をそれぞれ1年次、2年次に配し、必修とした。

「ファッションビジネスコース」は、平成18年度にファッションビジネスの現場に必要な知識と技術の習得、また教育効果を上げるために、開講年次の科目配置を見直した。さらに、科目内容を反映したわかりやすい科目名への変更や、ファッションビジネスの現場で必要とされる知識・応用力を実践的に身に付けるため、科目の開講年次、開講時期等について再検討し、平成19年度から施行している。また、ビジネスの現場での実践力強化のために模擬店舗実習室である「ショップ D60」で行う「店舗設計実習」(2単位)をより充実させた。さらに、コースの特性を考慮し、ファッション業界に携わる特別講師によるオムニバス形式の「ファッションビジネスセミナー」(2単位)を新設し、企画、生産、専門店、百貨店における流通や店舗設計販売戦略などについて、リアルタイムに業界の現状を学ぶことが可能となった。

2) 生活造形学科

平成10年度に本学科がコース編成されて以来、これまでに生活造形学科会議や将来構想委員会で教育課程の見直しが幾度か行われたが、近年では平成18年度から平成19年度にかけて、社会状況及び入学生の変化に伴う教育課程の見直しを行った。

本学科は、平成20年度入学生まで3コース(生活雑貨デザインコース、インテリア

デコレーションコース、インテリアデザインコース）を置き、各コースの特色を生かした教育課程を実施してきた。しかし、入学時に進路の方向性が定まらない学生の増加に伴う改善策として、コースの境界をなくして一本化を図り、新教育課程による「生活造形学科」として平成21年度入学生を迎えた。

改善の主たる内容は、多様な専門性に対応し幅広く科目履修できること、生活に関わる多様な基礎を幅広く履修できること、進路についての方向性を見えやすくすること等である。

平成22年度2年生には実際のクライアントを設定し、構想・企画から計画・デザイン、製品化に至るデザインワークプロセスの実体験を盛り込んだ科目である「生活造形グループワーク」を新設した。この科目は、上記のデザインワークプロセスを通じた複合的な教育と実社会との連携により、学生にとってリアルな学習が可能であるとともに、卒業後、スムーズに社会に適応できることを期待するものである。この教育成果等の点検を踏まえて新教育課程3年目である平成23年度への改善点を見出したい。

3) 専攻科被服専攻

技術の習得と資格取得を目的とした科目を設置している。専門に特化した内容の科目を多くし、その時代のニーズに合わせた内容を積極的に取り入れることによって、スキルアップを図る実践的な授業を展開している。学生の満足度も非常に高い。

◇添付資料 2 Student's Manual 履修要項 2010

4 授業計画 (Syllabus) 新都心キャンパス 2010

【服装学科】 【生活造形学科】 【専攻科】

【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

授業計画 (Syllabus) (以下「シラバス」という) は統一した様式に基づいて作成している。

学生が科目選択の際、授業内容を把握することが可能で、かつ予習のためにも活用できるように、記述する事項は、科目名 (英字表記併記)、講義・実験・実習・演習の種別、科目担当教員、開講年次、開講期間 (半期、通年)、単位数、授業目的 (到達目標)・方針、各回の授業内容 (半期 15 項目、通年 30 項目)、評価方法、使用教科書、受講者への要望 (準備学習) を掲げている。教員にとっては隣接科目との内容の重複を避け、より整合性のとれた教育内容とするため、また FD 活動にも利用可能なものとなるよう教務委員会が内容を調整・確認している。

平成 21 年度までは冊子で作成し、オリエンテーションで全学生、教職員に配布していたが、平成 22 年度からは Web シラバスとして作成し、本学ホームページに掲載した。

記載内容も見直し「到達目標」や「準備学習」の項目を加えた。

Web シラバスとすることにより、学生は学内のコンピュータールームあるいは自宅のパソコンで閲覧し、必要な科目のみプリントアウトできるため、従来のように冊子のまま持ち運ぶ必要がなくなった。

Ⅱ 教育の内容

シラバス活用については、オリエンテーションの履修ガイダンス、クラス集会等でクラス担任・副担任から、各科目担当教員からは主に初回の授業時、シラバスの記載項目に沿いながら科目全体の流れを説明するなど、それぞれ指導を徹底している。

平成 22 年度からは、基本的にはペーパーレスを図るため冊子としては作成しない方針であったが、新入生に対しては所属学科の科目のみプリントしたものを簡易製本し、オリエンテーションで配布した。教務課では窓口で学生と対面して履修指導に対応するために全学科の科目をプリントアウトしたものを冊子として窓口置き、活用している。

◇添付資料 4 授業計画 (Syllabus) 新都心キャンパス 2010

【服装学科】 【生活造形学科】 【専攻科】

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

1) 服装学科・生活造形学科

本学は、服づくり、ものづくりに興味を持って入学してくる学生が多い。実習科目及び演習科目が多く、履修態度や学業への意欲は極めて良好であり出席状況も良い。学生による授業アンケートに表れたデータを通じても、学業への意欲を受け止めることができる。一方で、少数ではあるが課題提出が著しく遅い学生や、提出期限を過ぎて未提出の学生もいる。このような学生に対しては、補習授業の実施や授業時間外の実習室の利用を認めることで対応している。

近年、心身面の健康に問題があり、欠席が多く、課題が遅れる学生も出てきた。そのような学生に対してはクラス担任・副担任が科目を担当する教員から出欠状況、提出物の未提出等を確認し、学生と連絡を取り合い、個別的な対応を行っている。さらに、保護者との連絡を取りながら、学生課、教務課、医務室、学生相談室のカウンセラーとも連携して対処している。

2) 専攻科被服専攻

本学の最上級生の学年であり、目的意識を持って進学している学生がほとんどであるため、履修態度も良く、勉学意欲も非常に高い。このため、目的に沿った指導が行われ、成果も高く、学生の授業に対する満足度も高くなっている。

【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

本学では平成 13 年度～平成 15 年度に、全学自己点検・評価委員会が中心となって、全教科を対象とした「授業アンケート」を実施した。アンケート内容は学生自身の授業態度に関する設問・授業内容の評価に関する設問・授業担当教員に関する設問・授業の満足度に関する設問・担当教員による自由設問で構成され、4 段階評価を求めるものであった。アンケートの目的は各教員が自ら授業改善の資料として役立てることであり、平成 14 年度・平成 15 年度には、実施報告（授業方法に関する問題意識や改善策を記載）をまとめた「授業アンケート実施報告」の冊子を作成して学内外に公表

した。

この授業アンケートの実施方法では、前・後期の最終授業全てで同一アンケートが実施されるため、学生側から負担軽減への要望が出てきたこと、加えて授業アンケートの結果をより組織的にカリキュラム・授業改善につなげる必要があることなどが共通課題となった。

平成16年度～平成19年度は教務委員会（旧：カリキュラム委員会）が、総合教養科目と専門教育科目の融合を目指して平成16年度より開講したコラボレーション科目を対象としてアンケート調査を実施した。コラボレーション科目は社会や時代のニーズにあったものを取り入れ、毎年、開講科目や科目内容を見直しているため、学生の要望を確認するためのアンケートとして有効に活用された。なお、平成18年度～平成20年度のコラボレーション科目アンケート調査結果は報告書として作成し、全教員に配布した。

平成15年度までの実績を踏まえて全学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「全学FD委員会」という）が中心となり、平成20年度には新しい形式の「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」を実施した。平成15年度までは全ての授業で同一のアンケートを実施していたが、このアンケートは学生が1回のみ回答するものに変更した。アンケートの内容は、学生が授業に取り組む姿勢への設問・所属する学科の授業全体に対する設問・履修登録方法への設問・ポータルサイトに関する設問・科目種別ごとに開講科目数や開講年次に関する設問・充実度のあった科目、苦手だった科目への設問等で構成され、それぞれ5段階評価とし、自由記述欄も設けた。アンケート結果については、学科別の5段階評価統計と自由記述一覧を作成して学長に報告し、学内に公表した。さらに翌年4月には「全学FD・SD研修会」で全教員に対して結果報告をするとともに、研修会で分科会のを設け、教職員が参画してカリキュラム・授業改善に関する議論を行い、成果を報告書としてまとめている。これによって学生からの要望を組織的に受け止め、カリキュラム・授業改善に反映させるよう努力している。

- ◆参考資料 13 授業アンケート実施報告 平成14・15年度
 14 2006「コラボレーション科目」アンケート調査報告書
 15 2007「コラボレーション科目」アンケート調査報告書Ⅰ・Ⅱ
 16 2008「コラボレーション科目」アンケート調査報告書
 17 平成20年度「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」に関する集計表及び結果報告書

（2）短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等）への組織的な取組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者（以下「学長等」という）は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

1) 短期大学全体の授業改善への組織的な取組み

本学では、平成16年度にFD（教員の教育研究活動の向上及び能力開発）を検討・実施するため、「全学ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設置した。この

Ⅱ 教育の内容

委員会の構成員は、将来構想委員会・各常置委員会・特別委員会の委員から学長指名された者と事務局各部長から学長指名された者とされ、全学的組織編成で取り組む委員会である。（平成 22 年度から委員会規程が改定され、将来構想委員会委員の中から学長指名による者、各学部・学科及び短期大学部を含む学部共通科目所属教員の中から学長指名による者、事務局の各部長の中から学長指名による者となった）

また委員会の審議事項として FD の方策に関する事項、教員の研修計画の立案並びに実施に関する事項、学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバックに関する事項等を取り上げることとした。この委員会活動のもとで、学生による授業評価アンケートの改善方策、年度初めに開催していた「学生指導教職員研修会」の内容改善方策等が検討され、FD 活動の推進が図られてきた。

その成果の一つが平成 20 年度に実施した「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」である。また、平成 7 年度～平成 18 年度まで、学生支援委員会（旧：学生生活委員会）と学生課が共催で年度初めに開催してきた「学生指導教職員研修会」は、平成 19 年度より「全学 FD・SD 研修会」と名称を改め、全学 FD 委員会が主催する行事となった。この研修会の特徴は、その前身が「教職員研修会」であったことから、教員の FD 活動と職員の SD 活動を統合し、全学の協同体制による研修活動の場としたことである。

「全学 FD・SD 研修会」は、年度初めに終日にわたるスケジュールで開催され、本学と併設大学すべての教職員が参画する。研修会の内容は午前に学長講話・外部講師講話等があり、午後の分科会ではグループにわかれて、与えられたテーマで討議を行う。その結果は後日報告書にまとめて公表している。この研修会は、教育に関わる課題を、教員・職員を超えて、あるいは教員の専門性を超えて議論する場として有効であり、重要な事柄は組織として検討し、決定を図るためにも重要な全学組織の活動となっている。

また、具体的な改善事項のうちのカリキュラム変更等については、各学科会議・短期大学部協議会等の現場での審議を経て教務委員会に提出され、教授会において決定されることとなっている。

2) 授業改善の現状

授業改善の取り組みは、全学 FD 委員会の活動、全学 FD・SD 研修会、学生による授業評価等が反映されている。その結果、授業の単位となるクラスや履修者数の調整、習熟度別クラス編成、補習も可能な自習室の整備、実務経験者を教員に加えた実践的な授業の充実等、改善が進んでいるといえる。また、教育課程の見直しも行われ、コラボレーション科目やキャリア形成教育科目の開講等は、その結果に基づくものである。

◆参考資料 18 平成19～22年度 全学FD・SD研修会 プログラム・分科会報告書

19 全学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

（3）担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

1) 服装学科・専攻科被服専攻

月 1 回、服装学科会議を開催し、担当授業についての意思の疎通を図っている。

また合同の研究室において、日常的に担当教員同士が学生の状況や授業展開の方法等について連絡を取り協力し合っており、現状では特に問題はないと受け止めている。兼任教員については、研究室長及び科目担当専任教員が、兼任教員と連絡を密に取り合い、授業は問題なく進行していると受け止めている。

2) 生活造形学科

研究室は、専任教員個別ではなく合同の研究室の形態としていることや、研究室・実習室が近接しているため、教員間の意思疎通や協力体制は良好であると受け止めている。また、月1回開催される生活造形学科会議では、カリキュラム等の問題に関する議論・検討の場として、専任教員間の意思疎通や授業改善の取り組みに当たっていることも反映されていると考えている。

授業を担当する兼任教員との意思疎通については、研究室長及び専任教員が定期的に面談及び連絡を取り合い、授業は問題なく進行していると受け止めている。

【特記事項について】

(1)この《Ⅱ教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

1) 服装学科・生活造形学科共通

①コラボレーション科目

本学では平成16年度より時代のニーズに適応した教育内容の充実を図り、総合教養科目と専門教育科目の融合による人間力の育成、さらに教員のFD活動の活発化を図るために「コラボレーション科目」を開講している。この目標のもと、学部・学科・学年を超えた学生のコラボレーション、また産業界・地域・他大学（海外提携校を含む）とのコラボレーションを試みる授業を、9月と2月の年2回（合計2週間）、全学的に開講している。卒業要件単位は2単位である。平成21年度64講座、平成22年度63講座が開講された。なお、原則として、一講座3日間とするが、若干、単位数・コマ数を異にするものもある。

＜コラボレーション科目の目的＞

1. 学年を超えた学生同士のコラボレーション
2. 学部・学科・コースを超えたコラボレーション
3. 専門の異なる教員同士のコラボレーション
4. 本学と産業界のコラボレーション
5. 本学と地域のコラボレーション
6. 本学と国内外の大学とのコラボレーション

以上を踏まえ、通常の講義では開講困難な実習・演習中心の科目を開講している。

開講科目・科目内容はすべて年度ごとに更新し、アンケートによって学生の要望を取り入れたり、社会や時代のニーズに合ったものとなるよう検討している。

Ⅱ 教育の内容

コラボレーション科目年度別開講科目（抜粋）

平成21年度開講科目	平成22年度開講科目
ファッションコーディネート2009	EZ英語でCGするキャラデザイン！2010
自分を知らう	ボランティア活動を通して見た世界の国々
アジアを学ぶ－韓国の食と文化－	短大生のための企業見学とタウンリサーチ
企業広報論－PRプランナー資格試験対策講座－	ライフスタイルと健康
文章作法 基礎の基礎A（自己紹介・ミレポート）	バーチャルブランド企画
国際協力を考える	販売員のための英会話
マスメディアの現場を体験する	コミュニケーション・プログラム
短大生のための企業見学とタウンリサーチ	新宿フィールドサーベイ2010
カメラを持って出かけよう＋太極拳体験2009	カラープレゼンテーション2010
アメリカ文化研修（実践編）－アメリカホムステイに挑戦しよう！－	文章作法 基礎の基礎B（手紙・祝辞）

②キャリア形成教育科目

「自分の将来」について考え、学生生活のみならず卒業後も含めた豊かな人生をデザインできる視野を獲得することを目的とする。

1年次 必修 キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー 1単位 入学後1ヶ月ほど経過した5月に、長野県にある本学研修施設で2泊3日の日程で開講。自分を知る・専門性を知る・キャリアモデルを知る・将来を描く・学生生活の目標をつくる等の項目に分けて、グループディスカッションを中心に構成している。 合宿生活により友人や教員との交流を深められる、という効果もある。 2年次 必修 キャリアデザイン（展開編）－コースセミナー 1単位 2年生後期に開講。現在の自分を自覚する・専門性を考えキャリアモデルをイメージする・将来像を描き卒業後の具体的な目標をつくる等の項目に分けて構成している。 2年次 選択 クリエイティブキャリア論 2単位 2年生前期に開講。女性として、人間としてどのように生きていくか、また、働く女性を取り巻く環境と現状を学び、キャリア開発を行う方法を学ぶ。

これらの科目を通じて短期大学における専門性の習得と、将来どう生きるか等について考え、目標を持って学生生活を送り、社会に役立つ人として巣立つことができるよう導くことが「キャリア形成教育科目」の授業方針である。

また、導入編のフレッシュマンキャンパーは、昭和39年度に「生活実習」として開設し、昭和44年度に「フレッシュマンキャンパー」と改称、平成19年度から前述の通り「キャリアデザイン（導入編）－フレッシュマンキャンパー」と再び名称を変更し、内容もその時代にあわせて改革改善を重ねてきた。本学の女子教育の伝統継承や教育理念は変わらぬものとして46年にわたり脈々と受け継がれてきている。

③習熟度別授業クラス

英語の基本的な知識を有し、英語のスキルをさらに磨き将来の就職活動や留学などに備えたい学生を対象として「Sクラス」を開講している。受講希望の学生を対象としたプレイスメントテストを入学直後（4月初旬）に実施し、選抜している。

④インターンシップ

- ・専攻科被服専攻

就職委員会（旧：就職特別委員会）と就職相談室との連携により、対象学生との面接、研修先企業の研究やビジネスマナー研修を実施し、夏期休暇中の2～3週間で企業研修を行っている。例年10月初旬にはインターンシップ公開報告会（以下「報告会」という）を実施している。報告会では研修先の企業の指導担当者にも参加を依頼し、本学学生の研修状況についてコメントをお願いしている。

- ・服装学科、生活造形学科

インターンシップにかかわる授業としてコラボレーション科目「短大生のための企業見学とタウンリサーチ」を実施し、先輩が就職している企業や今後就職を目指す企業を訪問し、見学会を行っている。

2) 服装学科

①質の高い教育推進プログラム（教育 GP）

平成20年度文部科学省による「質の高い教育推進プログラム」（教育 GP）に、本学の「ファッションブランドビジネスモデルの構築」が選定された。これはファッションクリエイティブコースとファッションビジネスコースの両方の学生で混合チームを5チーム編成し、バーチャルに企業計画を行うものである。各コースの専門性を生かし、ブランドの構築から商品企画・製品の試作・販売を行い、その結果を広く社会に公开发表して評価を得る実践的な教育である。毎回、各専門分野の講師の講義や指導が行われるため、専門性がより強く、たいへん高度な授業内容となっており、学生の達成感も大きいプログラムである。

②模擬店舗実習室「ショップ D60」

ファッションビジネスコースでは、ファッションビジネスの現場で必要とされる実践力を身に付けるために、模擬店舗実習室「ショップD60」にてショップ教育を導入している。講義だけでは身に付けることのできない体験型教育として、新しい方向性を目指し、教育効果を上げている。「ショップD60」で商品を活用した体験実習を取り入れることで、ファッションビジネスの現場、特にマネージメント能力（商品管理、店舗設計、ビジュアルプレゼンテーション等）や、店頭販売の技術アップ（顧客管理、接客、ファッションコーディネート技術等）等、総合的なファッションビジネス能力を身に付けることができる。

③作品発表のファッションショー

毎年、前期7月に高校生を対象とした公開授業として、服装学科1・2年生、専攻科被服専攻の学生が共同で自作作品を着用し、ファッションショー形式で発表を行っている。後期は各学年で着装発表会を行っている。

ファッションショー形式で発表することで縫製技術を学ぶとともにファッションコーディネートを考え、さらに各場面でのプレゼンテーション能力を身に付けることを目的としている。

3) 専攻科被服専攻

①コンペティションへの参加

平成20年度に専攻科被服専攻の全学生が栃木県那須町にあるホテルから提案され

Ⅱ 教育の内容

た「リゾートホテルの次世代館内用着衣デザインコンペティション」に参加し、1位から10位まで入賞し、ホテルから教育助成金を受けることができた。

②修了製作ファッションショー

毎年12月に行われる修了製作のショーの後に、学生・教職員の投票結果による優秀作品には「学長賞」が授与され、学生の大きな励みとなっている。

4) 生活造形学科

①創作実習展

2年間の集大成の作品を公開展示する「創作実習展」を毎年2月に4日間開催している。平成20年度までは、学内の複数の実習室を会場としていたが、開催場所や展示方法などの点検に伴う改善策として、平成21年度は本学に隣接する新宿文化クイントビル内、文化クイントサロンで開催した。作品内容及び会場について、来場者からも好評を得、アンケート回収数は前年度の2倍を超えて、教育改善に役立てることができた。

②地域連携教育

生活造形学科の課題で採り上げた近隣の渋谷区代々木第三遊園地の喫煙所のリデザインについて、課題内容と結果を区の公園課に提案した。今後も渋谷区と連携をとりつつ進める。

③コンペティションへの参加

平成21年度に制作したジュエリーを「JT0」（ジュエリータウン御徒町）に出展して、2年生の学生が特別賞を受賞。また同じく2年生がジュエリー作品を「タサキジュエリーデザインコンテスト」に出展してペーパーデザイン賞を受賞した。

外部コンペティション等での評価は、学生の大きな励みとなっている。

◇添付資料 2 Student's Manual 履修要項 2010

4 授業計画 (Syllabus) 新都心キャンパス 2010

【服装学科】 【生活造形学科】 【専攻科】

◆参考資料 20 授業計画 (Syllabus) コラボレーション科目 2010

15 2007「コラボレーション科目」アンケート調査報告書Ⅰ・Ⅱ

16 2008「コラボレーション科目」アンケート調査報告書

21 文部科学省選定 教育GP―質の高い大学教育推進プログラム―

「ファッションブランドビジネスモデルの構築」

平成20・21年度 報告書、パンフレット、DVD

22 専攻科被服専攻前後期作品発表ファッションショー パンフレット
2008・2009年後期

23 生活造形学科創作実習展記録 平成19・20年度

(2) 特別の事由や事情があり、この《Ⅱ 教育の内容》の評価項目や評価の観点求められることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

《Ⅲ 教育の実施体制》

【教員組織について】

(1) 現在の専任教員数を作成して下さい。

専任教員数表

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

学科等名	専任教員数					設置基準で定める 教員数		助 手	〔ハ〕	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
服 装 学 科	3	8	5	3	19	6 (1.8)	—	1	0	家政 関係
生活造形学科	6	1	0	0	7	4 (1.2)	—	1	0	
専攻科被服専攻										
(小計)	9	9	5	3	26	10 (3)	—	2	0	
〔ロ〕	—	—	—	—	—	—	5 (1.5)			
(合計)	9	9	5	3	26	10 (3)	5 (1.5)	2	0	

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書（①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名、④その他）を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

- ◆参考資料 24 教員個人調書（過去 5 年）
25 平成22年度 授業時間等調査票

(3) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

本学の教員採用、昇任は「文化女子大学短期大学部教授会規程」「文化女子大学短期大学部教員選考基準」及び「基準施行細則」、「文化女子大学短期大学部助手規程」、「文化女子大学短期大学部における助教・助手の任期に関する規程」に基づいて行われている。

教員の採用・昇任の審査に際して必要な『履歴書』・『教育・職務業績書』・『研究業績書』等の申請書類は所定の様式が定められており、教育・研究等の業績をそれぞれより公正に評価できるようにしている。

「文化女子大学短期大学部教員選考基準施行細則」に定められた「教員選考委員会」の委員は、採用候補者、昇任対象者の予定職位と同等又は上位の職位の在任者の中から教授会の議を経て学長が任命する。学長は選考委員会の結果を「文化女子大学短期大学部教授会規程第 8 条」に基づく教授会に諮り、承認を得る。さらに学長はその結果を理事長に報告し、理事長は、その選考された者の中から採用、または昇任を決定し、任命をする。その後、学長はこれを教授会に報告する。

- ◆参考資料 6 文化女子大学短期大学部教授会規程
26 文化女子大学短期大学部教員選考基準

Ⅲ 教育の実施体制

- 27 文化女子大学短期大学部教員選考基準施行細則
- 28 文化女子大学・文化女子大学短期大学部教員選考基準施行細則
の審査書類に関する申合せ事項
- 29 文化女子大学短期大学部助手規程
- 30 文化女子大学短期大学部における助教・助手の任期に関する規程

(4) 教員の年齢構成について表を作成し現状を記載して下さい。

専任教員等の年齢構成表

(年齢は平成22年4月1日現在)

区分	年齢ごとの専任教員数(助教以上)							助手等の 平均年齢	備考
	70 以上	60～ 69	50～ 59	40～ 49	30～ 39	29 以下	平均 年齢		
合計人数 (26人)	0	1	12	7	4	2	47	28	
割合(%)	0	3.8	46.2	26.9	15.4	7.7			

年齢構成としては、50代の専任教員が46.2%を占めており、偏りがあると言わざるを得ない状況である。世代交代の時期であると認識しており、今後年齢構成を考慮しつつ、人材配置を行う予定である。

(5) 専任教員は、(a)授業、(b)研究、(c)学生指導、(d)その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記4つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるかを学長等が記述して下さい。その際、過去3ヶ年(平成19年度～21年度)程度の教員の担当コマ数(担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む)、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

(a) 授業

過去3年間(平成19年度～平成21年度)における教員の通年平均担当コマ数は、併設大学の授業も含めてP33の表の通りである。本学カリキュラムは実習科目の多い点に特色があり、教員の担当時間が多くなっている。教員はいずれも授業に意欲的かつ熱心に取り組んでおり、製作実習や学外での見学研修等を積極的に授業に取入れ、授業方法の改善に取り組んでいる。

授業については全教員がシラバスを作成し、計画に基づいて実施している。なお、シラバスは教務委員会(旧：カリキュラム委員会)が内容を確認している。

また、本学は「コラボレーション科目」を設置している。(詳細はP27Ⅱ教育の内容【特記事項について】(1)の項目参照) コラボレーション科目は全教員が参画し通常の授業では開講困難な実習・演習を中心とした科目を、集中授業の形態で開講している。

教員担当持ちコマ数及び教育研究上の業務（服装学科）

職名	教員名	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
		コマ数	教育研究上の業務等	コマ数	教育研究上の業務等	コマ数	教育研究上の業務等
教 授	小山 昭男	6	主任教授 クラス担任 全学FD委員会委員長 就職特別委員会委員	3.5	主任教授 クラス担任 全学FD委員会委員長 就職特別委員会委員	3	主任教授 クラス担任 全学FD委員会委員長 就職特別委員会委員
教 授	大熊志津江	10.5	*コース担任 学生募集対策特別委員会委員	11.5	*クラス・コース担任 学生募集対策特別委員会委員	14	*クラス担任 学生募集対策特別委員会副委員長
教 授	渡部 旬子	8	クラス担任	6.5	クラス担任 カリキュラム委員会委員長	9	クラス担任 カリキュラム委員会委員長
准教授	高橋 良子	6	(免除)	11	(免除)	11	*クラス担任
准教授	水谷みつ江	11.5	*クラス担任 教務委員会委員	12	*クラス担任 教務委員会委員	11.5	*クラス担任 教務委員会書記
准教授	横堀 秀子	9	クラス担任 後期休職	0	休職	7	クラス担任
准教授	鹿島 和枝	7	クラス担任 ハラスメント防止委員会相談員	10.5	クラス担任 学生生活委員会委員 全学FD委員会委員 ハラスメント防止委員会相談員	11	クラス担任 全学自己点検・評価委員会委員 ハラスメント防止委員会相談員
准教授	柴田 早苗	7.5	クラス副担任 教務委員会委員	10.5	クラス副担任 研究委員会書記	11	クラス担任 研究委員会書記
准教授	境 希里子	6.5	*クラス副担任 留学生指導特別委員会委員	6.5	*クラス副担任 留学生指導特別委員会委員	6.5	*クラス副担任 留学生指導特別委員会委員
准教授	根本賀奈子	8	クラス副担任 紀要編集委員会委員	9.5	クラス副担任 紀要編集委員会委員	10	クラス担任 紀要編集委員会委員
准教授	本多 吉彦	8	*クラス担任 紀要編集委員会委員	8	*クラス担任	8	*クラス担任
講 師	野沢さおり	7.5	クラス副担任 留学生指導特別委員会委員 全学FD委員会委員	5	クラス副担任 留学生指導特別委員会委員 全学FD委員会委員	8	クラス副担任 留学生指導特別委員会委員 全学FD委員会委員 IT委員会大学小委員会委員
講 師	小出 恵	9	クラス副担任 学生募集対策特別委員会委員	11.5	クラス副担任 学生募集対策特別委員会委員	12	クラス副担任 学生募集対策特別委員会委員
講 師	井上 昌恵	8	クラス副担任 学生生活委員会委員	8.5	クラス副担任	5	クラス副担任 後期休職
講 師	佐藤 綾	8	クラス副担任	6.5	クラス副担任	6.5	クラス副担任 学生生活委員会委員 全学FD委員会委員
講 師	井口 彰子	8	クラス副担任	7.5	クラス副担任	8	クラス副担任
助 教	渡部 薫	9	クラス副担任	8.5	クラス副担任	7	クラス副担任
助 教	木全 秀美※ア	—	クラス副担任	—	クラス副担任	—	クラス副担任
助 教	後藤 望 ※イ	—	クラス副担任	—	クラス副担任	—	クラス副担任

※ア、※イは平成21年度まで助手のため担当授業なし。

教員担当持ちコマ数及び教育研究上の業務（生活造形学科）

職名	教員名	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
		コマ数	教育研究上の業務等	コマ数	教育研究上の業務等	コマ数	教育研究上の業務等
教 授	井上 祐一	10.5	クラス担任 教務委員会委員長	9	主任教授 クラス担任	8	主任教授 クラス担任
教 授	大津由美子	8.5	*クラス担任 全学自己点検・評価委員会委員	7	*クラス担任 全学自己点検・評価委員会委員	6.5	*クラス担任 全学自己点検・評価委員会委員
教 授	齋藤満里子	4.5	*クラス担任	4.5	*クラス担任 教務委員会委員長	4	*クラス担任 教務委員会委員長
教 授	松本美保子	10.5	クラス担任 学生募集対策特別委員会副委員長	7	クラス担任 学生募集対策特別委員会委員長	6	クラス担任 学生募集対策特別委員会委員長
教 授	沼尻 七子	10	クラス担任 紀要編集委員会書記	7	クラス担任 研究委員会書記 全学FD委員会委員	6	クラス担任 研究委員会書記 全学FD委員会委員
教 授	石森 寛	8.5	*クラス担任 研究委員会委員長	9.5	*クラス担任	10.5	*コース担任
准教授	藤田 敬子	—	平成21年度採用	—	平成21年度採用	11	クラス副担任

- 1) 教員は平成22年4月1日在職者を記載している。
- 2) コマ数は半期0.5コマ、通年1コマでカウントしている。
- 3) 研究業績についてはP80 VI 研究 (1)の項目参照。
- 4) *印は専門性や科目を一部担当している関係で併設大学の担任・副担任を兼務している。
なお、委員会の詳細についてはP98 VIII 管理運営 (3)の項目参照。

Ⅲ 教育の実施体制

(b) 研究

研究活動については、分野の特性を反映して文化女子大学学内研究発表会における発表、文化女子大学紀要への投稿、文化女子大学教員研究作品展への出展等があり、教員は積極的に紀要への投稿や、作品展への出展を行い、自身の研究成果を教育に還元すべく努力している。また、「文化ファッション研究機構」「文化・衣環境学研究所」「文化・住環境学研究所」における共同研究への参画、学会・研究機関のセミナー等への参加を奨励している。本学の研究支援としては、個人研究費・研究室図書費や国内外研修制度があげられる。一方、科学研究費補助金等、外部資金の獲得については、今後さらに取り組んでいく方針である。

(c) 学生指導

本学は昭和25年の創立以来、クラス担任・副担任制をとっており、従来から全学的な学生指導のシステム作りに意を用いてきた。実習系の必修科目はクラスを単位とする授業形態を原則とする。その教科担当教員がクラス担任と同一であるよう、可能な限り編成しているので、学生への履修指導、教科指導、学生生活指導等に日頃から目が行き届き、学生の学修の達成度のみならず卒業後の進路、心身の悩みに至るまで、相談に応じる体制が確立している。また、学生から学生異動（休学・退学等）等の申し出があった場合には、学生、クラス担任・副担任と保護者を交え面談を行うなど、慎重に進める体制も設けている。

留学生に対してはクラス担任・副担任の他にも学生支援委員会（旧：留学生指導特別委員会）と学生課が対応している。学生課には中華人民共和国と大韓民国出身の職員も配し、細やかな対応をしている。

(d) その他教育研究上の業務

委員会関係

教育研究に関する常置委員会（5委員会）、特別委員会（14委員会）がある。

（委員会の詳細については P98 VIII管理運営【教授会等の運営体制について】(3)の項目参照）ほとんどの教員がいずれかの委員会に所属し、委員会活動の役割を分担し教育研究推進や改善に全学で取り組んでいる。

近年学生が多様化し、学修支援をはじめとする授業以外の諸活動に時間を割かれるようになったため、委員会活動等のための教員の負担が増大し、研究活動にも支障が生じることが懸念され、教員から負担軽減への要望が出されていた。

そのため、平成22年度から常置委員会と特別委員会等の統廃合を実施し（3委員会減）、あわせて各委員会委員の定数を削減する一方、委員や委員会役員の兼務を原則として廃することとし、教員が教育研究活動により専心できるよう改善した。

学生募集関係

入試対策委員会（旧：学生募集対策特別委員会）で学生募集のための広報や入試の方策を教員と入試広報課職員が協働して検討し、入学案内と本学ホームページの編集に当たっている。また、年8回開催する進学フェスタ（オープンキャンパス）においても、教員と事務職員が協働で高校生の入学相談や学科展示の説明等を行っている。

毎夏、併設大学とともに開催している高校生を対象としたサマーオープンカレッジにおいて「ものづくり」を基本とした実技の講座を開講し、高校生から高い評価を得

ている。

- ◇添付資料 3 入学案内 2011 (サマーオープンカレッジパンフレット含む)
- ◆参考資料 24 教員個人調書 (過去5年)
- 31 専任教員持ちコマ数表 (平成19～21年度)
- 20 授業計画 (Syllabus) コラボレーション科目 2010
- 32 平成21年度 第43回 文化女子大学学内研究発表会プログラム要旨集
- 33 文化女子大学紀要 服装学・造形学研究 第39～41集
- 34 文化女子大学紀要 人文・社会科学研究 第16～18集
- 35 文化女子大学教員研究作品展作品集 第11集 2008～2009
- 36 教員の海外及び国内研修に関する規程
- 37 教員の海外及び国内研修に関する規程細則
- 38 平成22年度 クラス担任・副担任表
- 39 平成22年度 文化女子大学委員会委員一覧表

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

服装学科に任期制助手 (以下「助手」) 1 名、生活造形学科に関連する研究室に助手 1 名を配置している。任期制助手制度は、将来本学の教員にふさわしい成長を期待される大学院修了または大学卒業等の若手を積極的に採用するものである。

助手は所属する研究室の教員が担当する授業に関し、教材の準備、授業の補佐、学生からの問い合わせに対応するなどの業務を担当する。また、授業や研究に必要な什器備品の整備、各種消耗品補給等、研究室の運営に重要な役割を果たしている。加えて、クラスの副担任としても学生各自の学習、生活の両面にわたって適切な指導を行っている。なお、併設大学とともに実施する「学内研究発表会」での研究発表、「教員研究作品展」への出展、科学研究費補助金の研究分担者になるなど、独自の研究にも取り組んでいる。

本学は併設大学とともに各研究室に副手を配置している。副手は在学生の履修処理や成績処理の補助等の業務に当たっている。副手は本学または併設大学卒業生で、在学生にとっては最も身近な相談者であり、学習・学生生活上の問題処理に大きな役割を果たしている。本学学生が直接関係する研究室として、短大部服装学科研究室に 1 名、短大部生活造形研究室に 2 名を配置している。併設大学の教員が担当する科目については、当該研究室の助手、副手が本学の学生にも対応している。

また、教育 GP の「ファッションブランドビジネスモデルの構築」においては、補助職員 (3 ヶ年) を採用している。

- ◆参考資料 29 文化女子大学短期大学部助手規程
- 30 文化女子大学短期大学部における助教・助手の任期に関する規程
- 32 平成 21 年度 第 43 回 文化女子大学学内研究発表会プログラム要旨集
- 35 文化女子大学教員研究作品展作品集 第11集 2008～2009

Ⅲ 教育の実施体制

(7) 2以上の校地(校地が隣接はしていないものの極めて近接しており、学生に対する日常的な学習相談、進路指導、厚生補導等が支障なく行うことができる体制にある場合など例外的な場合以外)において教育研究を行う場合においては、それぞれの校地の専任教員の配置状況について記述して下さい。

短期大学部に2以上の校地はないが、運動場のみ併設大学と共用で八王子市と厚木市にある。

【教育環境について】

(1)校舎・校地一覧表を作成して下さい。

校舎・校地一覧表

(平成22年5月1日現在)

区 分	収容定員	校 舎			校 地		
		基準面積	現有面積	差 異	基準面積	現有面積	差 異
文化女子大学短期大学部	520人	4,100㎡	2,239㎡	-1,861㎡	5,200㎡	全学共用 83,272㎡	
併 設 文 化 女 子 大 学	3,100人	19,803㎡	10,311㎡	-9,492㎡	31,000㎡		
大学・大学院大学・短大共用			26,928㎡	26,928㎡			
文化ファッション大学院大学	160人		1,632㎡				
文 化 服 装 学 院	4,600人	25,160㎡	40,466㎡	15,286㎡			
文 化 外 国 語 専 門 学 校	240人	1,740㎡	1,981㎡	241㎡			
計			83,557㎡			83,272㎡	

校地の基準面積 5,200 ㎡ (収容定員 520人×10㎡=5,200㎡)

校舎の基準面積 4,100 ㎡

学 科 名	収容定員 (人)	校舎の基準面積 (㎡)	短大設置基準別表第二
服 装 学 科	400	4,100	イ表 家政関係
生 活 造 形 学 科	120		
合 計	520	4,100	

◆参考資料 40 校舎、校地に関する図面

(2)校地・校舎について、他の学校等との共有部分がある場合は、教育研究上の支障が生じないように、どのような措置をとっているかについても記述して下さい。

校地・校舎は、併設大学との共用部分はあるが、教育研究上では、時間割等で調整しているため支障は無い。

(3)教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内LAN、LL教室及び学生自習室の整備状況(機種、台数等を含む)について記述して下さい。またその使用状況(使用頻度等)についても記述して下さい。なお、2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。

情報機器を利用するパソコン実習室は6教室あり、本学学生はそのうち5教室で併設大学と共用で授業を行っている。また、学生の自習室としてオープンメディアルーム(OMR)があり、月曜日から金曜日までは10時～20時まで、土曜日は10時～17時まで利

用できるようになっている。こちらも併設大学と共用している。

マルチメディア教室としては、一部の一般講義室に高輝度プロジェクター、スクリーンを設置している。学内LANについては現在のところほぼ全教室に整備されている。なお、LL教室は設置していない。

パソコンルーム利用状況（平成21年度実績）

教室名	OMR		A111	A112	A113	A114	A115	A116
	*1		*2	*2	*2	*2	*2	*2
	WIN	Mac	WIN	WIN	WIN	WIN	WIN	Mac
種別								
設置台数	44	21	51	51	51	51	51	51
年間利用時間数	2,310時間							
年間利用者数 総数	35,805 名							
大学	22,068 名							
短期大学	2,953 名							
科目数 前期／後期			19/20	21/16	18/16	22/17	20/16	22/19
時間数			819	777	714	819	756	861
短大科目数 前期／後期			0/0	7/3	5/1	12/9	4/3	5/1
短大時間数			0	210	126	441	147	126
ソフト名	本数		本数	本数	本数	本数	本数	本数
AdobeCS3/4	44		51	51	51	51	51	
MS-Office2003/2007(Win)	44		51	51	51	51	51	
TrendMicroウィルスバスター	44		51	51	51	51	51	
ドライブシールド	44		51	51	51	51	51	
3D-インテリアデザイナー	12							
i-Designerシリーズ			51			51		
東レ クレアコンボ								
グレーディングMagic			51			51		
パターンMagic			51			51		
マーカ Magic			51			51		
CG Magic(D/P/M)			51			51		
CANCAD				51				
CAD+Jr				51				
Flash MX Windows Japanese(JAVA含む)				51				
KidsLogo				51				
VMD(ビジュアルマーチャダイジング)					20			
AutoCAD2004/2009	12				51			
Flash MX Windows Japanese(JAVA含む)	12							
JUSE -Stat Works(Qcas)	12		37	51	51			
KidsLogo	44				51			
PowerSketchSD	12							
PS-3D	12						51	
VectorWorks2009	12						51	
RenderWorks2009	12						51	
Mcafee		21						51
AdobeCS3/4		21						51
MS-Office2008(Mac)		21						51
4DBOX								25
AppleRemoteDeskTop								1
Shade								51

*1 開館時間 平日10時～20時 土曜、長期休暇10時～17時

*2 1コマ 90分

(4)授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム（管理の状況、整備計画等を含む）について、その概要を記述して下さい。2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

授業用の機器・備品については、実習室を中心に最新の備品を設置し、担当研究室で管理している。

主な機器・備品は、P38～P40に記載する通りである。

Ⅲ 教育の実施体制

機器・備品一覧表

<ショップ D60> 服装学科で販売実務演習やディスプレイ演習などの授業で利用する、模擬店舗実習室

備品名	数量	摘要
POSシステム	1	販売時点单品管理

<服装学科実習室>

備品名	数量	摘要
CADシステム	15	アパレルCAD・ニットCAD
よこ編み機	1	編み機
スタン (特殊・子供・1/2)	232	婦人・紳士・子供(2・4・6・8・10・12歳用)・ シルバー・水着・足つき用
シルエットー	1	体型観察計測器
職業用本縫ミシン	270	直線縫いミシン
刺繍用コンピュータミシン	2	刺繍用ミシン
小型オーバーロックミシン	100	3本ロック・4本ロック
穴かがりミシン	1	ボタンホール用ミシン
ニードルパンチミシン	2	装飾用ミシン
アイマークカメラ	1	顧客の購買視線(点)分析

本学科はアパレル業界で即戦力となる人材育成を目指し、平成2年度にアパレル CAD 及びニット CAD、コンピュータ成形編み機を設置導入し、カリキュラム改定を行った。その教育成果は学外からも関心が高く、以下のような事例報告を行った。

平成14年1月 私立大学情報教育協会主催 情報教育事例紹介

平成14年6月 私立大学情報教育協会主催 IT 関連教育事例報告

平成15年9月 国際デザイン会議「産学プロポジション・ショーケース」授業事例報告紹介

<D14 生産工学実習室> ※併設大学と共用

備品名	数量	摘要
工業用本縫いミシン	12	自動糸切り装置付き直線縫いミシン
工業用オーバーロックミシン	9	ニット縫合用縁かがりミシン
工業用偏平縫いミシン	5	ニット縫製用ミシン
工業用特殊ミシン	13	電子鳩目穴かがり、電子ボタン付けなど
工業用アイロン・バキュームボード	6	ボイラ付き仕上げアイロン
素材収縮試験機	1	素材の工程収縮試験機
スポンジングマシン	1	素材安定のための縮絨機
CADシステム	1	パターンメイキング、裁断データ作成コンピュータ
自動裁断機(CAM)	1	コンピュータ多層自動裁断機
芯貼り機	1	連続型接着芯貼り機
検針器	1	針・金属残存検知器(PL法対策)

<D46ab 生産工学研究室・準備室> ※併設大学と共用

備品名	数量	摘要
工業用コンピューター刺繍機	1	刺繍ミシン
職業用本縫いミシン	18	直線縫いミシン
小型オーバーロックミシン	10	縁かがりミシン
ニードルパンチミシン	2	装飾用ミシン

<A165 グラフィック実習室>

備品名	数量	摘要
撮影スタジオ機材	1式	大型作品撮影、暗幕・照明機材等一式

<A170 短大部生活造形準備室>

備品名	数量	摘要
デスクトップP C	5	グラフィック用 (mac)
スキャナー	1	A3サイズ
撮影機材	1式	小作品撮影、照明アームスタンド等一式

<A171a短大部生活造形研究室>

備品名	数量	摘要
小型プロジェクター	2	教室使用 (スライド等)
ノートP C	2	教室使用 (スライド等)
デスクトップP C	4	インテリアCAD等
スキャナー	1	A4サイズ
レーザープリンター	2	カラー (A3) 、モノクロ (A4)

<F103 暗室>

備品名	数量	摘要
現像台	1	フィルム制作
捺染用版乾燥機	1	

<F104 捺染室>

備品名	数量	摘要
捺染台	2	10メートル台

<F105 実習室>

備品名	数量	摘要
トレース台	8	絵の原稿を複写(トレース)する台

<H408 織物実習室>

備品名	数量	摘要
卓上織機	20	小型織機

<H409染織実習室>

備品名	数量	摘要
蒸し器	1	染色用

Ⅲ 教育の実施体制

<A167 グラフィック・プロダクト準備室> ※併設大学と共用

備品名	数量	摘要
大型プリンター	1	紙および布印刷

事務局教務部管理のもと下記の備品を貸し出し用として整備し、授業に活用している。

備品名	台数(本数)	備品名	台数(本数)
プロジェクター	5台	ワイヤレスアンプ	4台
	(ファッションショー用 2台 授業用 3台)	スライド映写機	2台
		ICレコーダー	5台
		ビデオカメラ	13台
移動式スクリーン	2本	デジタルカメラ	12台
ノートパソコン	1台	実物投影機	2台

(5)校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

校地、校舎の安全性については、L館（ロビー階）総合受付及び守衛所に警備員を配置し、C館1階の防災センターでは、屋内・外に設置してあるテレビ監視装置（18台）モニターを24時間体制で監視し、安全を確保している。障害者への対応としては、駐車場はもとより、車椅子対応トイレ、エレベータ、スロープ、手摺り等を設けており、今後とも段階的に整備を進める計画である。

運動場は、ソフトボール、テニス等の球技ができる複数のグラウンドを備えている。体育館は大体育館と小体育館の2施設があり、体育の授業とともに、球技祭、クラブ活動等で利用している。

学生の休息場所等については、屋内に「学生ホール」「スペース21」「バイオレットホール」「パンジーコーナー」の4施設があり、屋外にはベンチを配した「緑の広場」を含め10カ所程度を備えている。

【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という）について】

(1)図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

本学の図書館施設は併設大学と共用しており、新都心キャンパスの本館と小平キャンパスの分館で構成され、学生、教職員は両館とも利用可能である。

総面積は書庫含めて3,408㎡であり、本館閲覧室は1,502㎡で座席数は268席、分館は612㎡で132席である。館員数は職員17人（嘱託職員4人含む）及び館長（兼務）、年間契約非常勤8人。司書は館長と職員13人、司書補1人である。短期大学部は新都心キャンパスにあるため、学生は本館を主として利用している。



新都心キャンパス図書館（本館）利用者スペースの配置図

所蔵資料数は約 32 万点である。これに世界諸民族・地域の服飾文化及び服飾史に関わる希少資料のコレクション（約 6,100 冊 2,500 タイトル）を含むが、服飾関連資料の充実度は東洋一であると世界的に認められている。

平成 22 年度の年間資料費予算（両館合計）は 53,550 千円である。オンライン系資料は通信費扱いのため資料費に含まれない。

選書は主に学園内の教員で構成される図書館委員会の意向を踏まえて行うが、洋書は教員の選書委員と当館管理職とが担当する。シラバス上の指定教科書や参考資料は漏れなく収集するが、教員からの「学生向け推薦資料」リスト及び利用者のリクエスト受付制度も設けてある。

蔵書は古い資料が役立たない自然科学などの分野以外は原則として除籍しない。ただし、狹隘化対策のため、やむを得ず利用状況などによって除籍することもある。

情報化に関しては、平成 10 年度に図書館システムをオンライン化し、同時に国立情報学研究所（以下略称 NII）の全国総合目録データベース「NACSIS-CAT」に参加した。

OPAC は平成 14 年度から公開し、モバイル用もある。平成 20 年度から学生ポータルサイトとも連携しており、予約資料の連絡や延滞資料の督促等に用いている。

本学専門分野には学術的オンライン資料が少ないため契約本数は多くないが、代表的な電子ジャーナルやデータベースは導入している。学内 LAN を通じて小平キャンパスを含む全学園内から（一部は学外からも）アクセス可能である。所蔵資料や学内研究、教育成果の Web 公開も積極的に進めている。

- ◆参考資料 41 文化女子大学図書館規程
- 42 図書館委員会規程
- 43 文化女子大学図書館利用規程

Ⅲ 教育の実施体制

- 44 授業並びに業務用資料帯出に関する細則
- 45 貴重書の閲覧及び複写に関する細則
- 46 学外者の図書館利用に関する細則
- 47 文化女子大学図書館資料管理規程
- 48 資料除籍の取扱いに関する細則

(2) 図書館等に備えられている蔵書数（和書、洋書、学術雑誌数、AV資料数等）を表して下さい。

図書館蔵書数一覧

(平成22年5月1日現在)

区分	和書	洋書	雑誌全体 (内受入中)	服飾系雑誌 (内受入中)	学術雑誌 (電子ジャーナル)	A V 資料
本館	182,717冊	43,185冊	2,671種 (1,028種)	1,181種 (323種)	144種 (11,602種)	1,789点
分館	72,839冊	17,561冊	326種 (326種)	122種 (122種)	47種 (11,602種)	20点
合計	255,556冊	60,746冊	2,997種 (1,354種)	1,303種 (445種)	191種 (11,602種)	1,809点

※雑誌には新聞および紀要を含む。

※AV 資料は主にマイクロ資料、CD-ROM 及びピクチャーライブラリー資料。

※電子ジャーナルには学術雑誌論文データベースに内包する学術誌数を含む。

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者（図書館長等）が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

図書館は参考資料及び一般教養レベルの資料は全ジャンルを取りそろえている。併設大学・同一法人内の諸学校に共通の専門分野「服飾」及びその関連については学術資料から実用書までほぼ網羅して収集保存している。学生のニーズもたいへん高く集中もしているので、多くの複本を用意している。デザインや美的感性を養う美術・デザイン・色彩学分野にも重点を置き、さらに自然科学や建築、インテリアなどの分野でも利用度が高いグラフィカルな資料を意識的に収集している。逐次刊行物では学術誌の他、繊維業界紙・業界誌やトレンド予測誌及び世界各国のファッション専門誌やそれに準ずる主要な女性雑誌・ライフスタイル誌を充実させている。

本学学生を含めた学生全体の利用度は平均貸出冊数が平成20年度6.5冊、平成21年度6.2冊である。本館が充実させている服飾系雑誌は、閲覧は多いが禁帯出のため利用度が統計には表れない。専門資料としても図書資料より数倍多く閲覧利用されている状況である。

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

本学図書館は OPAC を公開しホームページも開設しているので、どこからでも資料の有無や公開データベースなどを知ることができる。NII の NACSIS-CAT（全国総合目録

データベース）へ書誌、所蔵データを登録公開しており、NACSIS-ILL（図書館間相互貸借・複写サービス）にも積極的に参加協力している。また、他大学図書館との協力関係においては「東短協コンソーシアム図書館相互利用」の参加館ともなっている。

来校して資料を直接閲覧する卒業生や他大学研究者、学生の人数も少なくない（平成21年度で延3,415人）。博物館等から資料の貸出展示を要請されるケースも多く、一般学外者についても服飾関連の研究、調査であれば協力している。主要貴重書についてはデジタル化とそのWeb公開プロジェクトを継続中である。また紀要をCiNii（NIIの論文情報ナビゲータ）に登録公開しているが、より広範囲な研究・教育成果物を公開する場として「文化学園リポジトリ」を平成20年度末に立ち上げた。なお、本館は貴重書コレクションなどの実物資料を一般公開する機会として、館内展示の他に、文化学園服飾博物館などでの展覧会も自ら企画し、開催している。

本学図書館は、上記の通り資料・情報のユニバーサルアクセス化に関わる諸事業にもいち早く着手し時代のニーズに応えている。一方「気軽に利用しやすい」図書館を目指して、「文学文庫本コーナー」の新設、図書館利用者案内を学生手帳に合体する等の創意工夫も重ね、利用者サービスの向上と資料充実に努めている。

【特記事項について】

（1）この《Ⅲ教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

1) 公開授業

年1回、公開授業を開催している。この公開授業は高校生を対象としたものであるが、教員のFD活動の一環としても機能しており、学内の教員・職員も自由に参観することが可能なものとなっている。平成21年度は服装学科で2講座、生活造形学科で2講座開講した。

2) 公開審査会

服装学科では平成20年度文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム」（教育GP）に選定された「ファッションブランドビジネスモデルの構築—短大生のプロジェクトチームによる体験プログラム—」に取り組んでいるが、ファッションビジネスの現況に照らし合わせるチェック体制及び外部評価を踏まえ、アパレル関係のスペシャリストを招いて公開審査会を開催している。

3) 全学FD・SD研修会

毎年、年度初めに本学と併設大学の教職員全てが参画している研修会。
全学ファカルティ・ディベロップメント委員会が中心となって実施している。
（詳細はP25Ⅱ教育の内容【教育改善への努力について】(2)の項目に記載）

4) 自己点検・評価報告書の作成

平成18年度から全学自己点検・評価委員会が中心となって作成している。
（詳細はP115X改革・改善【自己点検・評価について】(2)の項目に記載）

5) 図書館以外の本学の教育施設

①服飾博物館

服飾博物館の概要と展示

服飾博物館は我が国における数少ない服飾の専門博物館であり、優れた実物資料に

Ⅲ 教育の実施体制

よる教育・研究を目指し昭和54年度に開館した。現在、年に4回テーマを設けて収蔵品を順次展示している。展示では、日本をはじめ、ヨーロッパのドレスや世界各地の民族衣装など、年間を通して多様な服飾を見ることができる。特に毎年4月には本学1年生向けに、18世紀から20世紀までのヨーロッパの服飾史をテーマとした展示を行っている。

服飾博物館の所蔵資料

資料は日本をはじめ、世界各地の服飾資料とその関連の資料も含めて収集している。

主な所蔵品は、日本では小袖や能装束、近代の宮廷服等、ヨーロッパでは18～20世紀のドレスや服飾品、オートクチュールのデザイナーの作品、その他、アジア、アフリカ、中南米など世界各地の民族衣装や染織品などがある。より包括的・体系的なコレクションを目指し、現在もさらに収集を続けている。

服飾博物館の活用

服飾博物館はすべての学生が自由（学生証呈示）に利用できることから、授業時間内での見学やレポートの提出等、授業にもしばしば活用している。また、一定の条件を満たせば、担当教員と服飾博物館学芸員の指導のもと、実物資料を特別に観覧することも可能である。授業の中ですぐれた実物資料を手本とし、その素材や縫製などを目にする機会を持つことは、学生の興味や意欲を引き出すことにもつながっている。

学内外への情報発信

服飾博物館は本学学生のみならず広く一般に公開されており（有料）、衣服や染織に関する知識を深め、服飾を通して日本と世界の諸文化を理解することに役立っている。また、所蔵資料を国内外の博物館に貸出し、展示も行っている。

所蔵資料は、経済産業省の推進する「高感性ファッション産業創成支援基盤整備事業」の一環として平成12年度にデータベース化され、ホームページ上で所蔵資料の検索ができ、本学学生のみならず、広く一般にも活用されている。

②ファッションリソースセンター

ファッションリソースセンターは学生が自由に利用できる機関で、通常のカリキュラムはもとより、ファッションショーやファッション研究に必要な情報を効果的に収集できる教育機能を持っている。

同センターはテキスタイル資料室・映像資料室・コスチューム資料室・企画室の4部門構成で、ファッション情報収集・分析・提供及び図書館、博物館との連携により高度な文化学園の「ファッション情報基地」として位置付けられている。

テキスタイル資料室

テキスタイル資料室には、布地（テキスタイル）に関する資料と情報を多面的に提供する機能が備わっており、常時8,000点を超える基本的な素材から最新のトレンド素材までデザイン発想を豊かにする布地を収集展示している。テキスタイル資料はデータベース化されておりデータとともに実物資料をテキスタイルフォルダーラックから取り出すことができる。パソコンコーナーではテキスタイルデザインソフトで織りや柄をデザインすることができ、学生が課題用などに自由に使える布地が準備されているコーナーもある。

映像資料室

映像資料室には五大都市（パリ、ミラノ、ロンドン、ニューヨーク、東京）の各ブランド、デザイナーたちの作品を資料室内の機器を利用して視聴することができ

る。

また、1946年のパリのオートクチュール作品から現在までの五大都市のコレクション画像データをパソコンで検索し、教材用としてプリントすることも可能となっている。

コスチューム資料室

コスチューム資料室には本学のファッションショー作品、文化服装学院の公開講座作品などを中心に、著名なデザイナー作品、企業の作品、装苑賞をはじめとする各コンクール受賞作品など、多種多彩な服飾資料の実物を約3万点収蔵しており、主に授業用サンプルとして使用している。コスチューム資料室については原則として本学園の教職員の利用にとどめている。

企画室

企画室では定期的にデザイナー作品やテキスタイルの展示、講演会、ワークショップなどを開催し学生のモチベーションを高める企画を提案している。

ファッションリソースセンターの施設・概要

名 称	面積 (㎡)	資料検索形態・設備・機器等の概要
テキスタイル資料室 実物資料数 約8,000点 データベース件数 約10,000点	270.39	資料検索=テキスタイル検索システム（ファイルメーカー） 検索機器=マッキントッシュ9台（内6台にテキスタイルデザインソフト4D-BOX搭載） 関連機器=実物素材収納ハンガーブース（32台）テキスタイルフォルダーラック（16台） 資料=見本帳類・辞書辞典
映像資料室 映像資料 約7,000点 データベース件数 約112,000点	211.82	資料検索=ワールドコレクション検索システム（ファイルメーカー） 資料形式=VTR・CD・CD-ROM・DVD デジタル画像検索機器=モニター22台・DVD/VTRプレーヤー22台 パソコン（マッキントッシュ10台）
コスチューム資料室 実物資料数 30,000点 データベース件数 約10,000点	413.23	資料検索=ロータリーハンガー方式コスチュームデータベース（情報館） 検索機器=ロータリーハンガー9台（一段式5台・二段式4段） エレクター9台（可動式スチール棚）

- ◆参考資料 49 平成21年度公開授業日程表
- 21 文部科学省選定 教育GP―質の高い大学教育推進プログラム―
「ファッションブランドビジネスモデルの構築」
平成20・21年度 報告書、パンフレット、DVD
- 50 文化学園服飾博物館案内パンフレット
- 51 文化学園ファッションリソースセンターパンフレット

（2）特別の事由や事情があり、この《Ⅲ教育の実施体制》の評価項目や評価の観点を求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

《Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果》

【単位認定について】

(1) 次の「単位認定の状況表」を例に、単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。なお、この表は平成21年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

1) 単位認定の方法

単位履修に関する細則第6条により、履修科目の単位は次の要件を充足した者に認定される。

① 授業時数3分の2以上出席した者

定期試験（レポート、論文、作品を含む、以下同じ）の受験資格は、授業時間数の3分の2以上出席した者に与えられる。

本学は創立以来、授業の出席には非常に厳しく対応している。無断欠席が続いた場合は、科目の担当教員と担任が連絡を取り学生本人に連絡をとる。状況によっては保護者にも連絡することもある。

② 定期試験において合格点に達した者

100点満点で60点以上を合格点とする。不合格となった場合は翌年度再履修することができる。

③ 当該年度の学費を納入した者

当該年度の学費が未納の場合は、学費納入が確認されるまでは成績評価はされず、単位認定はできない。

2) 評価の実態

成績評価については、通年開講科目は年度末、半期開講科目は学期ごとに行っている。成績評価は、授業への取り組み、小テストや課題などによる平常点、試験・レポート、作品制作等をもとに行う。

なお、全科目の評価方法をシラバスの「評価方法」の項目に明記している。評価基準は「単位履修に関する細則」に基づき、次による。

80点以上 A又はS

70点以上80点未満 B

60点以上70点未満 C

60点未満 E

C以上を合格、Eを不合格とする

本学では評価の制度を厳格にし、学生の学習意欲を育てる意味で、A評価対象者の中で特段に優秀な学生にS評価を与えることができる。

また、年度ごとにGPAを算出し、学科ごとに優秀者を表彰している。さらに2年間を通して成績最優秀者には卒業式で表彰している。

GPA (Grade Point Average) の計算方法

対象科目： 総合教養科目、外国語科目、
キャリア形成教育科目（選択）、
専門教育科目の最終評価。
ただし、コラボレーション科目、
「P」評価の認定科目は除く。

成績評価	ポイント換算	
A (S含む)	4	合格
B	3	
C	2	
C (再試験の場合)	1	
E	0	不合格

$$(A \cdot S \text{ 評価の科目単位合計} \times 4) + (B \text{ 評価の科目単位合計} \times 3) + (C \text{ 評価の科目単位合計} \times 2) + (C \text{ 評価 (再試) の科目単位合計} \times 1) + (E \text{ 評価の科目単位合計} \times 0) = \text{GPAポイント}$$

対象科目の単位数の合計

IV 教育目標の達成度と教育の効果

服装学科の単位認定の状況表 (平成21年度卒業生)

種別	授業科目名	授業 形態	履修 人員	主な単位 認定の方法	単位取得状況 (%)				最終の評価 (%)						
					本試	追試	再試	計	A	B	C	C (再試)	E	P	
総合 教育 科目	A (人間と文化)	文学	講義	8	出席状況・受講態度・筆記試験・提出物	87.5	0.0	0.0	87.5	62.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0
		史学	講義	51	出席状況50%・小課題25%・レポート25%	100.0	0.0	0.0	100.0	98.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		日本の文化	講義	7	出席状況・課題・テスト又はレポート	85.7	0.0	0.0	85.7	71.4	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0
		人間と文化A	講義	76	レポート・試験・出席状況	94.7	0.0	0.0	94.7	67.1	23.7	3.9	0.0	5.3	0.0
		英語の世界	講義	17	出席率50%・試験結果50%	94.1	0.0	5.9	100.0	23.5	29.4	41.2	5.9	0.0	0.0
		中国のことばと文化	講義	55	出席状況・授業に対する意欲	85.5	0.0	0.0	85.5	32.7	52.7	0.0	0.0	14.5	0.0
		文章作法	講義	19	文章・話し方・内容・出席率	100.0	0.0	0.0	100.0	68.4	31.6	0.0	0.0	0.0	0.0
		人間と文化Z	講義	11	出席状況・提出課題	100.0	0.0	0.0	100.0	27.3	63.6	9.1	0.0	0.0	0.0
	B (人間と社会)	社会学	講義	41	出席率・レポート・定期試験結果	100.0	2.4	0.0	100.0	75.6	22.0	2.4	0.0	0.0	0.0
		国際理解論	講義	69	レポート・出席状況・授業への参加度	97.1	0.0	0.0	97.1	82.6	14.5	0.0	0.0	2.9	0.0
		経済学	講義	62	試験・問題意識	98.4	0.0	0.0	98.4	77.4	9.7	11.3	0.0	1.6	0.0
		法学	講義	39	出席30%・定期試験70%	97.4	0.0	0.0	97.4	94.9	0.0	2.6	0.0	2.6	0.0
		文化人類学	講義	5	論述試験70%・出席30%	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		マスメディアの現場を知る	講義	17	出席率50%・試験50%	94.1	0.0	0.0	94.1	47.1	41.2	5.9	0.0	5.9	0.0
		人間と社会A	講義	36	出席率・受講態度・試験	100.0	0.0	0.0	100.0	44.4	47.2	8.3	0.0	0.0	0.0
		人間と社会X	講義	21	出席状況・レポート	100.0	0.0	0.0	100.0	90.5	0.0	9.5	0.0	0.0	0.0
	C (人間と自然)	物理学	講義	4	出席状況・レポート	100.0	0.0	0.0	100.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
		生物学	講義	50	出席状況・授業態度・テスト	98.0	0.0	0.0	98.0	84.0	10.0	4.0	0.0	2.0	0.0
		心理学	講義	83	出席率30%・授業態度30%・試験・レポート40%	98.8	1.2	0.0	98.8	86.7	4.8	7.2	0.0	1.2	0.0
		化学	講義	19	出席10%・試験90%	100.0	0.0	0.0	100.0	68.4	31.6	0.0	0.0	0.0	0.0
		臨床心理学	講義	45	レポート40%・出席と授業の取り組み30%・提出物30%	73.3	0.0	6.7	80.0	11.1	26.7	35.6	6.7	20.0	0.0
		人間と自然A	講義	38	出席状況・課題・レポート・定期試験	97.4	0.0	0.0	97.4	86.8	7.9	2.6	0.0	2.6	0.0
		スポーツ演習	演習	90	出席60%・レポート20%・技術・態度・意欲20%	96.7	0.0	0.0	96.7	60.0	22.2	14.4	0.0	3.3	0.0
		人間と自然Z	講義	11	出席率・レポート・授業態度	100.0	0.0	0.0	100.0	81.8	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0
外国語科目	英語Ⅰ	演習	136	出席状況・学習態度・授業参加態度・試験	95.6	0.7	4.4	100.0	46.3	32.4	16.9	4.4	0.0	0.0	
	フランス語Ⅰ	演習	40	出席状況・試験	97.5	0.0	0.0	97.5	57.5	7.5	32.5	0.0	2.5	0.0	
	日本語Ⅰ	演習	6	出席率・授業態度・課題・提出物・小テスト・定期試験	100.0	0.0	0.0	100.0	16.7	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	日本語表現	演習	4	出席率・授業態度・課題・提出物・小テスト・定期試験	100.0	0.0	0.0	100.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
	英語Ⅱ	演習	12	出席率50%・定期試験50%	91.7	0.0	0.0	91.7	41.7	25.0	25.0	0.0	8.3	0.0	
	フランス語Ⅱ	演習	2	試験60%・出席40%	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	日本語Ⅱ	演習	1	出席率と授業態度25%・課題と小テスト25%・定期試験50%	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	オールラウンドイングリッシュ	演習	6	授業態度50%・定期試験50%	83.3	0.0	0.0	83.3	16.7	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	
形成 教育 科目	キャリアデザイン (導入編) -フレッシュマンキャンパー	演習	181	キャンパス参加・レポート	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	キャリアデザイン (展開編) -コースセミナー	演習	181	セミナー参加60%・レポート40%	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	クリエイティブキャリア論	講義	39	出席状況30%・グループワークや実習への参加30%・最終レポート40%	100.0	0.0	0.0	100.0	59.0	41.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
専門 教育 科目	共通 必修 科目	服装社会学	講義	181	定期試験・出席状況	98.3	0.6	1.7	100.0	38.1	33.7	26.5	1.7	0.0	0.0
		服装デザイン	講義	181	出席状況・授業態度・試験・レポート	96.7	1.7	3.3	100.0	84.0	7.7	5.0	3.3	0.0	0.0
		カラーコーディネート論	講義	181	定期試験・レポート課題・出席状況	98.9	2.2	1.1	100.0	53.0	27.1	18.8	1.1	0.0	0.0
		ファッションデザイン画Ⅰ	実習	181	出席状況・提出課題	98.9	0.0	1.1	100.0	33.7	53.6	11.6	1.1	0.0	0.0
		ファッションマテリアル	講義	181	出席状況・レポート・定期試験	95.6	3.3	4.4	100.0	68.0	26.5	1.1	4.4	0.0	0.0
		ビジネス実務演習	演習	181	出席状況・試験・提出物・受講態度	99.4	1.1	0.6	100.0	70.2	23.8	5.5	0.6	0.0	0.0
		ファッションビジネス論Ⅰ	講義	181	定期試験70%・出席率30%	97.2	0.6	2.8	100.0	35.4	38.7	23.2	2.8	0.0	0.0

Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)				最終の評価 (%)					
					本試	追試	再試	計	A	B	C	C (再試)	E	P
専門教育科目	ファッション造形論Ⅰ	講義	78	定期試験・レポート・出席率・受講態度	93.6	0.0	19.2	100.0	59.0	34.6	0.0	6.4	0.0	0.0
	ファッション造形実習Ⅰ	実習	78	作品・着装発表会・プロセス・提出期限・出席率・授業態度	100.0	3.8	0.0	100.0	79.5	20.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	ファッション造形論Ⅱ	講義	78	定期試験・レポート・出席率・受講態度	92.3	2.6	10.3	100.0	83.3	9.0	0.0	7.7	0.0	0.0
	ファッション造形実習Ⅱ	実習	78	作品・着装発表会・プロセス・提出期限・出席率・実習態度	100.0	5.1	0.0	100.0	70.5	29.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	立体的断演習Ⅰ	演習	78	課題作品・提出物・提出物期限・作品発表・授業態度・出席率	100.0	1.3	0.0	100.0	78.2	19.2	2.6	0.0	0.0	0.0
	ファッションデザイン演習Ⅰ	演習	78	課題作品・提出物・提出物期限・作品発表・授業態度・出席率	100.0	0.0	0.0	100.0	87.2	11.5	1.3	0.0	0.0	0.0
	ファッショングラフィック(刺しゅう)	実習	78	作品・授業態度・出席	96.2	0.0	3.8	100.0	82.1	14.1	0.0	3.8	0.0	0.0
	ファッションクラフトA	実習	22	作品・授業態度・出席	86.4	0.0	0.0	86.4	45.5	31.8	9.1	0.0	13.6	0.0
	ファッションデザイン画Ⅱ	実習	88	出席状況・提出課題	81.8	10.2	20.5	97.7	36.4	35.2	10.2	15.9	2.3	0.0
	ファッショングラフィック(編物)	実習	69	作品・授業態度・出席	88.4	0.0	5.8	92.8	62.3	21.7	4.3	4.3	7.2	0.0
	ファッションクラフトB	実習	8	課題提出50%・出席状況と授業態度50%	87.5	0.0	0.0	87.5	87.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
	服装学概説	講義	99	レポート・出席・授業態度	92.9	0.0	1.0	92.9	87.9	4.0	1.0	0.0	7.1	0.0
	被服管理学	講義	145	出席・レポート	97.9	0.0	2.1	99.3	77.2	18.6	2.1	1.4	0.7	0.0
	コンピュータグラフィックス演習	演習	48	課題作品60%・レポート20%・出席状況20%	89.6	0.0	0.0	89.6	41.7	35.4	12.5	0.0	10.4	0.0
	ファッションデザイン史	講義	158	出席・試験・授業態度	94.3	0.0	1.9	96.2	68.4	24.7	1.3	1.9	3.8	0.0
	ビジネスキャリア論	講義	146	授業・グループワークへの参加度・学習態度・レポート	97.9	4.1	0.0	97.9	84.2	11.0	2.7	0.0	2.1	0.0
	コンピュータサイエンス	講義	7	出席状況・授業態度・小レポート・筆記試験	71.4	0.0	0.0	71.4	57.1	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0
	ファッションコーディネート論	講義	174	定期試験・小テスト・レポート・マップ作成・出席状況・授業態度	93.7	1.1	8.0	99.4	56.9	35.1	1.7	5.7	0.6	0.0
	アパレル製品論Ⅰ	講義	103	試験・レポート・出席率・授業態度	95.1	0.0	13.6	100.0	70.9	24.3	0.0	4.9	0.0	0.0
	アパレル製品製作実習Ⅰ	実習	103	レポート・出席率・授業態度	100.0	0.0	0.0	100.0	88.3	11.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	ファッションマーケティング論Ⅰ	講義	103	試験・出席率・授業態度・課題提出状況・プレゼンテーション	100.0	0.0	0.0	100.0	25.2	67.0	7.8	0.0	0.0	0.0
	ファッションビジネス論Ⅱ	講義	103	試験・出席率・学習態度	100.0	0.0	0.0	100.0	32.0	54.4	13.6	0.0	0.0	0.0
	ビジネスPC演習	演習	103	出席と授業態度・演習への取り組み・課題提出状況	100.0	0.0	0.0	100.0	77.7	19.4	2.9	0.0	0.0	0.0
	マーチャンダイジング演習	演習	103	出席状況・授業態度・提出物・発表表現	100.0	0.0	0.0	100.0	75.7	16.5	7.8	0.0	0.0	0.0
	ファッション造形論Ⅲ	講義	78	定期試験60%・出席率15%・受講態度15%・レポート10%	87.2	0.0	14.1	100.0	76.9	10.3	0.0	12.8	0.0	0.0
	ファッション造形論Ⅳ	講義	78	定期試験60%・出席率15%・受講態度15%・レポート10%	92.3	1.3	10.3	100.0	59.0	33.3	0.0	7.7	0.0	0.0
	ファッションデザイン演習Ⅱ	演習	78	課題作品と提出物50%・作品発表20%・出席率と授業態度20%・提出期限10%	98.7	2.6	1.3	100.0	62.8	26.9	9.0	1.3	0.0	0.0
	ファッション造形実習Ⅲ	実習	78	作品50%・出席率と授業態度30%・着装発表10%・提出期限10%	98.7	3.8	1.3	100.0	61.5	32.1	5.1	1.3	0.0	0.0
	ファッション造形実習Ⅳ	実習	78	作品50%・出席率と授業態度30%・着装発表10%・提出期限10%	96.2	3.8	5.1	100.0	56.4	37.2	2.6	3.8	0.0	0.0
	アパレルCAD演習	演習	25	小テストと提出物50%・出席率30%・授業態度20%	100.0	4.0	0.0	100.0	72.0	24.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	立体的断演習Ⅱ	演習	33	課題作品50%・実習授業態度25%・出席状況25%	100.0	0.0	0.0	100.0	60.6	24.2	15.2	0.0	0.0	0.0
	ファッションデザイン画Ⅲ	実習	25	出席状況20%・提出課題80%	56.0	8.0	20.0	76.0	20.0	28.0	8.0	20.0	24.0	0.0
	アパレル商品学	講義	50	授業態度20%・出席20%・レポート提出20%・定期試験40%	98.0	0.0	0.0	98.0	18.0	48.0	32.0	0.0	2.0	0.0
	バイヤー実務論	講義	103	定期試験70%・出席状況と授業態度15%・課題提出15%	89.3	1.0	10.7	100.0	37.9	24.3	27.2	10.7	0.0	0.0
	ファッションマーケティング論Ⅱ	講義	103	試験60%・授業態度20%・出席20%	90.3	0.0	9.7	100.0	20.4	38.8	31.1	9.7	0.0	0.0
	ファッションビジネスセミナー	講義	103	出席率50%・レポート提出50%	100.0	0.0	0.0	100.0	32.0	65.0	2.9	0.0	0.0	0.0
	販売実務演習	演習	103	出席率25%・授業態度25%・レポートとグループワーク50%	100.0	0.0	0.0	100.0	28.2	55.3	16.5	0.0	0.0	0.0
	ディスプレイ演習	演習	103	小テスト40%・授業態度30%・出席30%	97.1	0.0	2.9	100.0	31.1	41.7	24.3	2.9	0.0	0.0
	アパレル製品論Ⅱ	講義	103	試験60%・レポート20%・授業態度10%・出席率10%	87.4	1.0	13.6	100.0	51.5	34.0	1.9	12.6	0.0	0.0
	和裁	実習	34	出席状況30%・授業態度20%・作品50%	79.4	0.0	0.0	79.4	73.5	5.9	0.0	0.0	20.6	0.0
	平面作図	実習	31	試験30%・ノート点検30%・授業態度20%・出席率20%	100.0	0.0	0.0	100.0	71.0	25.8	3.2	0.0	0.0	0.0
	立体的断演習	演習	6	課題60%・授業態度20%・出席率20%	100.0	0.0	0.0	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	パターンメイキング人体論	講義	41	出席と授業態度50%・定期試験とレポート50%	87.8	0.0	7.3	95.1	31.7	24.4	31.7	7.3	4.9	0.0

IV 教育目標の達成度と教育の効果

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位 認定の方法	単位取得状況 (%)				最終の評価 (%)					
					本試	追試	再試	計	A	B	C	C (再試)	E	P
専 門 教 育 科 目	快適デザイン論	講義	26	出席と授業態度50%・ 定期試験とレポート50%	100.0	0.0	0.0	100.0	96.2	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	日本服装史	講義	81	出席状況30%・受講態度 20%・レポート50%	100.0	0.0	0.0	100.0	81.5	13.6	4.9	0.0	0.0	0.0
	西洋服装史	講義	87	出席状況30%・定期試験 50%・授業態度20%	94.3	0.0	2.3	96.6	73.6	14.9	5.7	2.3	3.4	0.0
	ファッションクラブ（服飾造花）	実習	35	課題提出50%・ 授業態度と出席状況50%	77.1	0.0	5.7	82.9	57.1	11.4	8.6	5.7	17.1	0.0
	ファッションクラブ（帽子）	実習	44	課題提出50%・ 出席状況と授業態度50%	81.8	0.0	0.0	81.8	75.0	4.5	2.3	0.0	18.2	0.0
	デザイン発想	講義	39	提出作品70%・出席状況 15%・受講態度15%	74.4	0.0	0.0	74.4	53.8	20.5	0.0	0.0	25.6	0.0
	流行論	講義	130	授業態度50%・試験50%	83.1	4.6	13.8	96.9	46.9	26.9	9.2	13.8	3.1	0.0
	ファッション情報論	講義	60	期末試験50%・提出課題 30%・授業貢献度と出席状況 20%	96.7	0.0	0.0	96.7	26.7	66.7	3.3	0.0	3.3	0.0
	アパレル製品製作実習Ⅱ	実習	24	課題60%・授業態度20%・ 出席率20%	100.0	0.0	0.0	100.0	95.8	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	アパレル製品製作実習Ⅲ	実習	7	課題60%・授業態度20%・ 出席率20%	85.7	0.0	0.0	85.7	85.7	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
	アパレル生産・流通論	講義	31	試験60%・レポート20%・ 授業態度10%・出席率10%	38.7	0.0	51.6	90.3	22.6	16.1	0.0	51.6	9.7	0.0
	グラフィックPOPデザイン演習	演習	48	課題60%・ 出席と授業態度40%	97.9	0.0	0.0	97.9	27.1	64.6	6.3	0.0	2.1	0.0
	店舗設計実習	実習	51	出席状況と授業態度50%・ グループ課題40%・小テスト10%	96.1	0.0	3.9	100.0	45.1	33.3	17.6	3.9	0.0	0.0
	インテリアデザイン論	講義	104	出席状況40%・期末試験60%	82.7	1.0	14.4	96.2	34.6	32.7	15.4	13.5	3.8	0.0
学 生 チ ーム に よ る	服装心理学	講義	68	出席率30%・授業態度30%・ 試験とレポート40%	100.0	0.0	0.0	100.0	88.2	7.4	4.4	0.0	0.0	0.0
	学生チームによる 「フロント・ビズ・ネスモデル」の構築	講義	39	出席率50%・課題50%	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

生活造形学科の単位認定の状況表 (平成21年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位 認定の方法	単位取得状況 (%)				最終の評価 (%)					
					本試	追試	再試	計	A	B	C	C (再試)	E	P
総 合 教 養 科 目	A （人間と文化）	文学	3	出席状況・受講態度・ 筆記試験・提出物	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		史学	37	出席状況50%・小課題25%・ レポート25%	100.0	0.0	0.0	100.0	89.2	10.8	0.0	0.0	0.0	0.0
		日本の文化	2	出席状況・課題・期末のテスト またはレポート	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		人間と文化A	32	レポート・試験・出席状況	90.6	3.1	0.0	90.6	71.9	18.8	0.0	0.0	9.4	0.0
		英語の世界	5	出席率・試験	100.0	0.0	0.0	100.0	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		中国のことばと文化	19	出席状況・授業への意欲	89.5	0.0	0.0	89.5	63.2	26.3	0.0	0.0	10.5	0.0
		文章作法	7	出席・課題提出状況	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		人間と文化Z	4	出席と提出課題	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	B （人間と社会）	社会学	33	出席率・レポート・ 定期試験	100.0	0.0	0.0	100.0	81.8	15.2	3.0	0.0	0.0	0.0
		国際理解論	51	レポート・出席状況・ 授業への参加度	100.0	0.0	0.0	100.0	88.2	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0
		経済学	22	試験・問題意識	95.5	0.0	0.0	95.5	72.7	18.2	4.5	0.0	4.5	0.0
		法学	3	出席30%・定期試験70%	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		文化人類学	13	論述試験70%・出席30%	92.3	0.0	0.0	92.3	92.3	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0
		マスメディアの現場を知る	21	出席率50%・試験50%	90.5	0.0	0.0	90.5	42.9	47.6	0.0	0.0	9.5	0.0
		人間と社会A	11	出席率・受講態度・試験	100.0	0.0	0.0	100.0	45.5	18.2	36.4	0.0	0.0	0.0
		人間と社会X	5	出席・レポート提出	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		人間と社会Z	1	受講態度・レポート・ 出席率	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	C （人間と自然）	物理学	5	出席状況・課題レポート	100.0	0.0	0.0	100.0	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
		生物学	38	出席・授業態度・テスト	100.0	0.0	0.0	100.0	76.3	21.1	2.6	0.0	0.0	0.0
		心理学	31	出席率30%・授業態度30%・ 試験・レポート40%	100.0	0.0	0.0	100.0	90.3	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0
		化学	6	出席10%・試験90%	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		臨床心理学	7	レポート40%・出席と授業の 取組30%・提出物30%	71.4	0.0	0.0	71.4	0.0	42.9	28.6	0.0	28.6	0.0
		人間と自然A	24	出席状況・課題・提起試験	95.8	0.0	0.0	95.8	79.2	12.5	4.2	0.0	4.2	0.0
		スポーツ演習	33	出席60%・レポート20%・ 技術・態度・意欲20%	100.0	0.0	0.0	100.0	75.8	15.2	9.1	0.0	0.0	0.0
		人間と自然Z	1	出席・レポート・授業態度	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位 認定の方法	単位取得状況（％）				最終の評価（％）						
					本試	追試	再試	計	A	B	C	C（再試）	E	P	
外国語科目	英語Ⅰ	演習	36	出席状況・学習態度・授業参加態度	100.0	0.0	0.0	100.0	61.1	25.0	13.9	0.0	0.0	0.0	
	フランス語Ⅰ	演習	36	出席・試験	91.7	0.0	8.3	94.4	27.8	47.2	16.7	2.8	5.6	0.0	
	日本語Ⅰ	演習	2	出席率・授業態度・課題・提出物・小テスト・定期試験	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	日本語表現	演習	1	出席率・授業態度・課題・提出物・小テスト・定期試験	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	英語Ⅱ	演習	11	出席率50％・定期試験50％	90.9	0.0	0.0	90.9	27.3	27.3	36.4	0.0	9.1	0.0	
	フランス語Ⅱ	演習	3	試験60％・出席40％	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	
	日本語Ⅱ	演習	1	出席率と授業態度25％・課題と小テスト25％・定期試験50％	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	オールラウンダリシユ	演習	1	出席と授業態度50％・テスト50％	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
形成キャリア科目	キャリアデザイン（導入編） －フレッシュマンキャンプ－	演習	71	キャンプ参加・レポート提出	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	キャリアデザイン（展開編） －コースセミナー－	演習	71	セミナー参加・レポート提出	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
	クリエイティブキャリア論	講義	22	出席率30％・グループワーク20％・レポート50％	100.0	0.0	0.0	100.0	59.1	22.7	18.2	0.0	0.0	0.0	
専門教育科目	共通必修科目	デザイン論	講義	71	出席・授業態度・レポート	100.0	0.0	0.0	100.0	78.9	15.5	5.6	0.0	0.0	0.0
		美術概論	講義	71	出席・授業態度・筆記試験	100.0	0.0	0.0	100.0	73.2	26.8	0.0	0.0	0.0	0.0
		色彩学	講義	71	定期試験・レポート・出席	100.0	0.0	0.0	100.0	67.6	26.8	5.6	0.0	0.0	0.0
		基礎造形A	実習	71	作品・出席率・授業参加意欲・学習態度	100.0	0.0	0.0	100.0	57.7	39.4	2.8	0.0	0.0	0.0
		基礎造形B	実習	71	作品・出席率・授業参加意欲・学習態度	100.0	0.0	0.0	100.0	76.1	23.9	0.0	0.0	0.0	0.0
	素描	実習	52	作品・出席率・授業参加意欲・学習態度	100.0	19.2	0.0	100.0	55.8	42.3	1.9	0.0	0.0	0.0	
	絵画	実習	53	作品・出席率・授業態度	100.0	9.4	0.0	100.0	69.8	30.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	彫刻	実習	54	全作品提出・受講態度・出席率	98.1	0.0	0.0	98.1	72.2	25.9	0.0	0.0	1.9	0.0	
	デザイン表現素材演習	演習	30	ファイル提出・授業態度	100.0	0.0	0.0	100.0	73.3	26.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	住居学	講義	55	出席状況・レポート・テスト	80.0	0.0	14.5	94.5	29.1	36.4	14.5	14.5	5.5	0.0	
	造形とCG演習A	演習	40	全作品提出・受講態度・出席率	100.0	0.0	0.0	100.0	72.5	17.5	10.0	0.0	0.0	0.0	
	色彩計画	講義	67	出席状況・定期試験・レポート	100.0	0.0	0.0	100.0	80.6	17.9	1.5	0.0	0.0	0.0	
	インテリアデザイン論	講義	49	出席率・定期試験	53.1	0.0	36.7	85.7	34.7	8.2	10.2	32.7	14.3	0.0	
	インテリアコレクション概論	講義	36	出席率・授業態度	97.2	0.0	0.0	97.2	58.3	38.9	0.0	0.0	2.8	0.0	
	基礎織物	実習	17	出席・授業態度・課題	100.0	0.0	0.0	100.0	76.5	17.6	5.9	0.0	0.0	0.0	
	基礎染色	実習	21	出席・授業態度・課題作品	100.0	0.0	0.0	100.0	90.5	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	プリントデザイン実習	実習	52	作品・出席率・プロセス	100.0	0.0	0.0	100.0	46.2	36.5	17.3	0.0	0.0	0.0	
	生活雑貨基礎演習A	演習	37	全作品提出・受講態度・出席率	100.0	0.0	0.0	100.0	73.0	21.6	5.4	0.0	0.0	0.0	
	生活雑貨基礎演習B	演習	38	作品・レポート・ファイル・プロセス・受講態度・出席率	100.0	0.0	0.0	100.0	76.3	23.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	基礎設計製図A	演習	35	全作品提出・出席率・取組姿勢	100.0	0.0	0.0	100.0	34.3	60.0	5.7	0.0	0.0	0.0	
	インテリア基礎演習	演習	47	作品・出席率・課題提出状況・実習態度	97.9	0.0	0.0	97.9	57.4	36.2	4.3	0.0	2.1	0.0	
	生活雑貨デザイン実習Ⅰ	実習	38	課題提出・プロセス・受講態度・出席率	100.0	0.0	0.0	100.0	42.1	44.7	13.2	0.0	0.0	0.0	
	インテリアコレクション演習Ⅰ	演習	12	出席率・課題提出状況・授業態度	100.0	0.0	0.0	100.0	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	基礎設計製図B	演習	21	全作品提出・出席率・取組姿勢	100.0	0.0	0.0	100.0	61.9	28.6	9.5	0.0	0.0	0.0	
	インテリアデザイン演習Ⅰ	演習	21	作品・プロセス・出席率・授業態度・課題提出状況	100.0	0.0	0.0	100.0	90.5	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	生活デザイン論	講義	67	提出課題50％・定期試験35％・出席15％	100.0	1.5	0.0	100.0	76.1	17.9	6.0	0.0	0.0	0.0	
	立体表現の図学	演習	36	提出物60％・出席状況40％	97.2	0.0	0.0	97.2	72.2	25.0	0.0	0.0	2.8	0.0	
	造形心理学	講義	66	出席率30％・授業態度30％・試験・レポート40％	98.5	1.5	1.5	98.5	72.7	21.2	4.5	0.0	1.5	0.0	
	近代のデザイン	講義	55	レポート提出50％・出席率50％	96.4	0.0	0.0	96.4	65.5	9.1	21.8	0.0	3.6	0.0	
	文様の世界	講義	45	出席40％・レポート60％	100.0	0.0	0.0	100.0	48.9	42.2	8.9	0.0	0.0	0.0	
	基礎造形演習	演習	43	作品評価50％・授業態度25％・出席25％	97.7	0.0	0.0	97.7	30.2	51.2	16.3	0.0	2.3	0.0	
	造形とCG演習B	演習	39	授業参加姿勢20％・レポート20％・制作課題60％	94.9	0.0	0.0	94.9	64.1	28.2	2.6	0.0	5.1	0.0	
	生活雑貨論	講義	26	出席20％・授業態度20％・レポート60％	100.0	0.0	0.0	100.0	84.6	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	

Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)				最終の評価 (%)					
					本試	追試	再試	計	A	B	C	C (再試)	E	P
専門教育科目	住居計画	講義	30	定期試験70%・出席状況30%	90.0	3.3	10.0	100.0	30.0	50.0	10.0	10.0	0.0	0.0
	生活雑貨デザイン実習Ⅱ	実習	38	作品評価60%・受講態度20%・出席率20%	100.0	0.0	0.0	100.0	68.4	15.8	15.8	0.0	0.0	0.0
	生活雑貨デザイン演習	演習	38	作品60%・出席率20%・受講態度20%	100.0	0.0	0.0	100.0	42.1	52.6	5.3	0.0	0.0	0.0
	インテリアデコレーション演習Ⅱ	演習	12	課題40%・出席30%・授業態度30%	100.0	0.0	0.0	100.0	91.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	インテリアデコレーション実習	実習	12	出席状況30%・実習態度30%・課題提出40%	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	インテリアデザイン実習	実習	21	提出物60%・出席状況20%・取組姿勢20%	100.0	0.0	0.0	100.0	81.0	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	インテリアデザイン演習Ⅱ	演習	21	課題40%・出席30%・授業態度30%	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	創作実習	実習	71	作品60%・出席率20%・受講態度20%	100.0	0.0	0.0	100.0	80.3	14.1	5.6	0.0	0.0	0.0

専攻科被服専攻の単位認定の状況表 (平成21年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)				最終の評価 (%)						
					本試	追試	再試	計	S	A	B	C	C (再試)	E	P
必修科目	特別講義	講義	33	レポート50%・出席状況30%・学習態度20%	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	72.7	21.2	6.1	0.0	0.0	0.0
	ショー企画演習	演習	33	定期試験30%・出席状況と授業態度30%・取組姿勢40%	100.0	0.0	0.0	100.0	6.1	30.3	45.5	18.2	0.0	0.0	0.0
	服装造形論及び実習Ⅰ	講義実習	33	課題提出45%・定期試験40%・出席状況15%	97.0	0.0	9.1	100.0	9.1	54.5	33.3	0.0	3.0	0.0	0.0
	服装造形論及び実習Ⅱ	講義実習	33	提出物45%・定期試験40%・出席率と学習態度15%	100.0	0.0	0.0	100.0	3.0	93.9	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	立体裁断A	実習	33	提出作品60%・出席率20%・学習態度20%	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	57.6	42.4	0.0	0.0	0.0	0.0
	立体裁断B	実習	33	提出作品60%・出席率20%・学習態度20%	97.0	18.2	3.0	100.0	0.0	78.8	18.2	0.0	3.0	0.0	0.0
	ファッションマテリアル特論	講義	11	出席40%・定期試験60%	72.7	0.0	27.3	100.0	18.2	27.3	27.3	0.0	27.3	0.0	0.0
選択科目	アパレル産業論	講義	6	期末レポート試験50%・提出課題30%・授業貢献度と出席状況20%	83.3	0.0	0.0	83.3	0.0	83.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	ディスプレイ	実習	27	課題40%・授業態度30%・出席状況30%	100.0	0.0	0.0	100.0	3.7	66.7	25.9	3.7	0.0	0.0	0.0
	ファッションクラフト	実習	19	課題提出50%・出席状況と授業態度50%	94.7	0.0	0.0	94.7	5.3	57.9	26.3	5.3	0.0	5.3	0.0
	立体裁断演習	演習	11	課題作品50%・学習態度30%・出席率20%	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	72.7	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	工業用パターンメイキング	実習	10	小テスト60%・課題提出30%・出席率10%	100.0	0.0	0.0	100.0	10.0	60.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ファッションデザイン演習	演習	3	出席状況20%・提出課題80%	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	インターンシップ(企業研修)	実習	4	出席状況60%・企業評価30%・レポート10%	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

- ◆参考資料 52 Student's Manual 履修要項2008・2009 単位履修に関する細則
53 授業計画 (Syllabus) 平成20・21年度

(2) 学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

1) 服装学科

単位認定は『履修要項』に明示されている「単位履修に関する細則」に従って行っている。各科目の評価方法は、担当教員がシラバスに詳細に記載し、学生への徹底を図っている。

本学科は常に科目の担当教員を中心に、クラス担任・副担任が協力して学生個々の授業状況や単位取得状況を確認しており、1/3 以上欠席した科目は定期試験の受験を不可としている。講義科目については、試験結果と出席状況を重視して評価し、実習科目については課題提出・レポート提出・出席状況を総合して評価している。

課題未提出者へは、担当教員が個別に指導して単位取得を促している。現状で

Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

は単位の取得状況が極端に低い科目は見受けられず、単位認定の方法、単位の取得状況、評価の現状については、特に問題はないと受け止めている。

2) 生活造形学科

単位認定の方法等は『履修要項』に明示されている「単位履修に関する細則」に基づいて行っている。また、シラバスに示された評価方法「課題作品 授業への参加度」等により評価し、単位認定を行っている。「授業への参加度」は、実習科目の多い本学科の特徴ある評価方法と考えている。

単位の取得状況については、概ね良好であると受け止めている。また、実習科目については、高い評価の人数が多い場合が見受けられるが、年度により多少の差異はあるものの、学生の実習への取組みに対するごく自然な評価結果と受け止めている。

なお、本学は平成15年度入学生から「GPA制度」を導入し、厳正な成績評価を行うことに努めている。学生は自身のGPAポイントで、1単位あたりどれだけ高い学習成果を上げたかを計り、自身の学習達成度を知ることが可能となっている。

また、平成21年度入学生より評価の制度をより厳格にし、学生の学習意欲を育てる意味で、A評価対象者の中でも特段に優秀で、出席や学習に対する意欲等において他の学生の模範となる学生に「S評価」を与えている。

◇添付資料 2 Student's Manual 履修要項2010 単位履修に関する細則第5条

(3)学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

平成10年度に卒業要件単位を70単位以上に増加させ、1・2年次を通じた学科目の配列を見直し段階を追った履修を可能にし、習熟度を確認しやすくした。

そして「単位履修に関する細則」に基づいて、単位認定と単位取得が効果的に図られるよう配慮した。基本的には、半期(15回)の授業で単位認定、単位取得のシステムとなり、シラバスに従った授業と学生の学習によって進められているといえる。さまざまな理由から、単位履修に滞りが生じる学生へのケアは、担当教員とクラス担任・副担任による指導、助言が効果的に機能している。成績評価については、総合的な評価をシラバスに予め掲げるとともに、作品評価などにおいては教員間の調整を密にしている。また、厳密な評価と優秀者(S評価)を明確にすることに努め、GPA制度を導入し客観的評価による表彰制度も取り入れ、学生の積極的な取り組みを促進している。

GPA優秀賞受賞者数

※表の数は入学から卒業までの延べ人数

	平成18年度入学生	平成19年度入学生	平成20年度入学生
服 装 学 科	2	8	9
生 活 造 形 学 科	6	5	2
合 計	8	13	11

【授業に対する学生の満足度について】

(1)各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

本学では平成13年度～平成15年度に全学自己点検・評価委員会が実施した「授業アンケート」、平成16年度～平成19年度に教務委員会（旧：カリキュラム委員会）が実施した「コラボレーション科目に関するアンケート」、平成20年度より全学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「全学FD委員会」という）が実施している「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」がある。（この概要についてはP24Ⅱ教育の内容【授業改善への努力について】(1)の項目参照）

また、本学では学生支援委員会（旧：学生生活委員会）と学生課が中心となって行う「学生生活調査」を3年ごとに実施している。この調査は昭和52年度以来継続的に実施しているものであり、設問項目は多岐にわたるが、その中で「受講科目の満足度」について設問を設けている。

内容は科目種別ごと（総合教養科目・外国語科目・専門教育科目・資格関連科目・授業への希望）の満足度評価に関するものであり、アンケート結果については「学生生活調査結果報告書」の冊子にまとめて学内外に公表している。このアンケート結果を受け、各授業担当の学科・コースや研究室において課題認識と改善方策等を協議し、授業の満足度向上に努めている。

- ◆参考資料 13 授業アンケート実施報告 平成14・15年度
 14 2006「コラボレーション科目」アンケート調査報告書
 15 2007「コラボレーション科目」アンケート調査報告書Ⅰ・Ⅱ
 17 平成20年度「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」に関する集計表及び結果報告書
 54 2007 学生生活調査結果報告書
<http://bwu.bunka.ac.jp/life/index.html>

(2)担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

1) 服装学科

学科会議やクラス担任会議を通じて、日常の授業の進捗状況や学生の満足度について掌握している。学科全体の問題として捉え、改善策を教員全体で協議することとしている。さらに学生の意見を聞き、担当教員にもオープンにフィードバックしている。

2) 生活造形学科

学科会議等での情報交換もあるが、研究室が共用空間であり、担当教員は、通常の会話の中で学生の授業への取組状況や進捗状況などについて情報交換し、満足度について意識していると認識している。しかし、心身面の健康に問題がある学生への対応と並行しつつ、それら学生の満足度をどのように確保していくかが課題でもある。

Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

授業に対する学生の満足度については、当初は学生支援委員会（旧：学生生活委員会）と学生課が共同で3年毎に実施している「学生生活調査」や、平成14年度以降行ってきた「授業アンケート」の結果を踏まえ、総合教養科目、外国語科目について改善してきた。また、時間割編成、シラバスの見直し等も行い、常にカリキュラム・授業内容の改善等に積極的に全教職員で取り組んでいる。

平成20年度に前述（1）の通り「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」によって満足度を精密に測り、問題点を明らかにした。

基本的に授業に関する満足度は高いといえるが、専門教育科目に比べて、総合教養科目、外国語科目に関して学生から課題となる意見が少なからず見受けられる。特に、学生に自由記述させた部分で、同一科目に5名以上の記述があったものについては、満足度の高低両面にわたるものを、担当教員へフィードバックした。このように、本学では、学生の満足度についても常に配慮し、授業改善に努め、PDCAサイクルを機能させている。

【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の退学、休学、留年等の数を、学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

服装学科の退学者等一覧表

（平成22年3月31日現在）

区分	平成19年度入学	平成20年度入学	平成21年度入学	備考
入学者数	284	216	185	
うち退学者数	35	21	10	
うち休学者数	12	5	7	
休学者のうちの復学者数	3	3	3	
うち留年者数	5	11	0	
卒業生数	242	182		

生活造形学科の退学者等一覧表

（平成22年3月31日現在）

区分	平成19年度入学	平成20年度入学	平成21年度入学	備考
入学者数	82	80	44	
うち退学者数	9	6	0	
うち休学者数	1	1	0	
休学者のうちの復学者数	1	1	0	
うち留年者数	0	1	0	
卒業生数	70	72		

専攻科被服専攻の退学者等一覧表

（平成22年3月31日現在）

区分	平成19年度入学	平成20年度入学	平成21年度入学	備考
入学者数	68	30	34	
うち退学者数	2	1	1	
うち休学者数	0	0	0	
休学者のうちの復学者数	0	0	0	
うち留年者数	0	0	0	
修了者数	66	29	33	

(2)退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者（復学者を含む）及び留年者に対する指導（ケア）の現状について学科等ごとに記述して下さい。

1) 服装学科・専攻科被服専攻

服装学科の1年生の退学理由は、「進路変更」「体調不良」「勉学意欲の低下」の順となっており、自己の適性と授業のギャップ等が原因と思われる。2年生では、「進路変更」「経済的困窮」「体調不良のため」の順となっている。

近年、心身面の健康問題や家庭の経済的困窮により、退学せざるを得ないケースも多く見受けられる。休学者（復学者）や留年生に対しては、個人面談を行い、その理由や復学条件・健康状態等を保護者にも連絡し確認したのち、クラスへの編入を行い、平等かつ公平に指導を行っている。専攻科被服専攻も同様の指導を行っている。

2) 生活造形学科

退学者の退学理由は、1年生は「就学意欲の低下」「進路変更」「体調不良」の順となっており、2年生では「就学意欲の低下」が減少し、他の教育機関への入学と就職等を合わせて「進路変更」が増加している。この中には、体調不良等であったが、保護者の意向もあり「進路変更」としたものも含まれる。退学者、休学者、留年者に対する指導は、担任・副担任が保護者との電話及び手紙による連絡・面談により、学生の状況を確認・理解した上で、退学、休学、留年の手続きを進めている。復学者及び留年者については、当該学生についての理解を深めて指導できるように旧担任・副担任から新担任・副担任への引継ぎにより、状況の伝達・確認を行っている。

過去3年間の退学者数と退学理由の割合

Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

学科名等	年度 退学理由	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
		人数	理由別割合	人数	理由別割合	人数	理由別割合
服 装 学 科	就学意欲の低下	4	11.4%	2	6.9%		
	進路変更（他の教育機関への入学等）	7	20.0%	10	34.5%	4	21.1%
	進路変更（就職）	3	8.6%	2	6.9%	8	42.1%
	経済的困窮	2	5.7%	4	13.8%	1	5.3%
	身体疾患	4	11.4%	3	10.3%	2	10.5%
	心身耗弱	6	17.1%	1	3.4%	2	10.5%
	その他	9	25.7%	7	24.1%	2	10.5%
	小計	35	100.0%	29	100.0%	19	100.0%
生 活 造 形 学 科	就学意欲の低下	2	33.3%	2	16.7%		
	進路変更（他の教育機関への入学等）			3	25.0%	3	50.0%
	進路変更（就職）	2	33.3%	3	25.0%	1	16.7%
	身体疾患	1	16.7%	2	16.7%		
	その他	1	16.7%	2	16.7%	2	33.3%
	小計	6	100.0%	12	100.0%	6	100.0%
専 攻 科 被 服 専 攻	進路変更（他の教育機関への入学等）	1	50.0%				
	身体疾患	1	50.0%				
	心身耗弱			1	100.0%	1	100.0%
	小計	2	100.0%	1	100.0%	1	100.0%

（3）退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

本学の退学、休学、留年等の現状については両学科とも共通の認識を持ち、一貫した体制をとっている。クラス担任制をとっておりクラス集会をはじめ学生一人一人の状況掌握に努めて個々の学生相談にも応じている。さらに保護者との連絡も密にとっているが、現下の厳しい社会経済に鑑み、家族の問題や家庭の経済的問題の増大（日本人学生のみならず留学生にも共通）が学生に大きな影響を与えていると感じている。なお、本学では、学内のさまざまな行事や学生の様子を保護者に知らせるために学生課が作成している「文化女子大学しおり」を全学生に配布するとともに、自宅外通学者の保護者に送付し、学生と保護者、保護者と教員間のコミュニケーションの強化を図っている。留年生については、前述に加え、体調（精神的を含む）不良・健康管理面での対策が重要案件と捉えている。

1）服装学科

1年生の退学者は、前期から夏季休暇前後に増加している。入学後の学生生活への不適応や、通学等のストレスが高まる時期と関係があると考えられる。また、体調不良を訴える学生も以前より増加し、長期欠席から休学へとつながるケースも多々ある。

クラス担任・副担任・学生相談室等の協力の下に個別指導を行っているが、連絡不可能となり保護者に連絡しても、保護者と学生のコミュニケーションの欠如に愕くこともある。このような事態の改善のために、入学時に実施している教員と保護者との「保護者懇談会」を重要視し、活用している。

2）生活造形学科

平成19年度以前は、概ね1年生前期から秋頃にかけての退学者が目立ったが、平成

19年度入学生では、2年生の退学者が増加した。また、平成20年度入学生は平成19年度入学生に比較して1年生の退学率に増加が見られた。退学理由は「進路変更」の割合が高いが「体調不良」の場合も保護者の意向もあり「進路変更」としたものもある。つまり、心身面の健康に問題のある学生の退学の増加と考えている。しかし、担任・副担任と学生相談室等の連携が強化されてきたことで、ほぼ現在の状況に収まっているものと受け止めている。

◆参考資料 55 文化女子大学しおり No. 327～No. 331

(4)学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

本学の両学科の教育目標やカリキュラムは極めて実践的であり、入学に当たっての学生の適性の判定は適格であり、教育内容に関する学生の理解も高い水準にあると思われる。しかし、退学、休学、留年等の学生の割合は必ずしも低下していない。本学では、学生指導の基本問題として「基礎学力低下の問題」「意志力・意識の問題」「心理的（精神的）問題」「経済的問題」の4項目に整理しているが、退学、休学、留年等の現象は、上記4項目が複合的に起因していることが多い。したがって、本学としてはこれらの問題点の対応策について、FD活動を通じて検討し、学生の修学をより円滑なものにするよう努力している。

【資格取得の取組みについて】

(1)《Ⅱ教育の内容》の【教育課程について】(3)で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況（取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等）を学科等ごとに示して下さい。

免許・資格の取得状況（服装学科）

年度 免許・資格等の名称		平成20年度			平成21年度		
		取得を目指した学生数	取得者数	取得割合	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合
ピ ア ヘ ル パ ー		—	—	—	2	2	100.0%
カラーコーディネーター検定2級		9	1	11.1%	4	0	0.0%
カラーコーディネーター検定3級		38	14	36.8%	31	11	35.5%
ファッションビジネス能力検定2級		5	3	60.0%	5	3	60.0%
ファッションビジネス能力検定3級		25	14	56.0%	49	38	77.6%
ファッション販売能力検定2級		3	1	33.3%	2	1	50.0%
ファッション販売能力検定3級		19	13	68.4%	15	14	93.3%
ブロンズライセンス認定試験		174	140	80.5%	133	113	85.0%
パターンメイキング技術検定2級	筆記	0	0	—	0	0	—
	実技	0	0	—	0	0	—
パターンメイキング技術検定3級	筆記	38	20	52.6%	17	12	70.6%
	実技	20	17	85.0%	12	10	83.3%
TOEIC		7	5	71.4%	3	2	66.7%

免許・資格の取得状況（生活造形学科）

Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

年度 免許・資格等の名称	平成20年度			平成21年度		
	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合
ピアヘルパー	—	—	—	3	3	100.0%
カラーコーディネーター検定2級	1	0	0.0%	2	1	50.0%
カラーコーディネーター検定3級	44	24	54.5%	19	11	57.9%
TOEIC	2	1	50.0%	1	1	100.0%

免許・資格の取得状況（専攻科被服専攻）

年度 免許・資格等の名称		平成20年度			平成21年度		
		取得を目指した学生数	取得者数	取得割合	取得を目指した学生数	取得者数	取得割合
カラーコーディネーター検定2級		0	0	—	5	0	0.0%
カラーコーディネーター検定3級		0	0	—	1	0	0.0%
ファッションビジネス能力検定2級		4	2	50.0%	0	0	—
ファッションビジネス能力検定3級		0	0	—	0	0	—
ファッション販売能力検定2級		0	0	—	1	0	0.0%
ファッション販売能力検定3級		0	0	—	1	1	100.0%
ブロンズライセンス認定試験		1	1	100.0%	2	2	100.0%
パターンメイキング技術検定2級	筆記	14	13	92.9%	10	10	100.0%
	実技	13	12	92.3%	10	9	90.0%
パターンメイキング技術検定3級	筆記	7	5	71.4%	16	16	100.0%
	実技	7	6	85.7%	17	13	76.5%

(2) 今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

現在のところ新たに導入を予定している免許・資格はない。

【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科等ごとに専門就職（当該学科等で学習した分野に関連する就職）の状況（専門就職数、割合等）について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

1) 服装学科

学科の特性からファッション産業での販売職を志向する学生が多く、アパレルとその関連分野に就職する者が多い。職種についてもスタイリスト、コーディネーター、ファッションアドバイザー（販売職）で78%、縫製、生産管理、商品管理、ファッション関連の総合職で10%の就職で、本学で学んだことを生かし、専門分野で活躍している。

2) 生活造形学科

専門分野を生かして卸売、サービス業に38%、建設、インテリア、不動産業に38%就職している。専門性を生かしながら幅広く活躍の場を広げており、職種も関連分野の事務、販売等の他、CAD職や総合職にも広がり、学科の特性が生きている。

3) 専攻科被服専攻

短期大学部2年間の成果を基本に、さらに即戦力となる知識と技術を習得してファッション産業界での活躍を目指す本専攻科は、ほぼ100%がアパレル及びその関連分野に就職し職種もファッションアドバイザー（販売職）や縫製等に特化している。

4) 卒業生に対する評価

卒業後の状況については企業訪問の際に情報収集している。また、本学主催の就職懇談会や繊維ファッション産学協議会、産学交流会等における意見交換を通して、卒業生に対する評価を聴取している。在職者の状況についても可能な範囲で確認し、報告書としてまとめて就職資料室で閲覧できるようにしている。

- ◆参考資料 56 Placement Guide 2011（手引き編）
- 57 Placement Guide 2010（レポート&データ編）
- 58 企業訪問記録一覧 2010

（2）卒業生に対する就職先（専門就職に限らない）及びその他の進路先（編入先等）からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

1) 短期大学全体

本学卒業生に対する就職先、あるいは大学への編入、本学専攻科、専門学校等の進学先からの評価は、総じて高いものがある。卒業生の就職先は、ファッション・アパレル産業、住宅・インテリア業界をはじめ流通、サービス、金融など多岐にわたる。

短期大学2年間の教養教育と専門分野の実践的教育が、役割や担当業務への誠実な取り組みと創意工夫に努める姿勢を育み、高く評価されている。

また、進学先においては、さらに専門性を追求したり、関連分野への広がりを求める等、個々の関心と目標に向かって努力する卒業生が多いとの評価を受けている。これら卒業生への評価は、本学の教育目標と教育の効果への評価でもあると受け止めている。

2) 服装学科

本学科は、創立以来60年の歴史を誇り、ファッション業界及び生活文化に関わる産業界に、多くの優秀な人材を輩出してきている。

基礎知識と技術力は高い評価を受けているが、近年、若干おとなしすぎる・積極性に欠ける等の評価を受けることもある。このため、プレゼンテーション能力をはじめ、行動力の発揮を促す教育が必要と考えている。

3) 生活造形学科

就職先からの評価は、専門技術や礼儀等について、概ね良好であると認識している。

ただし、積極性についてはやや弱いとの評価もあることから、実習授業等で能動的な学習への指導に心がけている。

(3)卒業生に対して「学生時代についてのアンケート（卒業後評価等）」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述して下さい。

1) アンケート

毎年実施している「ホームカミングデー」（同窓会パーティー）に訪れた卒業生を対象に、在学時の学生生活に関するアンケートを実施している。

2) 卒業生との接触

①学内就職講座

就職希望者を対象とする「就職講座」で、企業の第一線で活躍している卒業生が在学生に現在の担当業務の説明や就職活動の進め方等について解説している。

また、自身の在学時の状況等についても触れることとし、在学生は身近な問題として興味を持って受け止めている。

②作品発表のファッションショー

専攻科被服専攻では作品発表のファッションショーを開催する際、在学生在が前年度修了生全員に招待状を送り、修了生のための観覧のスペースを設けている。その後、修了生との懇談等を通して、本学の教育等に関する意見や要望を聴き、それらの意見については学科会議等で検討し、在学生の教育に反映させるようにしている。

③パネル展示

服装学科では文化祭の展示で、卒業生が企業で活躍している姿をパネル展示している。パネルには在学生へのメッセージも添えられ、在学生は卒業後の自分をイメージする良い機会となっている。

3) 同窓会との連携

本学は同窓会組織である「紫友会」と協働して、卒業生との連携を大切にしている。（本学は創立時から校章にすみれの花をデザインに取り入れ、すみれの花の紫色をスクールカラーにしている。それに由来して命名した卒業生の会である）

同窓会組織からは年間を通じて学内行事（球技祭・文化祭・クラブ活動の発表会等）へのさまざまな援助を受けている。文化祭期間中には、卒業生との連帯感をより強めることを目的として、昭和55年度から「ホームカミングデー」を開催し、母校訪問、文化祭参観、同窓生と教職員、学生代表とのパーティーを催している。これは、卒業後20年が経過した卒業生を対象に招待して、母校の現在の様子と後輩の活動等を具体的に見てもらい、あわせて恩師や旧友と親交を深めることを目的としたパーティーであるが、卒業生の社会における活躍や、本学で学んだことの教育の効果を具体的に確認できる良い機会となっている。卒業生からは本学の教育について率直な意見が寄せられ、それをもとに本学のキャリアガイダンスや就職活動に役立てている。

卒業生には紫友会を通じて在学生の就職支援の協力も要請している。

また、本学は卒業生とのつながりを大切にしており、卒業生の子女を積極的に受け入れている。

なお、紫友会支部は国内8支部、国外2支部設置されており、国内外の卒業生からの情報を得る中で、卒業生の活躍の状況と本学の教育の実績や効果を確認することができる体制となっている。

◆参考資料 59 2009 ホームカミングデー プログラム

60 紫友会ホームページ <http://bwu.bunka.ac.jp/shiyukai/index.php>

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

1) 短期大学部全体

本学卒業生は、ファッションやデザインを中心に多様な分野で活躍しており、社会や産業界から高く評価されている。それは、実践的なカリキュラムで編成された教育課程と、学生の関心と感性に応じた体験重視型の教育によるものである。また、人間的にも誠実で実務的能力の高さが評価されるのは、実践的学習の積み重ねと、学内行事を通じた学生、教職員の密接なコミュニケーション、常に新しさを求める感性重視の校風による人間形成教育の成果であると考えている。

2) 服装学科・専攻科被服専攻

在学時2年間または3年間の課程を実践的なカリキュラムで編成し、ファッション、デザイン、日常生活に密着した「ものづくり」の分野で、学生の関心と感性に応じた体験重視型の教育が展開されていることから、その実践力が、実社会（実業界）において認められていると考えている。一方、産業構造の変化やグローバル化が進む中で、社会の人材需要に対して、どのように本学が対応していくかは、非常に難しい課題であると認識している。

3) 生活造形学科

日常生活に密着したモノ（生活雑貨から生活空間まで）の知識、デザイン、制作等の実践的な学習を行うカリキュラム編成に基づき、学生の関心や感性に応じた教育を実施している。その結果、関連する産業界と社会一般の中で、感性豊かな人間性と体得した実践力が生かされ、多方面で認められていると考える。ただし、卒業生の社会での活躍の比率をさらに高めていくことは、今後の課題でもある。

◆参考資料 61 求人のためのご案内 2010

【特記事項について】

(1) この《IV教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

本学では、以下に記載する独自の取り組みにより、教職員協働で教育目標の達成と教育の効果の向上を図るための情報の交換と、検討すべき課題を確認している。

1) 全学ファカルティ・ディベロップメント委員会の活動

平成16年度から全学ファカルティ・ディベロップメント委員会を設置している。学生による授業評価アンケートや全学的な研修会等を実施し、教育目標の達成度と教育

Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

の効果について確認するとともに、アンケート結果を全教員にフィードバックすることにより、教育の改革・改善に努めている。

2) 全学スタッフ・ディベロップメント委員会の活動

平成17年度から事務局長を委員長として全学スタッフ・ディベロップメント委員会を設置している。次項に述べる研修会では、教員と同一のテーマのもと分科会を行い、職員も教育目標の達成度と教育の効果について教員と同様の意識を持ち、確認することに努めている。また、本学の今後のあり方について討議し、同委員会としての提言をまとめる作業も行っている。

3) 全学FD・SD研修会の実施

年度の初めの終日「学生指導教職員研修会」を実施していたものを、平成19年度より「全学FD・SD研修会」に名称と内容を改め、全学FD委員会が主催して研修会を実施している。教員のFD活動と事務職員のSD活動を統合し、併設大学も含めた全教職員の協働体制による研修活動であり、効果を上げている。なお、同研修会の分科会の結果については報告書を作成し、教職員に配布している。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。
--

特になし。

《V 学生支援》

【入学に関する支援について】

(1)入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標、求める学生像については入学案内に記載し、男子校を除く全国の高等学校等に広く配布するとともに、各地で開催される進学相談会や、高等学校内のガイダンス等でも紹介している。

また、本学ホームページにおいても建学の精神・教育理念、教育目的・目標並びに本学が求める学生像を要約したアドミッションポリシーを明記し公開している。

進学フェスタ（オープンキャンパス）を年8回開催し、キャンパスの公開、学科紹介、教科展示、公開授業、教員の相談コーナー、体験コーナー等を通して本学を訪れる高校生や保護者、高校教員に対して教育目的・教育目標等を説明している。

また、高校生を対象としたサマーオープンカレッジを毎年7月下旬に開講し、本学の授業を実際に受講することによって教育目的・教育目標、求める学生像の理解を深めてもらっている。

◇添付資料 3 入学案内 2011（サマーオープンカレッジパンフレット含む）

◆参考資料 62 アドミッションポリシー <http://bwu.bunka.ac.jp/outline/admission.html>

63 カリキュラムポリシー <http://bwu.bunka.ac.jp/outline/curriculum.html>

64 ディプロマポリシー <http://bwu.bunka.ac.jp/outline/diploma.html>

(2)入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

入学者選抜の方針、選抜方法については印刷物として「入試情報」「AO入試ガイド」に記載し「入学案内」とともに大学資料請求者へ送付し、また「進学フェスタ（オープンキャンパス）」来校者へ配布している。あわせて全国の高等学校へ送付し、本学での高等学校教員対象進学相談会でも配布している。

本学ホームページにおいても「入試情報」「AO入試ガイド」の内容を掲載している。

◆参考資料 65 入試情報 2011

66 AO入試ガイド 2011

67 推薦・一般入試・センター試験利用入試入学試験要項

68 外国人留学生入学試験要項

69 入試問題集

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

広報及び入試に関する業務は、担当部長、副部長（課長兼務）、課長補佐の下7名の事務職員がいる入試広報課が担当している。

また、本学入学生の募集並びに入学試験に関する諸事項の検討と改善を図るために教員と入試広報課職員で構成する「入試対策委員会」（旧：学生募集対策特別委員会）が置かれている。当委員会が年8回開催する進学フェスタ（オープンキャンパス）について検討するとともに、具体的な広報及びそれらに関する運営の中心となっている。

入学者選抜に関する学内体制は「文化女子大学短期大学部入学者選抜に関する規程」により入学者選抜委員会が設置され、入学者選抜の実施方針、入学者選抜の組織に関する事項、学生募集要項に関する事項などが審議され決定される。

入学者の選考を適正に実施するため「文化女子大学短期大学部入学者選考規程」により、入学者選考出題専門委員が任命され、加えて入学者選考判定委員会が設置されている。入学者選考出題専門委員は入試問題の作成及び答案の採点を行い、入学者選考判定委員会はそれぞれの入学試験において判定会議を開催し可否を決定している。

入学志願者、受験生からの問い合わせには、主として入試広報課員が対応している。

問い合わせの内容に応じ、入学案内や入試情報、A0入試ガイド等の印刷物を即日、入学志願者や受験生の在籍する学校、あるいは自宅に送付している。

◆参考資料 70 入試対策委員会規程

71 文化女子大学短期大学部入学者選抜に関する規程

72 文化女子大学短期大学部入学者選考規程

(4) 願書受付から可否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

入学者選抜は、A0入試（1期・2期）、推薦入試（公募制1次・2次）、一般入試（A日程・B日程）、外国人留学生入試（1期・2期）によって実施している。

1) A0入試

A0入試では、まずエントリー受付（郵送または窓口）を行う。次に「プレゼンテーション及び面談」を行い、その結果により学科ごとに面談を担当した教員で出願可否を判定し、出願許可者には可否通知に願書を同封している。プレゼンテーションには両学科とも自分で作成した作品を持参させている。

願書は郵送にて受け付け、「プレゼンテーション及び面談」の結果と出願時に提出された調査書を総合的に判断し入試判定会議で可否を決定し、Web上（パソコン・携帯）で可否発表を行うとともに可否通知を郵送している。

2) 推薦入試（一般公募制・卒業生子女）

推薦入試では、郵送にて願書を受け付けている。出願資格の学業成績について一般

V 学生支援

公募制は「原則として評定平均値3.2以上」、卒業生子女は「原則として評定平均値3.0以上」とし、選考方法は高等学校からの推薦書と調査書による書類選考とし入試判定会議で可否を判定し、Web上（パソコン・携帯）で可否発表を行うとともに可否通知を郵送している。

3) 一般入試

一般入試では、郵送にて願書を受け付けているが、受付期間の最終日のみ窓口でも受け付けている。試験科目は、A日程では2科目選択の学力試験、B日程では1科目選択の学力試験及び面接を行い、その試験結果と出願時に提出された調査書の内容を参考に入試判定会議で可否を判定し、Web上（パソコン・携帯）で可否発表を行うとともに可否通知を郵送している。

4) 外国人留学生入試

外国人留学生入試では郵送及び窓口で願書を受け付けている。試験科目は、日本語による作文と面接を行っているが、「日本留学試験」での成績が日本語240点以上で総合科目が120点以上の者については、日本語による作文が免除され面接のみとなる。その試験結果により入試判定会議で可否を判定し、Web上（パソコン・携帯）で可否発表を行うとともに可否通知を送付している。

上記、入試に関わるデータについては、コンピュータで処理しているため、エントリーデータ、願書データ、各試験結果の成績データなど入力ミスがないよう2重の確認作業を行っている。

入学者選抜全般に関しては公正かつ厳正な実施を確保するために入学者選抜委員会を設置し、同委員会の議を経て入学者選考出題専門委員を任命するとともに、入学者選考判定委員会を設置している。また、一般入試では、実施本部を設置し、実施要領を作成するとともに事前に入試説明会を行うなど、入学者選抜における体制、組織を整備している。

5) 専攻科入試

専攻科入試では郵送及び窓口で願書を受け付けている。試験科目は、学内生については出願時に提出された担任所見及び成績証明書による書類選考、学外生については専門科目、小論文、面接を行い、その試験結果と出願時に提出された推薦書及び成績証明書の内容を参考に入試判定会議で可否を判定し、Web上（パソコン・携帯）で可否発表を行うとともに可否通知を送付している。

◆参考資料 66 AO入試ガイド 2011

67 推薦・一般入試・センター試験利用入試入学試験要項

73 AO入学試験要項

68 外国人留学生入学試験要項

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

合格者に対しては、合格通知を送付する際に、入学手続きの内容とともに入学式、

学生寮入寮手続き、日本学生支援機構の奨学金等の案内文書を同封して送付している。

入学手続き者（A0 入試1期・2期、推薦入試（公募制）1次・2次）に対しては、入学後の講義や実習授業に関する理解を深めることを目的に、「入学事前教育プログラム」を実施している。服装学科では、「質の高い大学教育推進プログラム」（教育GP）に採択された「ファッションブランドビジネスモデルの構築」の公開審査会をアパレル業界のスペシャリストや卒業生を招いて2月に開催しているが、この催しに出席することを義務付けている。また、生活造形学科では、卒業年次生が卒業作品を発表する「創作実習展」（2月開催）の見学をすることと、その感想文の提出を義務付けている。両学科ともこれらのプログラムは、本学の教育や学生生活を知る良い機会となっている。

一方、学科別に入学後の実習授業等に必要な教材、用具のうち基本的なものを担当教員が検討し、学園購買事業部に発注している。新入生は、入学時にセットとして受理することになり、その結果、実習授業は円滑に進められている。

- ◆参考資料 74 保護者各位（入学式他案内）文書
- 75 入学事前教育プログラムのご案内
- 21 文部科学省選定 教育GP—質の高い大学教育推進プログラム—
「ファッションブランドビジネスモデルの構築」
平成20・21年度 報告書、パンフレット、DVD
- 23 生活造形学科創作実習展記録 平成19・20年度

（6）入学後（入学直前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

1）オリエンテーション

入学式の翌日から4日間をかけてオリエンテーションを行い、学科紹介、担任・副担任紹介、履修ガイダンス、学生生活ガイダンス、図書館・博物館ガイダンス、クラス集会等を行っている。

①学科紹介及びクラス担任・副担任紹介（1時間30分）

主任教授による学生生活を送る上でのアドバイスや学科の特色及びカリキュラムの説明と、各クラス担任・副担任を紹介している。

②履修ガイダンス（1時間30分）

教務課が担当し、新入生に科目履修登録の方法・授業日程・諸届及び諸証明書の申請方法等について説明している。

③学生生活ガイダンス（学生相談室利用案内を含む）（1時間）

学生課が担当し、学生生活のあり方・クラス担任制・大学行事や課外活動・経済支援・学生相談等について説明している。

④図書館・服飾博物館ガイダンス（40分）

図書館、服飾博物館の利用方法等について、担当者から説明している。

⑤健康診断

学生の健康を維持し、疾病の拡大を防止するため、また疾病の早期発見、早期治療

V 学生支援

を行うため健康診断を実施している。結果は5月に各自に配布し、2次検査等が必要な学生には医務室から通知する。

⑥新入留学生特別ガイダンス（3時間30分）

私費外国人留学生学習奨励費、授業料減免等について説明する。また日本人学生と一緒に受けた履修ガイダンスを、さらにゆっくりわかりやすい日本語で説明し、質問等に時間をかけて答えている。

⑦クラス集会（約11時間）

クラス集会の時間はオリエンテーション期間中に約11時間設定し、学生生活の過ごし方を始め、クラス内の親睦を深めるとともに、自己紹介や委員の選出を行っている。また、新入生が履修する選択科目を決定するために、クラス集会の時間を利用して特に時間をかけて担任・副担任の先生からきめ細かな個別指導も行っている。

また、両学科とも2年生との合同オリエンテーションを実施し、上級生とのつながりを図っている。

⑧新入生歓迎会（オリエンテーション最終日 終日）

学生会・各委員会・クラブ活動の紹介を中心として、ビデオ上映、ミニコンサートやファッションショー等を行っている。新入生歓迎会終了後、各クラブ入部の相談や見学、体験会等に多くの新入生が参加している。

2) キャリア形成教育科目

キャリア形成教育科目の一環として、「キャリアデザイン（導入編）ーフレッシュマンキャンプー」を実施している。これは、1年生の5月、2泊3日の日程で本学研修施設（長野県飯山市にある文化北竜館）にて実施する必修科目（1単位）であり、自分の将来について考え、互いにディスカッションする機会を通じて、所属する学科の専門領域に関する理解や、学生生活のあり方のみならず卒業後も含めた豊かな人生をデザインできるような視野を獲得することを目的としている。合宿することにより友人や教員との交流を深めることができるという効果もある。

- ◆参考資料 76 平成22年度 オリエンテーションスケジュール（新都心キャンパス）
- 77 平成22年度 新入生歓迎会パンフレット
- 78 平成22年度 キャリアデザイン（導入編）ーフレッシュマンキャンプー しおり

【学習支援について】

（1）入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

年度の初めに全学的なオリエンテーションを行い、1年生・2年生ともその中で履修ガイダンスを行っている。履修ガイダンスは学科・学年ごとに行い、建学の精神である「新しい美と文化の創造」、学則等の規程、単位履修方法、成績評価基準、卒業要件等に関する説明を行っている。1年生に対しては入学時から卒業後の進路に及ぶ大学生活全般に係るガイダンスも行い、2年生に対してはクラス担任・副担任とともに、1年生のGPA値に基づいた単位取得状況等を含めて卒業までさらに効果的に学修目標を達成できるよう履修指導を行っている。

専攻科学生に対しては、専攻科の学修目標の理解を深めるとともに1年間のカリキュラムと、そのスケジュールを詳細に説明している。

◆参考資料 76 平成22年度 オリエンテーションスケジュール（新都心キャンパス）

（2）学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）があれば参考資料としてご準備下さい。

◆参考資料 78 平成22年度 キャリアデザイン（導入編）ーフレッシュマンキャンパー しおり

79 留学生のための専門用語集

80 平成22年度 文化女子大学・文化女子大学短期大学部夏期集中授業のお知らせ

（3）基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

数学に関する基礎学力が低い学生が増えてきていることを考慮し、平成21年度から総合教養科目に「数学（生活の中の算数と数学）」（2単位）を開設した。授業内容は、専門分野の基礎力として必要とされる部分を復習することを目的としている。

服装学科では課題の製作に遅れがちな学生のため実習室を開放し、教員が授業時間外にも理論や技術に関する細やかな補習指導を行っている。

◇添付資料 4 授業計画（Syllabus）新都心キャンパス2010

【服装学科】 【生活造形学科】 【専攻科】

（4）学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。通信教育学科を置く場合には、添削等による指導の学習支援、教育相談の体制及び運営状況を記述して下さい。

本学は開学以来クラス担任制を置き、クラス担任・副担任が学習上の問題や学生生活上の悩みに対して指導助言を行っている。また、本学は「副手」という職制を置いている。副手は1年ごとの契約による臨時職員（最長3年）であるが、本学及び併設大学の卒業生であるため、在学生にとっては時に教科担当の教員より身近な存在として学習上や課題制作上のさまざまな問題、悩みの相談に応じている。

また、実習科目が多いので、教員と学生との接点を持ちやすいという特色がある上、教員は共同の研究室や実習室に在室して自身の研究にあたっていることが多いため、随時、学生の相談に対応することができる体制がある。

平成22年度から新たに「大学総合案内」を設置した。担当部署は学生課である。「相談したいことがあるのだけれど、誰に話せば良いのだろう」「あの授業の先生の研究室はどこだろう」「授業のことについて質問したいのだけれど、どこで聞いたらよいのだろう」等、学生にとっては比較的軽微な学習上の疑問や悩み、質問等を気軽に聞くことができるよう、「ワンストップサービス」の機能をもたせている。場所はロビー階にあるため、あわせて学校見学に来た高校生等の対応もすることとしている。専任の担当職員が常駐し、質問内容に応じて担当教員の所属研究室を教えたり、事務局の関係部署等に行くように指導する。一方、担当職員が学生と対応する中で必要と判断した場合は、学生相談室（カウンセリングルーム）や医務室を紹介し、適切な助言が得られるように

V 学生支援

している。今後は在学生を含め学内広報誌等で広く周知し、多数の学生が利用できるような方策を検討していきたい。

◆参考資料 38 平成22年度 クラス担任・副担任表

(5)進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

英語教育については、両学科共通で4月初旬に英語Ⅰの受講希望者全員を対象としたプレイスメントテストを英語担当教員が学内で実施している。その中から成績上位者（平成22年度は30名程度）を選抜し「Sクラス」として、英語のスキルをさらに磨き、将来の就職活動や、海外留学にも対応できる授業内容で指導を行っている。

成績優秀者への配慮としては服装学科、生活造形学科ともに、1年生終了時のGPAポイントを学科ごとに算出し、一番高いポイントであった者を表彰する制度がある。また、卒業時にも学科ごとに優秀者を算出し、卒業式で「成績最優秀賞」として学長から表彰状が授与される。

服装学科の専門教育科目「ファッションデザイン画」では、各年度の授業を通じて「FIE (Fashion Illustration Exhibition)」作品を募集し、優秀作品を選定し表彰するとともに、文化祭で作品展示を行っている。

専攻科被服専攻では修了に際し、修了作品展を開催し、優秀な修了作品を製作した学生に「学長賞」、「フレンドシップ賞」を授与している。

【学生生活支援体制について】

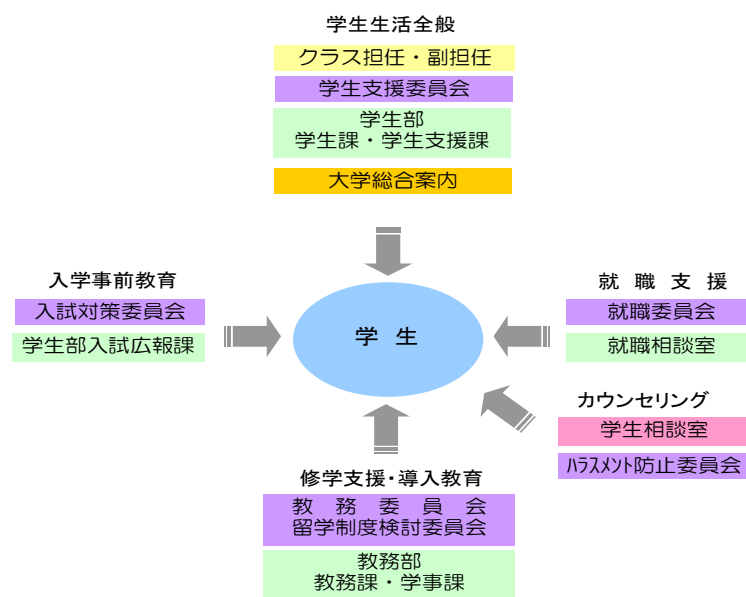
(1)学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。

1) 全学組織

本学の学生支援体制の基本はクラス担任制にある。加えて本学では学生支援委員会（旧：学生生活委員会）、就職委員会（旧：就職特別委員会）、教務委員会（旧：教務委員会、カリキュラム委員会）、留学制度検討委員会、入試対策委員会（旧：学生募集対策特別委員会）、ハラスメント防止委員会を設置し、それぞれ修学支援、学生生活支援、入学事前教育、就職支援、厚生補導、メンタルケア等を担当している。これらの委員会は、その規程に基づいて、同系列の研究室によって構成されている各ブロックの互選または学長指名の教員と学長指名の事務職員からなる委員で構成されている。なお、いずれの委員会も併設大学との合同によって運営している。

2) 事務組織

事務局では、学生部学生課・入試広報課・学生支援課、教務部教務課・学事課、就職相談室で学生生活を支援している。上記の委員会に対して、学生支援委員会を学生課、教務委員会・留学制度検討委員会を教務課、就職委員会を就職相談室、入試対策委員会を入試広報課がそれぞれサポートし、ハラスメント防止委員会には学生部長が参画し、対応している。なお、これらの組織と連動して、学生相談室やクラス担任・副担任が深く関与し、学生支援を行っている。



教員・事務組織の学生支援体制

- ◆参考資料 81 キャンパスライフガイド
82 学生支援のマニュアル

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

1) クラブ活動の現状

本学のクラブ活動は多様なクラブの存在と適正規模も配慮して併設大学と合同で運営されている。公認団体が28あり、専任の教職員が顧問として各団体を支援している。中には1つの団体が200名を超える企画集団 FUSE（ファッションショーを企画運営する団体）のような団体もあり、本学ならではのファッションショーを文化祭期間中に開催し、保護者、高校生、近隣の住民、企業等に公開している。ショーの実施に関しては、演出の専門家に指導を依頼し、その指導料や作品製作のための生地代、舞台設営・音響・照明等の費用を本学が負担し支援している。

課外活動のさらなる振興のため学内に合宿所を設置している。学生はクラブ活動の準備や打ち合わせ等に活発に利用している。

クラブ・同好会一覧表

(平成22年5月現在)

クラブ名		
アルペンスキークラブ	ダンス部	裏千家茶道同好会
E. S. S	陶工部	茶道・華道同好会
イラスト研究部	バスケットボール部	Cinema Fan (同好会)
演劇部	バニースキークラブ	バドミントン同好会
華道クラブ	バレーボール部	漫遊倶楽部 (同好会)
弓道部	美術部	イタリア研究愛好会
競技ダンス部	フォークソングクラブ	スポーツ・オ・レ愛好会
コーロ・ウィオレッタ	アナウンス部	
写真部	リズムサウンズクラブ	企画集団FUSE
ソフトテニス部	ワンダーフォーゲル部	

2) 学生会の現状

①学生会組織

本学には学生による「学生会」があり、併設大学を含む在籍するすべての学生により組織されている。学生会は、学生会会長・副会長を中心に、学生委員会（学生会運営委員会執行部）、さらに各クラスの代表委員によって運営されるキャンパス委員会・実行委員会・専門委員会と各クラブ代表によって運営されるクラブ運営委員会がそれぞれの活動に当たる。なお、学生の意向を反映する機会として「サミット（代議員大会）」がある。

②新入生歓迎会

4月のオリエンテーション期間中にクラブや同好会、委員会を新入生に紹介するものである。歓迎会運営のために「新入生歓迎実行委員会」（各クラスから2名の委員を選出）が組織されており、新入生へのキャンパス案内やパンフレット・記念品の作成、クラブや委員会紹介のビデオ編集、当日の運営まですべて学生の手により行われている。

③球技祭

平成22年度に第32回を迎える行事である。例年9月末に2日間かけて併設大学とともに開催している。各クラスからバレーボール、バスケットボールのチームがエントリーし、上位の成績を修めたチームはそれぞれ表彰され賞品も授与される。表彰の中には卒業生の会である紫友会から授与される「紫友会特別賞」もある。

運営に当たる「球技祭実行委員会」は各クラス代表の球技祭委員で組織される。委員長を中心とする執行部は、全クラスにチームのエントリーへの呼びかけ、ポスター・パンフレット作成、賞品の用意等、夏休みを返上して準備を行っている。球技祭当日は体育系クラブとアナウンス部の協力を得て、本学ならではの楽しい球技祭が行われる。教職員もチームを作ってエントリーし学生とともに汗を流し、球技祭を通して学生と教職員のコミュニケーションが図られている。

④文化祭

平成22年度に第60回を迎える行事である。毎年11月2～4日に併設大学、学園内の各学校とともに開催している。「文化祭実行委員会」（各クラスから2名選出）を中心に企画・立案し、開催に当たっている。委員会はポスターをはじめ、パンフレットの編集や特別講演会、模擬店の屋台、展示会、野外ステージ、学生アート展等、学生ならではの特別企画を考案し、実施している。また、教職員による「文化祭実行委員会」も組織され、全教職員が支援する体制となっている。

本学文化祭はその取り組み内容が評価され、平成15年度に文部科学省による「特色ある大学教育支援プログラム」（特色GP）に採択された。（期間は4年間）

⑤学内広報誌編集

各クラス代表の委員で「編集広報委員会」を編成し、入学から卒業までの学生自身の学生生活を写真やイラストなどで記録する学内広報誌「あけぼの」を年1回発行している。「あけぼの」は平成22年3月に52号を発行した。取材やエッセイの原稿依頼等もすべて学生自身が行っている。学生達の斬新なアイディアや若いエネルギー溢れる「あけぼの」に魅了され、編集広報委員会を希望する学生は年々増加し

ている。

「あけぼの」は本学にとっての歴史を記録するものともなり、学生にとっては2年間の学生生活の記録として、卒業アルバムに替わる良い記念となっている。

⑥卒業記念パーティー

卒業年次生の各クラスから2名が選出され構成される「卒業記念パーティー委員会」が、パーティー当日のプログラム作成、アトラクション内容の検討、記念品選び、当日の受付、式進行のための司会進行等すべてに当たり、卒業生と恩師を交え、学生生活最後の思い出となるパーティーを開催する。学生課は常にアドバイザー的な存在として、学生の活動をフォローしている。

3) その他の支援

学生会活動やクラブ活動がスムーズに進行し活発な運営ができるよう、学生支援委員会と学生課の支援の下に、学生会・各委員会執行部と各クラブの顧問・部長が参加するリーダーズトレーニングをそれぞれ毎年開催し、学生のリーダーとしての自覚を促している。また、学生課が窓口となり学生会が企画・立案した各種行事や各委員会の任務を果たせるよう助言や指導を行っている。

学生会年間行事予定表

4月	新入生歓迎会	11月	文化祭
5月	クラブ・委員会会計監査		学生会サミット
6月	委員会予算折衝 学生会リーダーズトレーニング	12月	学生会選挙（選挙管理委員会）
		2月	クラブ予算折衝・クラブリーダーズトレーニング
9月	球技祭	3月	あけぼの（学内広報誌）発行 卒業記念パーティー開催

- ◆参考資料 83 クラブ活動のてびき
84 第31回 球技祭プログラム
85 第59回 文化祭プログラム
86 あけぼの 52号

（3）学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。

学園食堂は940席設けており、学生の利便性向上のため、食堂部分、喫茶部分とも8時から18時まで、昼食以外にも学生に開放している。

授業の合間の休憩スペースとしては、「学生ホール」「スペース21」「バイオレットルーム」「パンジーコーナー」等を8時から21時まで開放しており、学生の歓談、自習、共同作業の場として有効に利用されている。この他、中庭やプラザにはベンチを配置し、授業の合間や昼食時間帯に一息つける心地良いスペースを提供している。

医務室では、急な発熱や腹痛、外傷などの思いがけない病気や怪我に対応して応急措置を行うほか、常時10床のベッドを備えた休養室を設けており、体調不良の学生がゆっくり休憩できる。

本学の学科構成に適した文具や学用品などの品を揃えている売店としては「学園ショップ」がある。各学科の教科目に関連した豊富な教材（学用品・生地・手芸用品・画材等）や各種生活用品、食品などを揃えている。

V 学生支援

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）の概要を示して下さい。

学生寮は主に留学生や地方出身学生のための施設で、小平国際学生会館と初台国際学生会館の2カ所を擁している。

学生寮の入居状況

学 生 寮 名 称	収容人数	入居学生数
小 平 国 際 学 生 会 館 (本 学 及 び 併 設 大 学 学 生 寮)	186名	26名
初 台 国 際 学 生 会 館 (学 園 学 生 寮)	120名 (うち本学及び併設大学定員10名)	1名

全て個室でカウンセラー（兼管理人）が24時間体制で施設、設備の管理に当たっておりセキュリティも万全を期している。付帯設備として、両会館に図書室・実習室・談話室・和室（小平国際学生会館のみ）を配している。

本学所有の寮以外には、学生課では民間の学生会館、学園ショップ学生サービス課では不動産会社の紹介をしている。

本学はJR新宿駅南口から徒歩7分と恵まれた立地条件にあるため、オートバイや車の通学を禁止している。ただし、大学付近に住んでいて自転車通学する学生のために、学内に駐輪場を2カ所（約300台駐輪可能）用意している。

◆参考資料 87 学生寮のご案内

(5) 平成21年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。

1) 学外団体の奨学金

日本学生支援機構奨学金の取得状況表（平成21年度実績）

貸与種類	服装学科	生活造形学科	専攻科被服専攻	合 計
第1種（金利無）	29	8	9	46
第2種（金利有）	94	29	7	130
合 計	123	37	16	176

2) 本学独自の奨学金

文化学園創立80周年記念事業として設立された本学独自の「文化女子大学・文化女子大学短期大学部奨学金」（給付）がある。学業・人物ともに優れ、経済的に困窮している学生を対象として併設大学の学生とあわせて30名を選考し、年間授業料の半額を免除している。平成21年度本学の受給者は6名であった。

◆参考資料 88 文化女子大学・文化女子大学短期大学部奨学金規程

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

学生の健康管理については「健康管理センター」が担当し、メンタルケアやカウンセリングについては「学生相談室」にカウンセラーと精神科医（非常勤）を置く体制となっている。

本学では、入学式の後、医師兼健康保健管理センター所長が全新生に健康管理のガイダンスを行っている。また、学生の健康状況を把握するため、全新生が本学独自の

「健康調査票」を提出する。調査票により、学生生活を送る上で特に配慮が必要であると判断された学生については、学生課からクラス担任・副担任に連絡すると同時に産業医が学生に面接をしている。

全学生の健康診断（平成21年度の受診率は97.2%）は4月上旬に行われ、その結果を各々の学生に通知する。健康診断の結果で2次検査の必要な学生については、医務室が個別に対応している。

さまざまな心の問題に関しては、クラス担任・副担任をはじめ学生課や教務課等の他、学生相談室のカウンセラーが対応している。カウンセラーは平成22年度からは併設の文化女子大学大学院国際文化研究科（修士課程）国際文化専攻健康心理学専修を修了した非常勤の2名が対応している。カウンセラーのみでは対応の困難な学生に対しては本学医務室の精神科医（非常勤）や外部医療機関に紹介し連携をとっている。

また、ハラスメントを防止するために8名の教員と職員で構成するハラスメント防止委員会を設置し、さらに教員及び職員による相談員も8名配置している。

◆参考資料 81 キャンパスライフガイド

89 文化女子大学ハラスメント防止に関する規程

（7）学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

学生個々の基本的情報は「学籍簿」の記載事項であり、さらに学生支援のための各種情報は、下記の書類等に記録され、個人情報保護に留意して保管・保護されている。

学生支援のための学生個々の情報等の記録は下記の通りである。学生の個人情報は、「学校法人文化学園 個人情報の保護に関する規程」に基づいて厳重な管理をしている。

1) 学籍簿

学籍簿は利用目的を明示し、新入時に全員が記入し、クラス担任を通じて教務課へ提出する。教務課は施錠できるキャビネットに保管している。教務課担当者以外の者が閲覧する場合は教務課長の許可を必要とする。卒業後10年以内は事務局内のキャビネットに保管しているが、卒業後11年以上経過したものは学内の倉庫で保管し、永久保存としている。倉庫は施錠され、担当者以外が立ち入る場合は教務課長の許可を必要とする。

2) 履修単位状況記載簿

履修単位状況記載簿は在学中の単位取得状況が記載されている。就職活動や進学の際、必要となる成績表（単位修得成績証明書）には在学中に取得した科目（合格した科目）の成績のみ記載されているが、履修単位状況記載簿には不合格の科目、履修取消しした科目、途中放棄の科目等、すべて記載されている。保管・保護は学籍簿と同様で、卒業後も永久保存している。

3) 学生情報

履修中の科目を含め学生の最新情報をコンピュータによりオンラインで閲覧可能であるが、事務局職員のみアクセスできる仕組みになっている。卒業後もデータは永久保存している。

V 学生支援

4) 進路調査カード

進路調査カードは、就職相談室とクラス担任が保管している。就職相談室では施錠できるキャビネットで管理し、担当者以外の者が閲覧する場合は就職相談室長の許可を必要とする。卒業後2年は保存し、その後細断して処分している。クラス担任も施錠できるキャビネット等で厳重に管理し、学生が卒業後細断して処分する。

5) 学生カード・高校の学生調査書

学生カード・高校の学生調査書は学生課が施錠できるキャビネットで管理・保存している。担当者以外の者が閲覧する場合は学生課長の許可を必要とする。調査書等は、留年した場合も含め在学中は保管し、それ以降は細断して処分している。

6) カウンセリングの記録

学生相談室におけるカウンセリングの記録はカウンセラーが厳重に保管している。

第三者は閲覧できないが相談内容によってカウンセラーと学生部長、学生課長と相談し、今後の検討等が必要と判断された場合のみ守秘義務遵守のうえ3者で確認する。

◆参考資料 90 学籍簿・学生カード・進路調査カードの様式

91 学校法人文化学園 個人情報の保護に関する規程

【進路支援について】

(1) 下の進路状況表を例に、過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

平成19年度～21年度 服装学科の進路状況表 (平成22年3月31日現在)

区分		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
a	卒業生数	237人		251人		188人	
b	就職希望者数	b/a					
		109人	46.0 (%)	131人	52.2 (%)	101人	53.7 (%)
c	うち学校で斡旋した就職者数	c/b					
		63人	57.8 (%)	31人	23.7 (%)	15人	14.8 (%)
d	うち自己開拓分の就職者数	d/b					
		30人	27.5 (%)	77人	58.8 (%)	43人	42.6 (%)
e	就職未定者	e/b					
		16人	14.7 (%)	23人	17.5 (%)	43人	42.6 (%)
f	進学・留学希望者数	f/a					
		83人	35.0 (%)	68人	27.1 (%)	39人	20.8 (%)
g	その他	g/a					
		45人	19.0 (%)	52人	20.7 (%)	48人	25.5 (%)

平成19年度～21年度 生活造形学科の進路状況表 (平成22年3月31日現在)

区分		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
a	卒業生数	91人		72人		74人	
b	就職希望者数	b/a					
		55人	60.4 (%)	43人	59.7 (%)	32人	43.2 (%)
c	うち学校で斡旋した就職者数	c/b					
		9人	16.4 (%)	9人	21.0 (%)	6人	18.8 (%)
d	うち自己開拓分の就職者数	d/b					
		10人	18.2 (%)	17人	39.5 (%)	8人	25.0 (%)
e	就職未定者	e/b					
		36人	65.4 (%)	17人	39.5 (%)	18人	56.2 (%)
f	進学・留学希望者数	f/a					
		16人	17.6 (%)	15人	20.9 (%)	15人	20.3 (%)
g	その他	g/a					
		20人	22.0 (%)	14人	19.4 (%)	27人	36.5 (%)

平成19年度～21年度 専攻科被服専攻の進路状況表 (平成22年3月31日現在)

区分		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
a	卒業生数	66人		29人		33人	
b	就職希望者数	b/a					
		55人	83.3 (%)	23人	79.3 (%)	25人	75.8 (%)
c	うち学校で斡旋した就職者数	c/b					
		33人	60.0 (%)	5人	21.7 (%)	2人	8.0 (%)
d	うち自己開拓分の就職者数	d/b					
		14人	25.5 (%)	10人	43.5 (%)	7人	28.0 (%)
e	就職未定者	e/b					
		8人	14.5 (%)	8人	34.8 (%)	16人	64.0 (%)
f	進学・留学希望者数	f/a					
		3人	4.6 (%)	1人	3.5 (%)	0人	0.0 (%)
g	その他	g/a					
		8人	12.1 (%)	5人	17.2 (%)	8人	24.2 (%)

◆参考資料 92 平成19～21年度 卒業生進路状況・就職状況

(2) 学生の就職を支援する組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。

学生の就職に関する諸問題の検討と推進を図ることを目的に、教職員で組織された就職委員会（旧：就職特別委員会）がある。委員会は月1回開催し、教員と就職相談室が一体となって就職支援活動と強化に携わっている。就職に関する事務は事務局就職相談室が行っており、室長以下6名の体制となっている。

全学的な支援体制としては、毎週水曜日5限目は「就職講座」として時間割に組み込んでいる。就職活動を行う1年生の6月末から1年生終了時まで全体で約23回の「就職講座」を実施し、就職活動の進め方、履歴書の書き方、業界・企業講話、ビジネスマナー講座、筆記試験対策講座等を展開している。

◆参考資料 93 就職委員会規程

12 平成22年度 時間割

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

学生の就職支援は就職相談室で行っている。その主な業務は次の通りである。

- ① 就職相談と求人情報の紹介（個別面談・模擬面接の実施、エントリーシート・履歴書等の添削）
- ② 就職講座に関すること（就職講座の企画・実施、就職ノート「手引き編」「レポート&データ編」の編集・発行）
- ③ 推薦者の選考、推薦状の交付（学内選考の実施、推薦状の発行）
- ④ 進路調査カードの配布・保管・管理
- ⑤ 企業・団体等への求人票の発送・受付・整理・掲示
- ⑥ 求人企業への訪問・開拓
- ⑦ 就職情報ネットワークを活用しての学生への迅速な就職情報の配信
- ⑧ インターンシップの実施
- ⑨ 就職資料の収集・整理・保存（就職受験報告書、企業資料、各種情報誌等）

また、就職活動を円滑に進めるために就職に直接役立つ情報を閲覧できる「就職資料室」が設置され、次のような資料をそろえている。学生達は職員からのアドバイスやこれらの資料や情報を活用して、就職活動に役立てている。

- ・企業の会社案内（業種別にファイル）
- ・就職受験報告書（先輩の活動体験をまとめて冊子にしたもの）
- ・就職ガイド・各種試験問題（会社年鑑、会社四季報、日経・毎日・リクルート等の就職ガイド、ファッション系ガイドブック、公務員試験・筆記試験の問題集等）
- ・インターネット（8台のインターネット専用パソコンを設置。その他にオープンメディアルームのパソコンも利用可）
- ・地方別の求人冊子（Uターン・Iターン用各種都道府県別求人冊子）

V 学生支援

- ・その他（日経・日経マーケティングジャーナル・読売・朝日・織研等の新聞、企業の社史、過去の求人票、セミナー案内等）

◆参考資料 61 求人のためのご案内2010

56 Placement Guide 2011（手引き編）

（4）過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

平成19年度、平成20年度についての就職率を見ると比較的安定しているように見受けられるが、平成21年度は経済不況下にあり、学生の雇用環境はその影響を強く受けて悪化の一途を辿っている。そのような中でこそ、学生にとっては現実を直視しつつも今やるべきことを着実に実行することが肝要であり、就職指導・相談活動を粘り強く推し進めていくべきである。また、それぞれの学科の特徴を活かした就職先については、より一層の拡充を図ることが重要である。さらに、学生が真に求めている方向、職種に応じた新分野の開拓にも努め、大学として教職員が一丸となって取り組むこととしている。

（5）過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の進学（四年制大学、専門学校等）及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。

1年生に実施する個別面談にて進路を確認する。進学希望者は、例年専攻科被服専攻（1年課程）と併設大学3年生への編入学希望が多いことから、被服専攻や併設大学に関するカリキュラムについて、また就職先及び職種等について情報提供している。さらに、就職資料室において他大学及び専門学校案内等、各種情報を閲覧できるようにしている。また、年度初めに実施するオリエンテーションで学部編入ガイダンスを実施し、学生の希望に応じたコース選択ができるよう履修科目の指導をしている。過去3ヶ年における海外留学の実績はない。海外留学に関する相談については主に文化学園国際交流センターが対応している。本学の海外提携校等の詳細な情報や必要となる語学力について、担当職員が個別に対応して情報提供をしている。

【多様な学生に対する支援について】

（6）過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。

多様な学生の受け入れ状況（平成19年度～21年度）（各年度5月1日時点）

種 別 \ 受け入れ年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
留 学 生 (人)	46	38	25
社 会 人 (人)	0	0	0
帰 国 子 女 (人)	0	0	0
障 害 者 (人)	0	0	0
長 期 履 修 学 生 (人)	—	—	—
科 目 等 履 修 生 (人)	0	0	0

1) 留学生

本学の特色である服装学・生活造形学を中心とした教育は早くから近隣諸国の注目を集め、開学当初より継続的に多数の留学生を受け入れてきた。本学では伝統的に「留学生一人ひとりの個性を開花させる全学的な支援体制」をとってきた。

モットーは“FACE TO FACE”すなわち留学生一人ひとりにあったアドバイスを可能にし、その能力が充分発揮できるよう、全教職員が多方面からさまざまな形で、次のような、きめ細かな留学生指導を行っている。

① 学習支援

・新入留学生特別ガイダンス

入学式翌日から行われるオリエンテーション期間中に新入留学生特別ガイダンスを実施している。教務課は日本人学生と一緒に受けた履修ガイダンスを再度実施し、わかりやすい日本語で履修指導する。学生課留学生担当からは、本学における学生生活や、日本における生活に関する不安を解消すべく、個々に質問等に答えている。また、学生支援委員会（旧：留学生指導特別委員会）の教員や2年生との交流も図る。

・留学生対象の特別カリキュラム

1年次に総合教養科目として「日本の文化」（4単位）を開講している。日本で学生生活を始める留学生への導入教育として設置され、日本の現状と日本の伝統文化を理解するために大きな役割を果たしている。

また、外国語選択科目として「日本語Ⅰ」（2単位）、「日本語Ⅱ」（2単位）、「日本語表現」（2単位）を設置し、留学生は原則必修としている。

・留学生のための専門用語集

本学では留学生を特別扱いすることなく、日本人学生と同じ条件で授業に臨み評価を受けるが、特色ある本学の専門教育科目を日本語で理解することは留学生にとってはかなり高度な日本語力を必要とする。そのため「留学生のための専門用語集」を各専門科目の担当教員が中心となって作成した。留学生が専門科目を学ぼうとすると困難な専門用語に関して解説しており、常に授業で活用され、高い教育効果を上げている。

②生活支援

・留学生対象のアンケートと留学生懇談会

日本語や専門知識の習得、異文化への適応など、留学生が抱える問題は多岐にわたる。それらの問題に加え、全学生を対象として実施する学生生活調査や留学生のみを対象としたアンケート方式の留学生生活調査、各種の行事アンケート集計結果により

V 学生支援

留学生の実態を把握した上で、毎年留学生4～5名と教職員3名による留学生懇談会を全留学生対象に実施、各学生の意欲や要望をくみ上げつつ留学生支援プログラムを推進している。

・留学生研修旅行

留学生生活調査で印象に残った行事第1位に選ばれている。この研修旅行は新入留学生を中心に2年生の留学生、学生支援委員会の教員、学生課留学生担当職員が参加し、1泊2日で日本各地の美術館や史跡を見学し、夜は懇親会を催す。

学科・学年・国籍を超えた留学生同士の間人関係を深め、1年生は2年生からさまざまな助言を得る好機会となっている。また、教職員との関係の強化にも寄与し、リラックスした環境の中で、良い交流の場となっている。

・日本人学生との交流

学生会に留学生委員会がある。この委員会は各クラスから選出された日本人学生1名、留学生1名によって組織され、日本人学生と留学生との交流を図るための催しを企画・実行している。この留学生委員会と留学生が組織する留学生会と共同で、日本語によるスピーチコンテスト等の留学生諸行事を企画し、さまざまな活動を通じて日本人学生との交流を図っている。

・学生課留学生担当職員による支援

学生課留学生担当には日本人職員以外に中華人民共和国と大韓民国出身の職員を各1名配置し、母国語でも学生相談に対応している。また、全留学生に、誕生日に手書きのメッセージを記したバースデー・カードを自宅に郵送している。

2) 障害者

本学には過去3年間に障害者の受け入れ実績はないが、平成22年度入学生と併設大学には在学しているため、障害者トイレやスロープの設置等、バリアフリーに努めている。

また、入学時に全新入生が提出する健康調査票を踏まえ、配慮の必要な学生がいた場合は事務局からクラス担任・副担任へ連絡し連携して支援体制を整えている。

3) 科目等履修生

本学では過去3年間受け入れはないが、高等学校卒業またはこれと同等以上の学力を有する女子を対象としている。

在学中の学習支援や生活支援は教務課が担当している。

◆参考資料 94 留学生のてびき

79 留学生のための専門用語集

95 2007留学生生活調査報告書

96 短期大学部科目等履修生規程

【特記事項について】

(1) この《V 学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

1) 個人情報保護の取り組み

教育機関としての適正な個人情報の取扱いや、個人の権利利益を保護するため、平成 17 年 3 月に「学校法人文化学園 個人情報保護方針」を策定した。

個人情報保護に関する規程としては「学校法人文化学園 個人情報の保護に関する規程」「学校法人文化学園 個人情報保護委員会規程」がある。「個人情報保護委員会」は学校法人全体で構成する委員会である。

また、学生には「個人情報の取扱いについて」を掲示板に掲示し、あわせて学生に配布しているキャンパスライフガイドにも掲載している。

2) 成績不良者、長期欠席者への援助

クラス担任・副担任を中心として援助を行っている。成績不良者に対しては、学生本人との個別面談等を通じて学習意欲の喚起を促し、長期欠席者に対しては、保護者を交えた面談により出席を促すための助言を行う。万一精神的なものが原因であった場合は、早急に本学のカウンセラーとの面談を促し、あるいはさらなる専門家との相談等を行っている。

3) 学生に対する表彰制度

服装学科、生活造形学科ともに、1 年生終了時点の GPA ポイントを学科ごとに算出し、一番高いポイントであった者を表彰する制度がある。また卒業時にも学科ごとに優秀者を算出し、卒業式で「成績最優秀賞」として学長から表彰状が授与される。

専攻科被服専攻では修了に際し、優秀な修了作品を製作した学生に「学長賞」、「フレンドシップ賞」を授与している。

- ◆参考資料 97 学校法人文化学園 個人情報保護方針
- 91 学校法人文化学園 個人情報の保護に関する規程
- 98 学校法人文化学園 個人情報保護委員会規程
- 81 キャンパスライフガイド

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点があることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

Ⅵ 研究

《Ⅵ 研究》

【教員の研究活動全般について】

(1) 次の「専任教員の研究実績表」を例にして過去3ケ年（平成19年度～21年度）の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

平成19年度～21年度 専任教員の研究実績表

学科等名	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備 考
			著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
服 装 学 科	小山 昭男	教授	0	0	0	1	有	有	
	大熊 志津江	教授	3	0	4	0	無	有	
	渡部 旬子	教授	0	1	0	0	無	有	
	高橋 良子	准教授	0	0	1	8	有	無	
	水谷 みつ江	准教授	0	0	1	3	無	無	
	横堀 秀子	准教授	0	0	0	7	有	無	平成19年度 後期休職 平成20年度 休職
	鹿島 和枝	准教授	0	1	1	2	無	無	
	柴田 早苗	准教授	0	0	0	2	無	無	
	境 希里子	准教授	0	0	0	0	無	無	
	根本 賀奈子	准教授	0	2	1	1	無	無	
	本多 吉彦	准教授	1	2	0	1	無	無	
	野沢 さおり	講師	0	0	1	7	無	無	
	小出 恵	講師	0	1	0	2	無	無	
	井上 昌恵	講師	0	0	0	5	無	無	平成21年度 休職
	佐藤 綾	講師	0	0	0	6	無	無	
	井口 彰子	講師	0	0	0	4	無	無	平成21年8月～ 平成22年7月 休職
	渡部 薫	助教	0	0	0	3	無	無	
	木全 秀美	助教	0	0	3	4	無	無	
	後藤 望	助教	0	0	1	3	無	無	
生活造形学科	井上 祐一	教授	1	1	0	9	無	有	
	大津 由美子	教授	0	0	0	5	無	無	
	齋藤 満里子	教授	0	0	0	0	無	無	
	松本 美保子	教授	0	0	0	3	無	有	
	沼尻 七子	教授	0	1	0	4	無	無	
	石森 寛	教授	0	0	0	21	無	無	
	藤田 敬子	准教授	0	0	1	21	無	無	

1) 服装学科

服装学科に籍を置く教員 19 名のうち 17 名が専門教育科目を担当し、そのうちの 15 名が服装領域の実習系科目を担当する教員である。これらの教員においては、著作・論文・学会発表等に関する研究実績は必ずしも多くないが「その他」として服装等の作品製作を中心に研究活動を展開している。この研究成果については、文化女子大学教員研究作品展への出展、日本家政学会等の作品展示等で発表している。

ファッションビジネス、被服管理学、外国語等の専門領域においては、著作・論文・学会等の発表等の研究活動を展開している。

服装学科教員の所属学会としては、ファッションビジネス学会、日本感性工学会、日本家政学会、日本繊維製品消費科学会、シルク学会、日本語教育学会等がある。

全体的に見ると、作品製作に関わる研究活動は活発に行われているものの、論文系の研究活動は十分とはいえない。上記学会等への論文投稿、「文化女子大学紀要 服装学・造形学研究」「文化女子大学紀要 人文・社会科学研究」への投稿、学内研究発表会等を活用して、論文等の理論的研究活動を進展させることが必要である。

2) 生活造形学科

生活造形学科に籍を置く教員 7 名のうち 6 名が専門教育科目を担当し、1 名が総合教養科目を担当している。専門教育担当教員は主に実習系科目を担当する教員である。

そのため、研究活動においては「その他」に類する作品制作が主となっており、例えば文化女子大学教員研究作品展への出展、他の作品発表の機会を利用した発表等が行われている。講義系担当教員においては著作も見られるが、生活造形学科全体としては論文形式の発表が少ない現状がある。これらの課題については、教育の質を向上させるためにも積極的に取り組んでいく必要がある。

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

教員個人の研究活動状況の公開については、研究開発支援総合ディレクトリ (ReaD) や文化学園リポジトリを利用している。

◆参考資料 99 研究開発支援総合ディレクトリ (ReaD) <http://read.jst.go.jp/>

(3) 過去 3 ヶ年 (平成19年度～21年度) の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況 (件数) を一覧表にして下さい。

外部研究資金の申請・採択状況 (平成19年度～21年度)						(件数)
外部資金調達先等		平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度
		申請	採択	申請	採択	申請 採択
科学研究費補助金		0	0	0	0	0 0
その他の外部研究資金	調達先・資金名等	0	0	0	0	0 0

本学教員は作品制作を中心に研究活動を行っているため、外部研究資金の申請・採択がない状況である。作品制作等による研究活動をさらに活発にするための支援をする一

VI 研究

方、外部研究資金の獲得も重要な課題と位置付け、全学で取り組む必要がある。

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

1) 服装学科

教育課程に関し、ファッションクリエイティブコースとファッションビジネスコースの教員が共同研究した結果を踏まえて、平成 20 年度文部科学省による「質の高い教育推進プログラム」(教育 GP) に「ファッションブランドビジネスモデルの構築—短大生のプロジェクトチームによる体験プログラム—」を申請し、選定され、現在 3 年目を迎えている。

また、文化ファッション研究機構、文化・衣環境学研究所での共同研究、科学研究費補助金による研究等は、専門領域の共通する併設大学の教員との連携で行われることが多い。さらに、日本家政学会、ファッションビジネス学会等の研究部会、学会総会を通じた口頭発表等も見られる。

2) 生活造形学科

文化・住環境学研究所の研究費による共同研究が可能となっており、平成 20 年度には併設大学の教員との共同研究が 1 件あった。この研究については平成 21 年度の学内研究発表会で発表された。教育に関わる研究については、教員個々に個展、グループ展、公募展、企画展などに出品する作品制作により行っている。

【研究のための条件について】

(1) 研究費(研究旅費を含む)についての支給規程等(年間の支出限度額等が記載されているもの)を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去 3 ヶ年(平成 19 年度～21 年度)の決算書から研究に係る経費を項目(研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等)ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。

研究費は、専任教員に対して日常的な研究活動を支援し、教育に反映されることを目的として交付されるものである。研究用機器・備品、図書、研究材料等の購入、学会費等に充てることができる。

研究費を申請するに当たっては、「文化女子大学・文化女子大学短期大学部研究費運用準則」に基づき 5 月末までに年間の「研究計画書」を提出することとし、計画的に使用するよう義務付けている。また「研究計画報告書」の提出も義務付けることとしている。

◆参考資料 100 文化女子大学・文化女子大学短期大学部研究費運用準則

(2) 教員の研究成果を発表する機会(学内発表、研究紀要・論文集の発行等)の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去 3 ヶ年(平成 19 年度～21 年度)の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

教員の研究成果を発表する機会の確保として、併設大学と一体的に行う学内の研究論文発表の場や、紀要編集委員会が毎年 1 回発刊する文化女子大学紀要(以下「研究

紀要」という)、文化学園リポジトリがある。また、作品制作を研究活動としている教員の作品発表には、研究委員会が中心となって毎年4月に開催する教員研究作品展がある。

口述発表の場としては毎年9月に学内研究発表会(以下「発表会」という)があり、教授から助手まで幅広く発表できる場を設けている。発表会は、併設大学(以下「大学」という)と共同で開催され、教員の研究成果の発表の場として確保されている。発表会は、午前に大学服装学部・本学服装学科、午後に大学造形学部・本学生活造形学科で行われ、学部・学科を越えて聴講可能となっており、発表原稿は、印刷物として配布されている。

研究紀要は、教員数が小規模のこともあり、本学独自の研究紀要の発行はないものの、大学とともに毎年発行している「文化女子大学研究紀要 服装学・造形学研究」「文化女子大学研究紀要 人文・社会科学研究」に発表の場が設けられており、研究発表の場として確保されている。

文化学園リポジトリは文化学園全体の教育・研究成果の永久保存と公開を目指して構築した電子アーカイブシステムである。平成21年度から試験的に公開しているため登録数はまだ少ない。今後は多数の教員に学術雑誌掲載論文、学位論文、紀要、その他研究成果としての作品等を登録するよう、附属研究所である文化ファッション研究機構を中心に進める。

教員研究作品展については、教育課程の性格上、多数の実習科目がある。このことから多くの教員は、作品制作を通して学生指導等に関係する研究を行っている。毎年4月に本学に隣接する新宿文化クイントビルの文化クイントサロンにおいて、併設大学と共同で開催される「文化女子大学教員研究作品展」が発表の場として確保されている。このことについてはP84VI研究【特記事項について】(1)で補足説明する。

- ◆参考資料 33 文化女子大学紀要 服装学・造形学研究 第39～41集
34 文化女子大学紀要 人文・社会科学研究 第16～18集
35 文化女子大学教員研究作品展作品集 第11集 2008～2009

(3)教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成21年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

平成21年度の整備状況は次の通り。

	教育研究用機器備品	図書費(雑誌含む)
服 装 学 科	4,801,824 円	1,242,861 円
生 活 造 形 学 科	2,652,000 円	1,119,534 円
合 計	7,453,824 円	2,362,395 円

(4)教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

本学は研究室を共同研究室とし、関連する実習室、演習室、準備室等が連携して機能

VI 研究

するよう配置している。これは、両学科とも実習を中心とするカリキュラムであること、実習指導をはじめとする各教科の指導について教員間のコミュニケーションを重視しなければならないこと、学生への指導・助言が適切になされやすいこと、教員間の共同研究や研修を促進すること等によるものである。個人研究においては、実習系の教員が多いため、各専門の機器を設置している実習室・演習室を研究作品制作の場として活用している。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

教員の研究日は週 1 日認められている。実習を伴う専門教育科目を担当しているため、研究時間の確保は難しい。授業準備や学生への時間外指導に当てられることも多く、また、各委員会や行事の役割等を兼務していることもあり、研究は各自の研究日や夏季休暇、冬季休暇に集中的に行っているのが現状である。

【特記事項について】

(1) この《VI研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

附属研究所である「文化ファッション研究機構」「文化・衣環境学研究所」「文化・住環境学研究所」に多くの教員が研究員登録を行い、研究活動を進めている。

附属機関は教員、学生の研究活動支援のための様々な取り組みを行っている。図書館ではデジタルアーカイブ「貴重書画像データベース」や研究成果データ登録「文化学園リポジトリ」の構築を推進している。服飾博物館は所蔵資料のデータベース化を推進し、学内 Web 公開等により研究活動の支援を行っている。ファッションリソースセンターにおいても、テキスタイル資料室、コスチューム資料室、映像資料室の連携で Web データの拡充を図り、コレクション情報の整備を進め研究支援している。文化学園知財センターでは企業と産学連携による共同研究のサポートから、研究業績の保護に関する事項まで支援している。

これらの附属機関では、年に数回の展示会や講演会、研修会等を企画開催し、教員の研究成果の公表を行うとともに、研究情報の収集や知財関連の知識の向上に努めている。

教員の研究作品発表の場としては、毎年 4 月に本学に隣接する新宿文化クイントビル内の文化クイントサロンにおいて、併設大学と共同で組織された研究委員会により開催される「文化女子大学教員研究作品展」が確保されている。

作品展は実習科目に関する研究であるとともに学生への教化の場として考えている。

この作品展は、教員の研究の向上、並びに教育の向上につながる発表として始められたもので平成 22 年度に第 25 回を迎えた。さらに隔年で「文化女子大学教員研究作品展作品集」を発行し、研究成果を学外に公表している。

併設大学とともに、助手を構成員とする「助手会」がある。助手会は教員の研究活動が円滑に実施するための協力、研究室間の連絡及び相互の連携を図ることを目的としているが、助手の教育・研究活動のさらなる充実を目指し、助手会主催の「スプリ

ングセミナー」を開催している。

スプリングセミナー開催状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
開催日時	平成20年2月12日（火） 13：30～15：00	平成21年2月24日（火） 13：30～15：00	平成22年2月23日（火） 13：30～15：00
テーマ	精神的な問題を抱えた 学生の問題及び対処法	ポータルサイトの使用方法、状況、 他大学との比較について	就職の現状について
講師	小平キャンパス学生相談室 吉川 尚子	EDPネットワークソリューション課 杉原 綾	就職相談室 室長 松田 一政
参加人数	20名	20名	25名

- ◆参考資料 35 文化女子大学教員研究作品展作品集 第11集 2008～2009
101 文化女子大学短期大学部助手会規程

（2）特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点を求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

Ⅶ 社会的活動

《Ⅶ 社会的活動》

【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

（１）社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

本学の社会的活動の基本理念や方針は、服装・生活造形両学科の実践的教育の有用性を社会的活動に具体化することにある。すなわち、ファッションの製作技術とファッションビジネスの知識、工芸・生活雑貨に関するものづくりの技法などを社会に普及・還元することである。具体的には、特別公開講座、学会・行政機関との連携によるテーマに応じたセミナー等を実施してきた。また、伝統的工芸分野のオープンカレッジの検討も進めている。一方、学生作品の展示、ファッションショー、バザー作品の販売など学生の活動は学生による社会と連携した活動となっており、学生に社会的活動の意義を認識させる効果をもたらしている。

（２）社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

本学は入学者受け入れに当たり「社会人枠」を現状としては設けていない。ただし、若干ながら中高年齢層の入学者が存在することを考慮すると、社会人入学の希望者は潜在的に見られる。修業年限と実践的教育課程、キャンパスが新都心にあるという利点を基本において、併設大学とともに社会人受け入れについて検討を進めていきたい。

また、生活造形学科のカリキュラムには、工芸分野が含まれており「ものづくり」の伝統的技法を次世代へ継承する機能を果たしている。担当教員間ではこれらの分野は生涯学習の一部と位置付けられて、社会人に還元する方策を見出すべく、検討を進めている。

（３）過去３ヶ年（平成19年度～21年度）に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

専攻科被服専攻ファッションショー

専攻科被服専攻の学生が自身で作成した作品を着装し、構成・音響等も学生達が企画して行ったショーは下記の通りである。

専攻科被服専攻ファッションショー開催状況

年 度		テーマ	開催期間	公演回数	来場者数
平成19年度	前期	衣着る	7月14日(土)	3	547名
	後期	Dear・・・	1月16日(水)～17日(木)	5	983名
平成20年度	前期	301x	7月12日(土)	3	451名
	後期	GLITTER	12月20日(土)・22日(月)	3	565名
平成21年度	前期	CHAIN	7月11日(土)	3	465名
	後期	Fantasmagoric	12月19日(土)・21日(月)	4	581名

公開講座

本学が併設大学とともに研究委員会（旧：公開講座運営特別委員会）を組織して行った公開講座は、次の通りである。

公開講座開講状況

開講年度	日時・場所	講座名	テーマ	参加者数
平成19年度	平成19年7月17日（火） 16：30～18：00 A201講義室	夏期特別公開講座	日本の色物語ー神話時代から、ファッションカラーまでー ＊同時開催 文化学園服飾博物館展示「絹ものがたり」	239名
	平成20年2月14日（木） 16：30～17：30 A201講義室	春期特別公開講座	アントワープのダイヤモンドとHRD賞 ー文化学園服飾博物館「オペラ座の夜」展鑑賞のためにー	244名
平成20年度	平成20年11月25日（火） 16：30～18：00 A201講義室	秋期特別公開講座	貝紫の神秘ー海の天然染料をめぐる壮大なロマンー ＊同時開催 文化学園服飾博物館展示「世界の藍」	369名
	平成21年2月13日（金） 16：00～17：30 A201講義室	春期特別公開講座	日本の伝統組紐ー珠玉の絹文化ー ＊同時開催 文化学園服飾博物館展示「おひなさまと装束・調度」	439名
平成21年度	平成21年11月24日（火） 16：30～18：00 A201講義室	秋期特別公開講座	江戸時代の小袖と呉服注文 ー三井家伝来小袖と衣裳下絵との関係を中心にー	304名
	平成22年3月3日（水） 14：00～15：30 A201講義室	春期特別公開講座	着心地・寝心地・履き心地 ー健康に効くファッションのすすめー	292名

◆参考資料 102 公開講座パンフレット（平成19年度～平成21年度）

（4）過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の短期大学と地域社会（自治体、商工業、教育機関、その他団体等）との交流、連携等の活動について記述して下さい。

1）平成19年度活動状況

①長野県飯山市との連携

本学研修施設がある長野県飯山市と協働して、財団法人地域総合整備財団の助成事業である「平成19年度 大学と連携した地域づくり」において「いいやま匠大学」を設立した。平成19年度は飯山市の特産品である和紙（内山紙）を新しい発想で利用し、服装学科の教員が「和紙で広がる装い、楽しむ小物」として作品を製作、生活造形学科の教員と学生がランプシェードを制作し、いずれも文化祭期間中に展示した。和紙を通して照らす柔らかな灯りは、日本古来の和紙の良さを改めて認識させ来場者からはたいへん好評であった。

平成19年度と平成20年度にはコラボレーション科目として飯山市にある工房で紙漉きを実体験する科目を開講し、履修した多数の学生が地域の人々と交流した。

②文化学園購買部との提携

生活造形学科と文化学園購買部との連携により、新教育課程への試みとしてデザインプロセスの実践的実習でクラッチバックのデザインを行った。このクラッチバックは商品化され、文化祭にあわせて購買部で販売され好評を得た。

Ⅶ 社会的活動

2) 平成 20 年度活動状況

① ロッテ商事株式会社との連携

新製品「キスチョコレート」発売のため、コンビニ等で展開するため売り場プロモーション（店頭ディスプレイ）企画を学生から募集した。本学と併設大学学生から 23 件の応募があり生活造形学科の学生が優秀賞を受賞した。

② 株式会社スポーツとの連携

ボウリングウェアにプリントされるロゴマーク制作に取り組み、積極的な応募があった。

③ 株式会社ナクアホテル&リゾートマネジメントとの連携

栃木県那須町にあるホテルエピナール那須の「リゾートホテルの次世代館内用着衣デザインコンペティション」に、専攻科被服専攻の学生 29 名が応募した。

第 1 次審査・第 2 次審査（ショーを含む）を経て、最優秀作品 1 位から 10 位まで入賞することができ、輝かしい成果を収めることができた。1 位の学生提案デザインは、ホテル宿泊客の館内用着衣として採用されている。

◆参考資料 103 いいやま匠大学 和紙工芸科開設 平成 19 年度実績報告書

【学生の社会的活動について】

（1）過去 3 ヶ年（平成19年度～21年度）の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

1) 文化祭バザー

毎年11月 2 日～ 4 日に開催している文化祭（平成22年度に第60回を迎える）において、両学科ともにバザーを行っている。文化祭バザーは本学開学当時から行っている伝統的行事である。学生は材料費自己負担で婦人服、エプロン、袋物、アクセサリ等のバザー作品を作成する。作品は、日頃の専門科目の教育が生かせる内容となっており、デザイン性・技術性ともたいへん評価の高いものである。

学園全体のバザー収益金は、従前は学内環境整備のために利用していた。近年は国内外で大規模な自然災害等があった場合、日本赤十字社、日本ユニセフ協会、在日各国大使館等を通して当該地域へ義援金として寄贈している。なお、平成20年度は中国四川省大地震被災者へ、平成21年度はチリ大地震被災者へ寄贈した。また、内戦が続いていたカンボジアに対しては、この義援金によりすでに 6 校の小学校が建設され、大勢の子ども達が勉強に励んでいる。

2) ワクチンを届けるキャンペーン

学生会の組織である文化・ボランティア委員会で「ペットボトルのキャップで世界の子どもにワクチンを届けよう」に、継続的な運動の輪を学内に広げている。

3) アナウンス部の活動

アナウンス部が渋谷区の依頼により「初台まつり」で放送担当として協力した（平成19・20年度）。

4) 「企画集団FUSE」の活動

ファッションショーを企画・運営する団体である「企画集団FUSE」の学生が、ファッションデザイナー山本里美氏のパリコレクションのフィッティングを行った。

5) ホテルイベントの協力

茶道・華道同好会が目黒区のホテル クラスカのイベントで茶道の実演を行った（平成21年度）。

6) 遊園地のリデザイン

生活造形学科の課題で採り上げた近隣の渋谷区立代々木第三遊園地の喫煙所のリデザインについて、課題内容と結果を区の公園課に提案した。今後も渋谷区と連携をとりつつ進める（平成 21 年度）。

- ◆参考資料 104 文化学園のカンボジアへの寄贈校一覧
82 学生支援のマニュアル

（2）短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

本学学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動は、全学的なイベントである文化祭、一部の実習授業と関連付けた地域貢献、学生会・クラブなどによる課外活動によるものである。

特に文化祭は、キャンパスを開放し本学の教育内容を公開するとともに、各種イベントを通じて地域社会との交流を促すものとなっている。そして、バザー収益金の寄附は、前述の通り、国内外における社会貢献として高く評価されている。全ての学生が文化祭の開催に携り、バザー作品を作成するという方針が伝統になっているので、従来の実績は十分に評価されて良いし、今後とも教職員・学生の理解のもとに継続すべきことと考える。

実践的な授業・実習授業の多い本学では、両学科の専門領域の範囲内での地域活動や社会貢献が可能である。それらの活動を通じて、学生の専門的な技術を向上させ、また社会性を育む機会となると考えられるので、さらに内容的に幅広いものにしたいと考えている。

学生会・クラブなどによる課外活動を通じたボランティア活動は、様々な発想をもとに行われている。キャンパス周辺の機関や、身近な地域社会との関連で、学生の活動がより活発化するよう助言し支援していくことが肝要であると判断している。

【国際交流・協力への取組みについて】

（1）過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の学生の海外教育機関等への派遣（留学〈長期・短期〉を含む）の状況を記述して下さい。

併設大学と同時開講のコラボレーション科目（詳細は P27 II 教育の内容【特記事項について】（1）の項目参照）で次の表のとおり派遣している。

学生の海外教育機関等への派遣状況

科目名	提携校名	平成19年度 履修者数/実施期間	平成20年度 履修者数/実施期間	平成21年度 履修者数/実施期間
アメリカ文化研修 (実践編)	ベルビューコミュニ ティカレッジ	0人	1人	0人
		9月3日～24日	8月29日～9月13日	8月28日～9月15日
韓国文化研修	青江文化産業大学	2人	1人	1人
		9月9日～ 14日	9月15日～20日	9月14日～19日
台湾文化研修	実践大学	5人	0人	—
		9月10日～15日	9月15日～20日	休講
合計		7人	2人	1人

(2) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

平成22年5月1日現在、本学と併設大学で4カ国7校の海外教育機関と教育交流の提携を結んでいる。本学では併設大学とともにこれらの海外提携校を中心に、短期・長期の研修プログラムの提供、セミナーやワークショップの開催、学生作品の交換展示等を行っている。

短期研修では、韓国の青江文化産業大学、台湾の実践大学・樹徳科技大学・台南科技大学の学生が毎年7月に来校し、本学の施設を使って、本学と併設大学の専任教員が日本文化やファッションビジネスの現状等の講義、実習を行っている。

また、ベトナムの若手デザイナーへの登竜門として知られるデザイン・コンテスト「ベトナム・コレクション・グランプリ」の受賞者を毎年招聘し、6月下旬から約1カ月間、縫製やディスプレイの実習、トレンドについての講義等、本学独自のファッション研修プログラムを提供している。ベトナムからはこの研修の他「日本・ベトナム学生交流会」の交流団約40名が毎年9月下旬から10月初旬に来校し、学内視察の他、日本文化としての着物についての聴講、着付けの体験などを行っている。

平成21年11月にはブラジルの貿易振興会やデザイナー協会と本学とが共催で「日本・ブラジルファッションシンポジウム」を開催するなど、世界各国のファッション産業の発展・促進を図るため、海外の公的機関や教育機関、服飾関連団体との連携イベントにも積極的に取り組んでいる。

◆参考資料 105 海外提携校一覧

(3) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

教員の海外派遣制度については「教員の海外及び国内研修に関する規程」「同規程細則」が整備されているが、同規程による本学の教員の派遣実績は過去3年ない。

しかし、短期間ではあるが服装学科の専任教員がフランスで行われているパリコレクションに参加し、研修を行った。今後は、特に中堅・若手教員の育成のため、積極的な派遣が行われるよう支援する必要がある。

本学は「国際ファッション工科大学連盟」(IFFTI)に加盟している。同連盟の国際会議においては併設大学専任教員が論文発表等を行っているため、今後本学専任教員も発表の機会を得るよう努力する必要がある。

- ◆参考資料 36 教員の海外及び国内研修に関する規程
37 教員の海外及び国内研修に関する規程細則

【特記事項について】

(1)この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

1) 高大連携

① 文化女子大学附属杉並高等学校

本学教員が附属杉並高等学校の「学校設定科目」のうち「文化女子大学指定科目」を担当している。科目にはファッション系・インテリア系がある。修得した生徒が本学に入学すると「高大連携科目」として「自由選択科目 2単位」を認定する。

② 文化女子大学附属長野高等学校

ファッション・アート系の特別講座を6回程度、本学教員が担当している。授業は現地で行われる場合と新都心キャンパスとテレビカメラを利用して遠隔授業を行う場合がある。

2) 災害時の協力

災害発生時に本学が地域住民に必要な便宜を図ることで、地域社会に貢献する体制がある。渋谷区と本学との間に「避難所施設利用に関する協定書」を交換し、災害時に地域住民のための避難所としての役割を担うことを明らかにしている。また「災害時における警視庁代々木警察署現場警備本部の施設利用に関する協定書」に基づいて、大規模災害発生時の警備指揮本部を本学に設置することで、災害対策活動に協力することとしている。

3) 地域との連携

平成22年度、渋谷区に開設される「渋谷区文化総合センター大和田」のうち、10階、11階のファッション・デザイン産業支援関連施設を本学が借り受け、「文化ファッションインキュベーション」として利用する。この施設は、学生とファッション業界の人々との交流を通じた本学特有の社会貢献として期待されている。本学としては、これらの活動をより積極的に進めることで学生の専門領域に対する視野を拡大し、社会性を涵養することにつながるものと評価している。

その他に、渋谷区との地域連携の一環として、渋谷区福祉保健部による出張講習会「認知症サポーター100万人キャラバン」を本学で開催し、教職員が受講した。

(2)特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

Ⅷ 管理運営

《Ⅷ 管理運営》

【法人組織の管理運営体制について】

(1) 短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

理事長は設置各校の代表及び文化学園本部、収益事業の代表者で構成されている「学園運営会議」等での意見を聴取しながら、文化学園の最高意思決定機関である「理事会」での審議や「評議員会」での審議を経て学園の運営方針を決定し、学園及び本学の事業計画を策定している。文化学園の理事長は本学学長を兼務しており、法人の経営的リーダーシップと、教学におけるリーダーシップが一元的に発揮されている。また、本学における管理運営上の責任者である事務局長と教学側で学長を補佐する立場にある副学長は理事に就任しており、理事会や学園運営会議においても現状把握ができ、学園及び本学の重要事項や事業計画の決定については、経営側と教学側のバランスの取れた審議を経て意思決定され、その方針に基づき適切な管理運営がなされている。

(2) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の理事会の開催状況（主な議案、理事の出席状況等を含む）を開催日順に作表して下さい。加えて理事会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。平成22年5月1日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りがないことをお示し下さい。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

理事会開催状況（平成19年度～21年度）

平成19年度

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
19	4	2	賞罰委員会からの答申について	7	8～10
19	5	29	平成18年度事業報告書、平成18年度決算について、平成18年度監事監査報告、各種学校の廃止と寄附行為の変更、大学・短大の学則変更、専門学校学則変更	7	8～10
19	5	29	各種学校の廃止と寄附行為の変更	7	8～10
19	6	29	評議員の選任、役員の選任	7	8～10
19	6	29	役員の選任	7	8～10
19	6	29	理事長・常任理事の互選	7	8～10
19	8	10	資産の購入・売却について、室蘭幼稚園の運営について、渋谷区旧大和田小学校跡地施設の利用について	6	8～10
19	9	7	資産の購入・売却について、不動産の担保付け替えについて、室蘭幼稚園の運営について、渋谷区旧大和田小学校跡地施設の利用について	7	8～10
19	10	18	室蘭短大附属幼稚園の園則変更、評議員の選任	7	8～10
19	12	13	大学・短大の学則変更、大学の留学生別科設置に係る学則変更について	7	8～10
20	1	7	平成20年の運営方針について、定年退職者の処遇について	7	8～10
20	2	28	平成19年度補正予算、平成20年度事業計画、平成20年度予算、寄附行為変更、大学・専門学校学則変更、国際交流事業について、資産の購入	7	8～10
20	3	21	役員の選任、学生寮の購入、収益事業について	7	8～10

平成20年度

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
20	5	28	平成19年度事業報告、平成19年度決算、平成19年度監事監査報告、寄附行為の変更、資産の購入・売却について、大学院大学・専門学校の学則変更、評議員の選任、大学健康心理学科の募集停止について	7	8～10
20	5	28	寄附行為の変更、資産の購入・売却について、室蘭キャンパスの整理について	7	8～10
20	6	20	評議員の改選、大学の学費改定について、共同研究拠点について	7	8～10
20	9	18	運用財産の処分について	5	8～10
20	10	9	運用財産の処分について	6	8～10
20	11	25	AFPとの業務提携について	7	8～10
21	1	5	平成21年の運営方針、専門学校の学則変更、幼稚園の園則変更	7	8～10
21	2	26	平成20年度補正予算、平成21年度事業計画、平成21年度予算、寄附行為の変更、大学・専門学校の学則変更、大学の校名変更について、資産の購入	7	8～10

平成21年度

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
H21	4	16	大学・健康心理学科の再編について	7	8～10
H21	5	27	平成20年度事業報告、平成20年度決算、平成20年度監事監査報告、寄附行為の変更、大学・専門学校の学則変更、役員の選任、評議員の選任	7	8～10
H21	5	27	大学・健康心理学科の再編と寄附行為変更について	7	8～10
H21	7	17	資産の購入、専門学校の人事	8	8～10
H21	9	17	大学・応用健康心理学科の設置と寄附行為変更について	8	8～10
H21	11	19	大学附属すみれ幼稚園、附属幼稚園（室蘭）園則変更について、学園の中・長期計画について	7	8～10
H22	1	5	平成22年の運営方針、定年後再雇用者の処遇について	8	8～10
H22	2	25	平成21年度補正予算、平成22年度事業計画、平成22年度予算について、規程の改定について、専門学校の学則変更について、株式の購入について	8	8～10
H22	3	18	大学附属すみれ幼稚園の改修について	8	8～10

理事会についての寄附行為上の規定

（理事会） 第17条 この法人に理事をもって組織する理事会を置く。 2 理事会は、法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。 3 理事会は、理事長が招集する。 4 理事長は、理事総数の2分の1以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から7日以内に、これを招集しなければならない。 5 理事会を招集するには、各理事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知しなければならない。 6 前項の通知は、会議の7日前までに発ししなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りではない。 7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。 8 理事長が第4項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。この場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。 9 理事会は、理事総数の3分の2以上の出席がなければ、会議を開き、議決をすることができない。ただし、第12項の規定による除斥のため3分の2に達しないときは、この限りではない。 10 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意志を表示した者は、出席者と見なす。 11 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。 12 理事会の決議について、直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることはできない。
--

◇添付資料 5 学校法人 文化学園 寄附行為

Ⅷ 管理運営

- ◆参考資料 106 学校法人 文化学園 理事・監事・評議員 名簿
107 学校法人 文化学園 理事会決議録

(3) 理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規程、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

「学園運営会議規程」に基づき、常勤の役員（理事、監事）と、法人の本部組織・教育組織・収益事業組織の各部署の代表者により構成されている「学園運営会議」を毎月（8月除く）1回開催している。学園運営会議では理事会や評議員会に諮るべき事項や法人及び設置各校や収益事業の運営上重要と思われる事項等を審議し、その他、各部門が通常業務を遂行する上で必要な報告・検討・審議を行っている。

- ◆参考資料 108 学校法人 文化学園 学園運営会議規程

(4) 監事の業務についての寄附行為上の規定、平成21年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自身が率直に現状を記述して下さい。

寄附行為において監事の定数は2名であり、「監事は、この法人の理事、職員又は評議員以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。」と定められている。平成22年5月現在、常勤、非常勤各1名の監事が選任され、非常勤の監事は外部の者が就任しており、任期は3年となっている。

平成21年度における業務執行状況について、監事は理事会、評議員会及び毎月の学園運営会議に出席し、法人の業務執行状況や財産の状況を監査している。決算期の理事会及び評議員会では監事監査報告書を提出し、理事会等において適切な意見具申等を行っている。

監事は会計監査においては会計監査人と連携をとりながら監査を行い、必要に応じて適切な会計処理を指導している。平成21年度の会計監査は年間で延べ17日間行われ、監事はその全てに出席している。また、平成19年度に学園の管理運営面における自己点検機能を強化するために設置された「監査室」と連携し、教育研究活動・管理運営・予算の執行状況等の幅広い業務監査を行い、内部監査機能の充実を図っている。監事が監査室や会計監査人と連携して職務を遂行することにより、学校法人に関わる三様の監査体制が整い、学園及び本学のガバナンス強化につながっている。

◇添付資料 5 学校法人 文化学園 寄附行為

(5) 平成21年度の評議員会の開催状況（主な議案、評議員の出席状況等を含む）を開催日順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

評議員会開催状況（平成21年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
21	5	27	平成20年度事業報告、平成20年度決算、平成20年度監事監査報、寄附行為の変更、役員の選任	22	21～23
21	9	16	大学・応用健康心理学科の設置と寄附行為変更について、共済事業団からの借入れについて、資産の購入について	19	21～23
22	2	25	平成21年度補正予算、平成22年度事業計画、平成22年度予算について	20	21～23

評議員会についての寄附行為上の規定

(評議員会) 第20条 この法人に、評議員会を置く。 2 評議員会は21人ないし23人の評議員をもって組織する。 3 評議員会は、理事長が招集する。 4 理事長は、評議員総数（在籍評議員数をいう。以下同じ。）の3分の1以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に、これを招集しなければならない。 5 評議員会を招集するには、各評議員に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面により通知しなければならない。 6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りではない。 7 評議員会に議長及び副議長を置き、議長及び副議長は、評議員のうちから評議員会において選任する。 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決をすることができない。 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意志を表示した者は、出席と見なす。 10 評議員会の議事は、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。 11 議長は、評議員として議決に加わることができない。

◇添付資料 5 学校法人 文化学園 寄附行為

(6)法人の管理運営について今後改善や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

理事長を中心に幹部教職員がリーダーシップを発揮し、各部門の協力体制のもと、特色ある教育研究活動や適切な管理運営に努めるとともに、今後は環境対策や情報公開にも積極的に取り組み、ステークホルダーへの説明責任を果たしながら、社会の要請に応じた学園のガバナンス体制を構築し、健全性と効率性を高めた管理運営を行っていく。

また、短期大学部の学生数減少についての対策を講じるとともに、収益事業等の再整備を行いながら、経営の安定化を図り、学園の中・長期計画に策定されているキャンパス再開発事業や学園創立100周年に向けた諸事業に備え、財政基盤の強化をしていく。

【教授会等の運営体制について】

(1)短期大学の教育・研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお学長選考規程等があれば訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

本学の学長は、設置法人の理事長、併設大学の学長を兼ねている。そのため学長は、学園内における本学の位置付け、併設大学との連携を的確に把握しうる立場にあり、教育活動全般についてリーダーシップを発揮し適切な運営を図っていると判断できる。

本学の運営に関しては、学長は併設大学との連携を前提として組織されている文化女子大学運営会議・文化女子大学将来構想委員会において基本的事項の検討を行うとともに、中長期的な問題に関する計画の策定について論議することとしている。

教育・研究上の事項については、文化女子大学運営会議・文化女子大学将来構想委員会とともに、教授会の下部機関としての各種委員会による審議・検討の結果が教授会に

VIII 管理運営

報告され、教授会における審議を経て最終的な結論が導き出される。学長は文化女子大学運営会議・文化女子大学将来構想委員会及び教授会を招集する権限を持ち、本学の教育活動と運営においてリーダーシップを十分に果たしているといえる。

◆参考資料 109 文化女子大学短期大学部学長選考基準

(2)教授会についての学則上の規定(教授会で議すべき事項等を含む)、平成21年度における開催状況(主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む)を年月日の順に記述して下さい。なお、学則を添付して下さい。

教授会についての学則上の規定

文化女子大学短期大学部学則

第6章 教授会

第17条 本学に教授会を置く。

教授会に関する規程は別に定める。

文化女子大学短期大学部教授会規程

(審議事項)

第7条 教授会は次の事項を審議する。

- (1) 本学の教育研究の基本的方針に関する事項
- (2) 教員の進退に関する事項
- (3) 教育課程の編成方針に関する事項
- (4) 学生の定員並びに在籍及び学位の授与に係る方針に関する事項
- (5) 科目等履修生及び委託生に関する事項
- (6) 学生生活指導に関する事項
- (7) 学生の試験及び賞罰に関する事項
- (8) 文化女子大学短期大学部学則の変更及びその他の重要な規程の制定又は改廃に関する事項
- (9) 委員会に関する事項
- (10) 本学の教育研究活動等の状況について本学が行う評価に関する事項
- (11) その他本学の運営に関する重要事項

構成メンバー：学長並びに教授、准教授、講師、助教、学長の指名に基づく他の職員

教授会開催状況（平成21年度）

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
21	4	1	定例文化女子大学・文化女子大学短期大学部合同教授会 1. 委員会報告 2. 平成21年度新入生数・入学式等の日程について 3. キャリア形成教育科目について 4. 平成20年度卒業判定会議における認定保留者について 5. 学生異動について	29	29
21	4	28	定例服装学部・造形学部合同教授会及び短期大学部教授会 1. 委員会報告 2. 平成22年度入試関係について 3. 学生異動について	27	29
21	6	9	定例服装学部・造形学部合同教授会及び短期大学部教授会 1. 委員会報告 2. 平成22年度入試関係について 3. 学生異動について	28	29
21	7	14	定例文化女子大学・文化女子大学短期大学部合同教授会 1. 委員会報告 2. 平成22年度入試関係について 3. 平成22年度教員の国内外研修申請について 4. キャリアデザイン（展開編）公欠について 5. 前期定期試験について 6. 教員の夏季休暇について 7. 学生異動について	27	29
21	7	21	定例文化女子大学短期大学部教授会 1. 委員会報告 2. 平成22年度入試関係について 3. 短期大学部認証評価 自己点検・評価報告書執筆分担について 4. 学生異動について	28	29
21	9	8	定例文化女子大学・文化女子大学短期大学部合同教授会 1. 委員会報告 2. 平成22年度入試関係について 3. 第31回球技祭について 4. 学生会サミットについて 5. 学生異動について	24	29
21	10	13	定例服装学部・造形学部合同教授会及び短期大学部教授会 1. 委員会報告 2. 平成22年度入試について 3. 文化祭について 4. 平成21年度卒業式・平成22年度入学式日程について 5. 学生異動について 6. 平成21年9月卒業について	27	29
21	11	10	定例服装学部・造形学部合同教授会及び短期大学部教授会 1. 委員会報告 2. 平成22年度入試関係について 3. 文化祭報告 4. 平成22年度教員昇任審査の申請について 5. 平成22年度任期制助教・任期制助手の再任・採用について 6. 平成22年度副手の採用申請について 7. 服飾博物館展示について 8. 学生異動について	27	29
21	12	8	定例文化女子大学・文化女子大学短期大学部教授会 1. 委員会報告 2. 平成22年度入試関係について 3. 造形学部卒業研究展示、短大部生活造形学科創作実習展について 4. 年末年始休暇について 5. 学生異動について	25	29
21	12	22	定例文化女子大学短期大学部教授会 1. 委員会報告 2. 平成22年度入試関係について 3. 短期大学部服装学科 短大GP 学生によるブランド発表会（公開審査会）について 4. 短期大学部生活造形学科 創作実習展について	26	29
22	1	6	定例文化女子大学・文化女子大学短期大学部合同教授会 1. 委員会報告 2. 平成22年度入試関係について 3. 後期定期試験について 4. 短大教育GP学生によるブランド発表会（公開審査会）について 5. 学生異動について	26	29

VIII 管理運営

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
22	2	8	定例文化女子大学・文化女子大学短期大学部合同教授会 1. 委員会報告 2. 平成22年度入試関係について 3. 学生異動について	18	29
22	2	12	定例文化女子大学短期大学部教授会 1. 委員会報告 2. 平成22年度入試関係について 3. 短期大学部服装学科 短大GP学生によるブランド発表会（公開審査会）報告 4. 短期大学部生活造形学科 創作実習展報告	26	29
22	3	2	定例文化女子大学・文化女子大学短期大学部合同教授会 1. 教員異動について 2. 委員会報告 3. 平成22年度 文化女子大学・文化女子大学短期大学部事業計画について 4. 平成22年度入試関係について 5. 平成21年度卒業式・平成22年度入学式について 6. 教員春季休暇について 7. 新年度のスケジュールについて 8. 平成22年度コース人数について 9. 学生異動について 10. 転学・転学科願出者について 11. 学則変更について	27	29

- ◇添付資料 1 平成22年度 文化女子大学短期大学部学則
 ◆参考資料 6 文化女子大学短期大学部教授会規程
 11 平成21年度 文化女子大学短期大学部教授会議事録

（3）学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成21年度の開催状況等を記述して下さい。

本学の基本方針や運営の方策等について審議・検討する「大学運営会議」が年4回開催される。この「大学運営会議」は「将来構想委員会」（学長以下「文化女子大学将来構想委員会規程」に基づく委員）のメンバーによって構成されている。

名 称	主な業務	構成メンバー	開催状況
文化女子大学 運営会議	1. 本学の諸事項を協議し、本学と併設大学の円滑な運営を図る 2. 本学と併設大学の将来構想を検討する 3. 本学の短・中・長期計画の企画立案 4. 本学の状況について本学が行う評価	学長・学部長・大学院研究科長・ 学部、短期大学部主任教授・ 図書館長・研究所長・事務局長・ 教務部長・学生部長	4
文化女子大学 将来構想委員会	以上の事項について検討・審議する		

さらに教授会の下に、各種委員会が置かれている。委員会には常置委員会・特別委員会があり、委員は併設大学の教員とともに委員選出母体群構成員表に基づいて選出され、各委員会の規程に沿った案件の審議結果を教授会に報告し、教授会の議を経て決定している。各委員会の審議事項等は次の通りである。（P34 III教育の実施体制【教員組織について】(5)(d)その他教育研究上の業務の項目にもある通り、委員会組織は平成22年度から変更した。したがって下記の委員会については平成21年度までの組織である。）

[常置委員会]

名 称	主な業務	構成メンバー	開催状況
教 務	科目履修・試験・編入・転学・その他教務上の事項を審議する	教授会の定める委員会の選出母体群から互選された各 1 名の委員、教務課長及び教学課長	10
学生生活	1. 学生生活指導 2. 学生行事 3. 学生会並びに学生会所属のクラブ・同好会・愛好会 4. 小平国際学生会館（学生寮） 5. 奨学金 6. クラス担任からの提案事項 以上の事項について検討・審議、企画・立案する	教授会の定める委員会の選出母体群から互選された各 1 名の委員、学生課長及び学生支援課長	11
カリキュラム	1. 授業科目の全体編成及び卒業認定単位 2. 授業科目の開設及び科目名 3. 授業科目の種類・単位数・年次配当等 4. 時間割等 5. 他大学等の既修得単位の認定 以上の事項について審議・検討する	教授会の定める委員会の選出母体群から互選された各 1 名の委員、教務課長及び教学課長	14

名 称	主な業務	構成メンバー	開催状況	
研 究	1. 全学的な研究体制、研究組織 2. 研究費・研究図書費・その他研究助成 3. 内外の研究上の交流 4. 研究成果の発表 以上の事項について審議・検討する	教授会の定める委員会の選出母体群から互選された各 1 名の委員	8	
紀要編集	文化女子大学紀要の編集刊行	教授会の定める委員会の選出母体群から互選された各 1 名の委員	服装学・造形学 人文・社会科学	13 9

[特別委員会]

VIII 管理運営

名 称	主な業務	構成メンバー	開催状況
留学生指導	1. 外国人留学生の生活相談・指導 2. 外国人留学生を対象とする学内行事 3. 外国人留学生の教科指導 4. 外国人学生と日本人学生・教員とのコミュニケーションの促進及び親睦 5. 外国人留学生の奨学金 6. 外国人留学生の進路指導 以上の事項について審議・検討、企画・立案する	学長が任命する教員（10名）及び職員（4名）	6
学生募集対策	学生募集並びに入学試験の実施に関する諸事項について、審議・検討する	学長が任命する教員（9名）及び職員（4名）	11
就 職	1. 就職指導 2. 就職先企業の調査、研究及び開拓 3. 就職のための学内選考 以上の事項について企画立案・審議実行する	学長が任命する教員（12名）及び職員（3名）	10
公開講座運営	1. 公開講座の意義並びに社会的役割 2. 公開講座の内容及び担当者 3. 公開講座の運営 以上の事項について企画・立案・審議・実行する	学長が任命する教員（10名）及び職員（2名）	11
全学自己点検・評価	本学の自己点検・評価の基本方針等に基づき、自己点検・評価を実施し、報告書案を作成する	将来構想委員会の委員の中から学長が任命する者1名・各学部学科及び学部共通科目の中から学長が任命する者各1名以上・事務局長1名、事務局部長及び職員の中から学長が任命する者若干名	5
全学ファカルティ・ディベロップメント	1. ファカルティ・ディベロップメントの方策 2. 教員の研修計画の立案並びに実施 3. 学生による授業評価の実施、結果分析及びフィードバック 以上の事項について審議・実施する	将来構想委員会の委員の中から学長が任命する者（1名）・各常置委員会・特別委員会の委員の中から学長が任命する者（5～7名）・事務局の各部長の中から学長が任命する者（2～3名）	9
ハラスメント防止	1. ハラスメント防止の啓蒙活動 2. ハラスメントの実態の把握 3. ハラスメント事案において当事者及び関係者から事情を聴取するなどの必要な事項を調査し、事実関係を明らかにする 4. ハラスメントの事案解決のための調停、カウンセリングその他の手続き	学長が任命する教員（5名）・事務職員（3名）	5
研究倫理	1. 研究実施計画 2. 研究の検証 以上の事項について審議する	副学長・大学院研究科長・各学部（部署）から選出された教員（若干名）、健康管理センターに所属する教員（1名）、その他学長が必要と認めた者（若干名）	1
研究公正	本学において行われる研究活動について、不正行為の防止及び不正行為に起因する問題が生じた場合に適切かつ迅速に対応する	理事（2名）・学長が任命する教職員（6名～8名）・学外有識者（若干名）	0
研究費不正使用防止	1. 競争的研究資金及びその他の研究費に係る不正防止計画を策定する 2. 不正防止計画の実施状況を調査するとともに必要に応じて改善を指示する 3. 研究費不正使用防止計画の策定及び実施	副学長・各学部長・各研究科長・各研究所長・事務局長・教務部長・総務部長・人事厚生課長・経理部長・施設部長・知財センター所長	1
図書館	1. 蔵書構成 2. 図書館利用 以上の事項について審議する	大学、短期大学部、大学院大学、専門学校教員10名・教務関係職員4名・学園本部1名・文化出版局1名	2
留学制度検討	1. 本学学生の国外留学 2. 国外の大学との単位互換 3. 国外の大学の学生の研修受入 以上の事項について審議・検討する	学長が任命する教員（9名）・職員（7名）	3
IT委員会 大学小	1. 文化学園IT化推進の方向性 2. 大学IT化中長期計画 3. 大学パソコン実習室の各年度整備計画 以上の事項について審議する	学長が任命する教員（7名）、職員（6名）	27

※参考 平成21年度から平成22年度への委員会の変更について

平成21年度			平成22年度		
教 務 委 員 会 カ リ キ ュ ラ ム 委 員 会	〈常置委員会〉 〈常置委員会〉	合併	→	教 務 委 員 会	〈常置委員会〉
学 生 生 活 委 員 会 留 学 生 指 導 特 別 委 員 会	〈常置委員会〉 〈特別委員会〉	合併	→	学 生 支 援 委 員 会	〈常置委員会〉
研 究 委 員 会 公 開 講 座 運 営 特 別 委 員 会	〈常置委員会〉 〈特別委員会〉	合併	→	研 究 委 員 会	〈常置委員会〉
紀 要 編 集 委 員 会	〈常置委員会〉	変更	→	学 部 ご と の 専 門 委 員 会 へ	
学 生 募 集 対 策 特 別 委 員 会	〈特別委員会〉	変更	→	入 試 対 策 委 員 会	〈常置委員会〉
就 職 特 別 委 員 会	〈特別委員会〉	変更	→	就 職 委 員 会	〈常置委員会〉

- ◆参考資料 110 平成21・22年度 委員選出母体群構成員表
111 規程集 各委員会規程

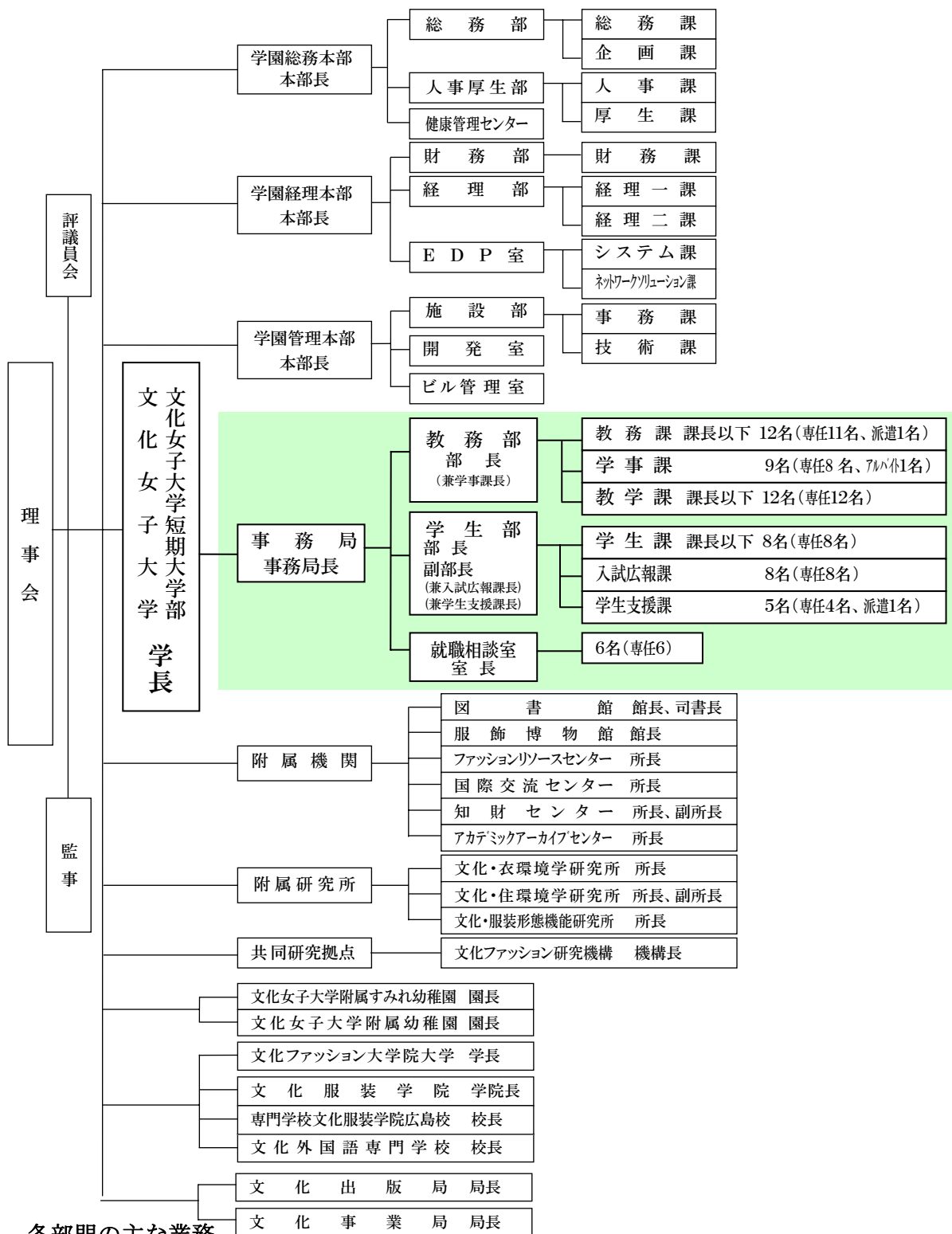
(4)短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

本学は短期大学として昭和25年に発足し、その後、昭和39年に併設大学を設置し、併設の利点を生かした教育活動を考えてきた。課題としては、併設の利点を生かしつつも、独立した教育体制と教員の研究体制のより一層の確立が課題と考えている。

【事務組織について】

VIII 管理運營

(1)現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。また組織図には短期大学の事務部門の役職名（課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む）、各部門の人員（専任・兼任の別を含む）、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際にご案内いただきます。



部 署 名	業 務 内 容
教 務 部 教 務 課	教育運営、授業計画作成、履修要項・シラバスの作成、授業運営、単位履修、学業成績の事務処理及び諸証明書類の発行、学生異動、科目等履修生・留学生等の事務処理、学籍台帳の作成・管理、研修旅行、教員勤務管理、教授会・各委員会に関すること、教員の昇任昇格・採用申請、学則及び諸規程の作成・改正、入学式・卒業式等の行事、教室・会議室及び付帯施設の管理
教 務 部 学 事 課	入学手続、学則その他関係諸規程の管理保管、教員人事の事務処理、教員出勤簿管理、学費等徴収、補助金・助成金等の申請及び事務処理、学生証発行、備品・消耗品等の購入及び管理、所管箇所の文書、短大印・学長印の管理・保管、職員慶弔の事務処理、サマーオープンカレッジ等受講受入事務処理、紫友会（卒業生の会）に関すること、附属幼稚園に関すること、研究奨励、短期大学予算案作成と予算管理
学 生 部 学 生 課	オリエンテーション、フレッシュマンキャンプの実施、修学指導、学生相談、学生の記録・調査、課外活動の指導・助言、奨学援助、学生の福利厚生・健康管理、球技祭・文化祭、留学生の就学指導・経済援助、留学生特別活動、学生生活調査、アルバイトの斡旋、刊行物発行、学生指導に関連する委員会関係
学生部入試広報課	入試業務全般、入学案内書・募集要項製作、進学フェスタ、高校生のためのサマーオープンカレッジ、入学相談、進学相談会・説明会、大学見学会、高校訪問、日本語学校訪問、学生募集等の広報、高大連携
学生部学生支援課 (小平キャンパス)	学生寮の生活指導、課外活動の指導・助言
就 職 相 談 室	就職指導の計画・実施、就職斡旋、就職に関する情報の収集・整理・提供、求人企業の対応・開拓、統計資料作成、就職資料室の整備、インターンシップ実施関係

(2)事務職員の任用(役職者の任免を含む)について現状を訪問調査時にご説明下さい。

- ◆参考資料 112 学校法人 文化学園 職能資格制度規程
113 学校法人 文化学園 人事考課規則
114 学校法人 文化学園 定年後再雇用規程

(3)事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

事務組織に関連する規程

学校法人文化学園 職制
学校法人文化学園 分課分掌業務規程
学校法人文化学園 組織機構図
文化ファッション研究機構規程
文化女子大学図書館規程
文化学園服飾博物館規程
文化学園ファッションリソースセンター規程
学校法人文化学園知財センター規程
文化学園国際交流センター規程
文化女子大学紫友会規約

- ◆参考資料 115 学校法人 文化学園 職制
116 学校法人 文化学園 分課分掌業務規程
117 学校法人 文化学園 組織機構図
118 文化ファッション研究機構規程

- 41 文化女子大学図書館規程
- 119 文化学園服飾博物館規程
- 120 文化学園ファッションリソースセンター規程
- 121 学校法人文化学園知財センター規程
- 122 文化学園国際交流センター規程
- 123 文化女子大学紫友会規約

(4) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類（学籍簿等）の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。

1) 決裁処理の概要と流れ

決裁の概要と流れは、「学校法人文化学園 稟議規程」及び「学校法人文化学園 稟議細則」により定められている。稟議事項は、大きく3つに区分（1. 特別稟議（法人運営等に関する事）、2. 人事稟議（教員・職員人事に関する事）、3. 一般稟議（資産・組織・職制・渉外・学生・その他））され、起案文書を担当部課が作成し、事務局長、副学長、学長（理事長）の決裁を受ける。

また、起案が複数の担当部課にまたがるときは、共同で起案文書を作成する。その起案が他の部課に影響を及ぼす場合、決裁前に関連部課の承認を得ている。

2) 公印や重要書類（学籍簿等）の管理

「学校法人文化学園 文書管理規程」「学校法人文化学園 文書公印取扱規則」に則り、管理している。公印は総務部が一括管理しているが、証明書関係の公印に関してのみ教務部が管理している。公印は金庫やキャビネットに保管・施錠している。学籍簿は教務課が管理している。在学生分と卒業後10年以内のものは事務室内のキャビネットに保管・施錠し、10年以上経過した卒業生分は倉庫に保管（永久保存）し、管理は強化している。

3) 防災の状況

「文化学園自衛消防隊組織」を編成し、予防の方策や防災に努めている。

また、年1度の総合消防訓練（避難訓練）に際しては、文化学園自衛消防隊事務局が「文化学園総合消防訓練計画書」を作成し各部署に配布して、火災や地震発生時における初期対応、災害の通報、学内の避難経路等について周知に努めている。

4) 情報システムの安全対策

情報システムは、教育系、事務系に大別される。教育系には研究・教育、図書館、博物館システム等があり、それぞれセキュリティを確保している。事務系は、給与、人事、経理、学校システム等があり汎用機で管理・運用され、外部からの進入は不可能である。また、教育系ネットワークから事務系ネットワークへの侵入はできない。ウイルス対応は、各種セキュリティサーバーでコントロールしている。

- ◆参考資料
- 124 学校法人 文化学園 稟議規程
 - 125 学校法人 文化学園 稟議細則
 - 126 学校法人 文化学園 文書管理規程
 - 127 学校法人 文化学園 文書公印取扱規則

128 平成22年度 文化学園総合消防訓練計画書
文化女子大学自衛消防組織一覧 平成22年度

(5) 事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者（事務局長等）が現状を率直に記述して下さい。

事務職員も教務委員会、学生生活委員会、就職委員会等の主要委員会の委員として参画しているため、教員との協働体制はそれぞれの業務において企画から実施に至るまで緊密にとられている。また、下記（6）で述べるようにSD研修会とFD研修会を合同で行っており、両者の意思疎通は良好である。

学生との関係については、事務局職員の多くが本学と併設大学の卒業生であることから学生生活の実態や課題を十分把握しており、学生も相談を持ちかけやすく信頼関係は良好である。また、学生の就職支援には、就職相談室が就職委員会（旧：就職特別委員会）と協働して就職講座等を運営し、また、職員が個別相談に応じ、雇用環境が悪い中で粘り強く支援している。

一方、広報活動等においても学生の協力を得て学内案内等を担ってもらっているなど、事務職員と教員、学生との信頼関係は恒常的に良好である。

教員や学生の学生生活に深く関わる教育関係施設（図書館、服飾博物館、購買、食堂等）の職員も教育サービスの提供者としての自覚の下に業務に従事し、両者から親しみと信頼を得ている。

(6) 事務組織のスタッフ・ディベロップメント（SD）活動（業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等）の現状を記述して下さい。

全学スタッフ・ディベロップメント委員会（以下「全学SD委員会」という）を組織し、事務職員の能力開発に努めている。全学SD委員会は事務局長を委員長として、事務局部長2名、就職相談室長、事務局から事務局長が指名する者若干名で組織される。

年度の初めに部署を超えて6名～8名のグループをつくり、統一テーマのもと討議を行い、その結果を所定の様式でレポートを作成して委員長に提出し、教員FD研修会のレポートと合わせて、全学FD・SD研修会分科会報告書として教職員にデータ配信される。

当該年度のレポートにより提起された課題を次年度の研修テーマとしている。特記すべきは、年度初めの一日を、本学が抱える課題等を共有するためにFDとSDの研修会を合同で行っていることである。また、若手からベテラン職員まで、日本私立短期大学協会、東京都私立短期大学協会、日本学生支援機構、私学高等教育研究所等の研修会に参加し、他大学との情報交換も含め積極的に行っている。平成21年度は、これらの研修等に参加した職員が学んだ事項、研修を通して今後本学として取組まなければならないと感じた事項等について予めレポート（A4版・1枚）を全学SD委員長に提出し、その後SD研修会を開催して全事務職員の前で発表している。

事務局管理職（課長補佐以上）は毎月1回、管理職ミーティングを開催し各部署の情報を交換している。このミーティングを通じて、他部署の状況に関する理解と新たな課題の抽出を可能にしている。

Ⅷ 管理運営

- ◆参考資料 129 全学スタッフ・ディベロップメント委員会規程
130 平成21年度事務職員研修会（学外団体主催研修会等参加報告書）

（7）短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

特になし。

【人事管理について】

（1）教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規程（就業規則、給与規程等）を訪問調査の際にご準備下さい。

授業のみならず多様化した学生に対する生活指導、メンタル対応等、教職員の業務が高度化、複雑化しているので、研修等を通して能力開発に意を用いていく必要があると考えている。

- ◆参考資料 131 学校法人 文化学園 職員就業規程・職員給与規程
81 キャンパスライフガイド
94 留学生のてびき
82 学生支援のマニュアル
132 文化女子大学メンタルヘルスセミナー
ー学生のこころの問題を考えるー資料

（2）法人（理事長及び理事会等）と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。

本学は、理事長が学長を兼ねており、また、理事として副学長、事務局長を置いて、理事会、評議員会及び学園運営会議のメンバーとして参画している。したがって、基本的には、法人と本学教職員の関係は、人事管理の上でも円滑な運営がなされている。

具体的には、文化学園職員就業規程を基本に、教員・職員の役割を明確にし、協働して教育研究が遂行できるシステムになっている。また、本学を取り巻く状況の変化や学生の質的量的な変容によって教職員の役割や担当業務にも改善が求められるので、速やかな対応を可能にするよう教授会（各委員会）、大学運営会議等を中心に発議・発案することが通例となっており、学園運営会議、理事会（理事長）もそれに呼応する体制で運営されている。

（3）教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。

1）主任教授

教員と事務職員との関係は良好でお互いに協力体制がとれている。

大学を取り巻く環境が著しく変化していく中で、教員と事務職員が同じ視点で教育環境等の改善に取り組むことは不可欠であり、事務職員も常に教育研究の課題意識と

モチベーションを高めていく必要がある。

事務職員が、教授会組織の委員会の構成メンバーとなっていることは、教員と事務職員が共通認識を持つことになり教育研究の充実、円滑化につながっている。

2) 事務局長

事務職員が教授会の下に置かれた委員会の構成メンバーになっており、両者の連携体制は組織的に確立されている。このため教育課程の編成、授業計画の作成及び成績評価等から学生支援、就職活動支援及び広報業務に至るまで、各業務は両者の緊密な連携により実施されている。特に教員と学生課員の連携が求められるのは、学習上、生活上の悩みを抱えた学生が学生生活に行き詰まった時であるので、出席状況やカウンセラーからの情報等を両者が共有して個々の事案に対応している。さらに学生個々の就職活動の支援は就職相談室の職員、就職委員会の教員、クラス担任・副担任連携体制の下で行われている。さらにP104 Ⅷ 管理運営【事務組織について】(6)で述べたようにFDとSDを合同で行うなど、両者は教務や学生支援について課題等を共有している。

また、毎年実施している自己点検・評価については、両者から評価結果が提出されるので、教務及び学生支援についての課題や改善の方向性が共有されている。

その他、学校法人の管理部門（施設部含む）と教員との関係も良好である。

(4)教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状を率直に記述して下さい。

1) 健康管理

教職員の健康管理は、健康管理センターで行っている。毎年全教職員対象に定期健康診断を実施し、再検査等が必要な場合は産業医が面談し、様々なアドバイス等を通じて検査を受けやすい環境を整えている。メンタル面は学生相談室のカウンセラーが学生と同様にカウンセリングを行い、必要な場合は専門医への紹介等も行っている。

2) 施設・設備

学内に学生・職員の身障者のための洗面所、手摺り等を設置し、必要な箇所にはスロープも設置している。

3) 研究室、事務室等の環境

空調等の環境を整備し、近年のCO₂削減対策に関して協力を要請している。また、健康増進法の受動喫煙の防止により、校舎内はすべて禁煙となっている。

4) ハラスメント防止委員会

職場におけるセクシャル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントについては学生と同様、教職員に対しても「文化女子大学ハラスメント防止に関する規程」に基づいて防止委員会が対応している。

5) 就業時間の順守

就業時間については、教員は出勤簿（捺印）、事務職員はタイムカードで管理している。教員、事務職員とも遅刻、早退、休暇、欠勤については所属長へ願い出て許可を得ることとしている。

VIII 管理運営

6) 業務の効率化

文化学園IT委員会を中心にIT化を推進している。教員、事務職員とも全員専用のパソコンを所持し、事務処理の効率化を図っている。教員は研究費で購入、事務職員は教育経費で購入している。

7) 監査室

学園監査室が、各部署の業務が適正に遂行されているか業務監査を行い、業務の改革・改善に努めている。また、各部署の規程の整備状況を確認し、未整備規程の作成を指示することとしている。

◆参考資料 133 文化学園 健康管理センター年報 第5号（平成20年度）

89 文化女子大学ハラスメント防止に関する規程

【特記事項について】

(1) この《VIII管理運営》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。

外部の協会等が主催する研修会の他にも、併設大学とともに学園本部が主催する次のような研修会も実施し、積極的に参加している。

外部の協会等が主催する研修会一覧

研修・講習会名	実施日	参加人数	内容等
若手研修	毎年9月上旬 (3泊4日)	18人(平成18年度) 13人(平成19年度) 16人(平成20年度)	入職3～4年目の事務系職員を対象として実施。実習や討議を通して自己・他者理解、若手職員の役割、コミュニケーション等の習得を目的としている。 ※平成21年度は定員に満たなかったため実施せず
知財センター講演会	毎年1回	50人(平成19年度) 60人(平成20年度) 64人(平成21年度)	平成19年度より文化学園知財センターが主催し、知的財産の理解を深めるために実施。平成19・20年度は、デザインに関わる特許法、意匠法、商標法等についての相違点及び関連性、国際的保護についての講演を行った。
メンタルヘルス研修会	3年毎 (年度内4回)	204人(平成15年度) 104人(平成18年度) 169人(平成21年度)	「メンタルヘルス」について教職員自身が理解し、部下・後輩の日常の状況を身近に感じ、労災や安全配慮義務についても見識を深めることを目的として実施。
AED(自動体外式除細動器)講習会	3年毎 (年度内4回) ※平成22年度 7月下旬実施予定	96人(平成19年度)	学内のAED設置(平成22年5月現在、併設大学と合わせて10台)に伴い、使用方法及び学内設置場所を周知することを目的として実施。
メンタルヘルスセミナー	平成21年 9月8日	全教職員	全学FD・SD研修会の一環として、学生の心理的不安定の理解と学生指導のあり方を学ぶことを目的として実施。
認知症サポーター講習会	平成20年 11月26日	96人	厚生労働省キャンペーン「認知症サポーター100万人キャラバン」に賛同、渋谷区との地域連携の一環として、渋谷区福祉保健部による出張講習会を開催し、認知症に関する理解を深めた。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

Ⅸ 財務

【財務運営について】

(1) 学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

学校法人文化学園事業計画を策定している。各学校で立案された中長期計画は、理事会を経て、各年度の予算に反映が図られる。基礎にあるものは、学生数・教職員数・キャンパスの整備計画である。法人本部では各学校の計画を調整し、バランスよく無理のない財政計画を組立て、中長期計画を財務面から支援している。

なお、平成22年度以降の法人のキャンパス整備計画（理事会承認済）を以下に列挙する。

- ①平成22年度より府中キャンパスの校舎を国際学生会館（留学生寮）として建て替える。
- ②平成24年度より留学生寮（ふじ寮）を国際学生会館に統合後、整備してH館の機能に移し、H館を建て替える。
- ③平成27年度に新H館の完成により、新都心キャンパスの整備を図る。
- ④上記の資金対応として、既に二号基本金対応特定資産他を積み上げている。

◆参考資料 134 平成22年度 学校法人 文化学園 事業計画

(2) 学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続きを簡潔に記述して下さい。

おおよそ、次のようなスケジュールで事業計画、予算決定がなされている。

1) 事業計画決定

- ①部門事業計画案作成依頼（事業計画担当部門）
- ②部門事業計画案提出（各部門）
- ③事業計画案作成（事業計画担当部門）
- ④事業計画案議決、承認（理事会、評議員会）

2) 予算決定

- ①予算編成方針作成（予算担当部門）
- ②予算編成方針通知、部門予算案編成依頼（予算担当部門）
- ③部門予算案編成、提出（各部門）
- ④部門予算案事情聴取、整理、集計（予算担当部門）
- ⑤第1次折衝（予算担当部門と各部門との折衝）
- ⑥第2次折衝（理事長と各部門との折衝）
- ⑦予算案作成（予算担当部門）
- ⑧予算案議決、承認（理事会、評議員会）
- ⑨各部門へ予算配付（予算担当部門）

※1 事業計画は予算措置を伴うものが多いので、予算編成と並行して行われる。

※2 必要に応じて補正予算の編成を行う。

(3)決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続きを含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規程等の財務諸規程について、整備している規程名を列記して下さい。財務諸規程は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

理事会で決定された予算は、経理部において会計システムに取り込まれる。部門別予算は、経理部より各部門の予算責任者に伝達される。

予算通知を受けた各部門は、事業計画及び経理規程に基づき予算の執行に当たる。経常費については予算担当者がオンラインで執行額を把握できるようにし、予算管理に努めている。固定資産の取得、大規模修繕等については、予算措置がなされたものも、もう一度購入申請書、見積書等を提出してもらい、各部門、施設担当部門、理事長の決済を経て発注している。また、会計伝票のデータを会計システムに取り込み、毎月、執行額、予算残がわかる部門別の消費収支計算書を作成し、各部門の予算責任者に配布している。

- ◆参考資料 135 学校法人 文化学園 財務・経理規程
136 学校法人 文化学園 固定資産及び物品管理規程
137 学校法人 文化学園 資産運用規程

(4)過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の公認会計士監査状況の概要を開催日順に記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

公認会計士による監査実施状況(平成19年度～21年度)
平成19年度

年	月	日	概 要	備考
19	4	17	学校部門会計監査(会計士1名)北竜館	監事同席
19	4	18	学校部門会計監査(会計士1名)北竜館	〃
19	5	11	収益部門会計監査(会計士7名)	〃
19	5	14	収益部門会計監査(会計士7名)	〃
19	5	15	収益部門会計監査(会計士7名)	〃
19	5	16	学校部門会計監査(会計士7名)	〃
19	6	5	学校部門・収益部門会計監査(会計士7名)総括	〃
19	9	6	学校部門会計監査(会計士7名)	〃
19	9	7	学校部門会計監査(会計士7名)	〃
19	10	12	収益部門会計監査(会計士7名)	〃
19	11	9	収益部門会計監査(会計士7名)	〃
19	11	12	収益部門会計監査(会計士7名)	〃
19	12	13	学校部門会計監査(会計士7名)	〃
19	12	14	学校部門会計監査(会計士7名)	〃
20	3	4	学校部門会計監査(会計士7名)備品実査含む	〃
20	3	5	学校部門会計監査(会計士7名)備品実査含む	〃
20	3	6	収益部門会計監査(会計士7名)	〃
20	3	29	学校部門会計監査(会計士2名)室蘭短大	〃
20	3	30	学校部門会計監査(会計士2名)室蘭短大	〃
20	3	31	収益部門会計監査(会計士2名)棚卸立会	〃

Ⅸ 財 務

平成20年度

年	月	日	概 要	備 考
20	4	14	収益部門会計監査（会計士1名）北竜館	監事同席
20	4	15	収益部門会計監査（会計士1名）北竜館	〃
20	5	15	収益部門会計監査（会計士7名）	〃
20	5	16	収益部門会計監査（会計士7名）	〃
20	5	19	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
20	5	20	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
20	6	4	学校部門・収益部門会計監査（会計士7名）総括	〃
20	9	1	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
20	9	2	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
20	9	3	収益部門会計監査（会計士7名）	〃
20	11	25	収益部門会計監査（会計士7名）	〃
20	11	26	収益部門会計監査（会計士7名）	〃
20	12	15	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
20	12	16	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
21	3	2	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
21	3	3	学校部門会計監査（会計士7名）備品実査含む	〃
21	3	4	収益部門会計監査（会計士7名）備品実査含む	〃
21	3	17	学校部門会計監査（会計士2名）室蘭短大	〃
21	3	18	学校部門会計監査（会計士2名）室蘭短大	〃
21	3	31	収益部門会計監査（会計士2名）棚卸立会	〃

平成21年度

年	月	日	概 要	備 考
21	4	20	収益部門会計監査（会計士1名）北竜館	監事同席
21	4	21	収益部門会計監査（会計士1名）北竜館	〃
21	5	14	収益部門会計監査（会計士7名）	〃
21	5	15	収益部門会計監査（会計士7名）	〃
21	5	18	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
21	5	19	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
21	6	2	学校部門・収益部門会計監査（会計士7名）総括	〃
21	9	7	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
21	9	8	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
21	9	9	収益部門会計監査（会計士7名）	〃
21	11	16	収益部門会計監査（会計士7名）	〃
21	12	21	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
21	12	22	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
22	3	8	学校部門会計監査（会計士7名）備品実査含む	〃
22	3	9	学校部門会計監査（会計士7名）	〃
22	3	10	収益部門会計監査（会計士7名）	〃
22	3	31	収益部門会計監査（会計士2名）棚卸立会	〃

監事は、公認会計士の会計監査には常に同席し、監査上の重要な点についての意見交換等を行うとともに、公認会計士から監査の方法と結果の相当性を判断するために必要かつ十分な情報提供を受けている。

公認会計士からの特段の指摘事項はない。

(5)財務情報の公開は今までどのように行ってきたか、また私立学校法第47条第2項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。

財務情報の公開については、次の5つの方法により実施してきた。

- ①文化学園ホームページに掲載
- ②教職員がWeb上で閲覧できる「文化学園ニュース」
- ③後期学費振込み用紙を学生に郵送する際、保護者宛に前年度の決算概要を同封
- ④学内掲示板に掲示
- ⑤指定場所における閲覧

公開している情報は、学校会計では資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録、事業報告書、収益会計では損益計算書、貸借対照表であり、それぞれの内容についての概要説明を付けて、監事報告書とともに公開してきた。また「書類閲覧規程」も作成している。

◆参考資料 138 学校法人 文化学園 ホームページ（事業・財務報告）

<http://www.bunka.ac.jp/contents/houkoku.htm>

139 文化学園ニュース 平成21年6月25日発行 793号

(6)寄附行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規程等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

資産運用規程に記載の通りであり、現在の基本方針としては、銀行預金が主体である。株式の購入は資産運用を目的としたものではなく、あくまでも学園の教育・研究の充実及び収益部門の取引先との関係強化が目的である。

(7)寄附金・学校債の募集を行っていればその概要を記述して下さい。なお寄附金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

学校債の募集は行っていない。寄附金については財務部財務課の中に90周年記念事業等のために寄附金事務係を置いている。

【財務体質の健全性と教育研究経費について】

(1)過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を、別紙様式1にしたがって作成し、添付して下さい。

◇添付資料 6 別紙様式1 資金収支計算書・消費収支計算書の概要

(2)学校法人の貸借対照表の概要(平成22年3月31日現在)を、別紙様式2にしたがって作成し、添付して下さい。

◇添付資料 7 別紙様式2 学校法人の貸借対照表の概要

Ⅸ 財 務

(3)財産目録及び計算書類（資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細表・借入金明細表・基本金明細表）について、過去3ヶ年（平成19年度～21年度）分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

◆参考資料 140 平成19～21年度 財産目録

141 平成19～21年度 計算書類

（資金収支計算書、資金収支内訳表、人件費支出内訳表、消費収支計算書、消費収支内訳表、貸借対照表、固定資産明細表、借入金明細表、基本金明細表）

(4)過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の短期大学における教育研究経費比率（消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率）を、小数点以下第2位を四捨五入し第1位まで求め記述して下さい。

教育研究経費比率（平成19年度～21年度）

区分	平成19年度	平成20年度	平成21年度
教育研究経費支出 (a)	305,145 千円	260,993 千円	232,222 千円
帰属収入 (b)	1,066,524 千円	920,601 千円	809,877 千円
教育研究経費比率 (a)／(b)	28.6%	28.4%	28.7%

【施設設備の管理について】

(1)固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程を、財務諸規程を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規程を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

◆参考資料 135 学校法人 文化学園 財務・経理規程

136 学校法人 文化学園 固定資産及び物品管理規程

47 文化女子大学図書館資料管理規程

142 スポーツ施設利用規程

(2)火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状を簡潔に記述して下さい。①火災等の災害対策 ②防犯対策 ③学生、教職員の避難訓練等の対策④コンピュータのセキュリティ対策 ⑤省エネ及び地球環境保全対策 ⑥その他

① 火災等の災害対策

災害活動の強化と火災発生の未然防止について事業計画を作成し、下記の要件について整備を行い災害対策に努めている。

- (1)防災に関する組織の整備と文化学園総合消防訓練計画書の作成
- (2)防災に関する総合消防訓練（避難訓練）の実施
- (3)防災に関する施設及び設備の点検整備
- (4)防災に関する非常食・用具等の点検整備

(5)防災に関する諸官庁との連携と情報収集

② 防犯対策

本学キャンパス（新都心キャンパス）内の警備体制の拠点としてC館1階に防災センターを設置し、L階（ロビー階）の総合受付及び守衛所においては常駐監視業務を行いながら緊急時に備えている。また、キャンパスが都心にあるため、学生の安全確保としてテレビ監視装置を18台設置し防災センターのモニター監視と常駐監視を併用した管理を行っている。防災センターでは有資格者24名による365日24時間体制（夜間3名宿直）により、警備業務基準に基づく日常巡回点検及び夜間巡回点検を行っている。有事の際は緊急連絡網に従い、警察・消防署及び学園幹部等の関係者への通報・連絡を行うとともに初期対応に当たり、被害の拡大防止と学生の安全確保に努めている。

③ 学生、教職員の避難訓練等の対策

文化学園総合消防訓練計画書に基づいた総合消防訓練（避難訓練）は、教職員で構成した文化学園自衛消防隊組織の火災予防活動や地震災害防止活動を目的とした総合防災訓練で、建物ごとの火災を想定した一斉避難訓練を、年1回（毎年4月）実施している。

また、「自衛消防組織一覧」を作成し、全教職員が緊急時の指揮係や連絡係、消火係、避難誘導係等の役割についており、日頃から防災の意識を高めている。

学生へは、文化学園の「地震災害緊急対応マニュアル」（東京消防庁渋谷消防署監修）を全員に配布する学生手帳に記載することによって、安全教育の一環として周知徹底を図っている。学生手帳にはあわせて「学内一時避難場所」「広域避難場所」も記載している。都市災害に対する対応としては、渋谷消防署及び関係団体が行う広域災害対策研究会に施設部の職員が積極的に参画し、災害救援活動の向上により学生の避難安全の確保に努めている。

④ コンピュータのセキュリティ対策

ネットワークやセキュリティの規約を設け、教職員新人研修時にセキュリティ講習会を実施している。学内LANを教職員と学生は別のネットワークで管理し、各種セキュリティ装置を用途にあわせて設置している。教員個人のパソコンの持ち込みは原則として禁止しており、学生のパソコンは学内LAN用の環境設定を行ったもののみ使用可としている。また、学内のサーバーと全てのパソコンに対してウイルス対策ソフトを導入し、パターン更新状況やウイルス混入の有無を管理している。

⑤ 省エネ及び地球環境保全対策

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」により、文化学園は特定事業所になっており地球温暖化による地球環境保全対策に取り組んでいる。

省エネルギー活動としては、職員及び学生に対して室内温度設定の改善と照明機器等の節電に対する協力に理解を求め、学園全体での省エネルギー活動を推奨している。

また、古い校舎の老朽化した機器については、中長期事業計画による高効率機器の更新や、機器の改善による省エネルギー計画を作成している。

今後の目標設定については、東京都環境確保条例ガイドラインを踏まえた計画と、現状の使用量についての把握と検証を行いながら、さらなる省エネルギー活動を実施

Ⅸ 財 務

する予定である。

◆参考資料 4 学生手帳 2010

地震災害緊急対応マニュアル 1、2

学内一時避難場所 広域避難場所

128 平成22年度 文化学園総合消防訓練計画書

文化女子大学自衛消防組織一覧 平成22年度

【特記事項について】

(1)この《Ⅸ財務》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務管理について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

(2)特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

《X 改革・改善》

【自己点検・評価について】

(1)短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

1) 自己点検・評価の位置付け

自己点検・評価は、教育研究の向上を図り、本学の教育目的及び社会的使命を達成するためにきわめて重要なことと位置付け、教育研究活動の状況について併設大学を含めた全学で実施している。本学の自己点検・評価活動は、学長を中心とした将来構想委員会による自己点検・評価の基本方針及び文化女子大学自己点検・評価規程に基づいて、全学自己点検・評価委員会が毎年実施し自己点検・評価報告書として取りまとめている。

2) 実施組織、規程等の整備状況

文化女子大学自己点検・評価規程は「文化女子大学及び文化女子大学短期大学部」として、併設大学とともに取り組む規程となっている。自己点検・評価活動の実施に当たり、平成15年度から将来構想委員会の下に「全学自己点検・評価委員会」が組織されている。委員は、将来構想委員会委員から1名、短期大学部の各学科から1名以上、他に各学部学科及び短期大学部・併設大学共通科目から各1名以上、事務局長、事務局部長及び事務職員若干名をもって組織されている。

3) 今後の自己点検・評価

平成22年度における短期大学認証評価を受けた後も、継続して改革・改善に向けた自己点検・評価活動を行い、毎年、報告書としてまとめていく予定である。

さらにこれらの自己点検・評価を外部の有識者に検証してもらうために文化女子大学短期大学部外部評価委員会規程に基づいて、外部評価も実施することとしている。

◆参考資料 143 文化女子大学自己点検・評価規程

144 文化女子大学短期大学部外部評価委員会規程

(2)過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配付先の概要を記述して下さい。なお過去3ヶ年（平成19年度～21年度）にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

1) 発行状況

本学の自己点検・評価報告書の発行は平成13年度に始まり、その後、平成18年度からは現在の形式で「文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書」として毎年発行してきている。いずれの報告書も併設大学を含めた全学的な報告書になっているが、短期大学部の項目については明確に特定できるよう記述している。

2) 配布先の概要

学内では将来構想委員会委員、各研究室、執筆者の他、執筆に関わった関係各部署に配布している。現在学外への配布は行っていないが、図書館に納めて自由に閲覧できるようにしている他、平成21年度版からはホームページにて公開している。

◆参考資料 145 文化女子大学 文化女子大学短期大学部 自己点検・評価報告書
—平成19～21年度—

http://bwu.bunka.ac.jp/jiheee/2010_hyouka.pdf (平成21年度分)

【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1)平成21年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

1) 自己点検・評価に関わった教職員の範囲

本学の自己点検・評価活動は全学を挙げて取り組んでおり、全教職員が何らかの形で関わっている。学長の下、協議会・委員会の委員長及び関係各部署長が構成員の意見を集約して自己点検・評価した結果を、自己点検・評価委員会が年度ごとに報告書として取りまとめている。

2) 今後の望ましい教職員の関わり方

全教職員が自己点検・評価の意義をより一層理解し、連携して取りこぼしのない改革・改善につながる点検・評価を実施していきたいと考えている。

(2)平成21年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

1) これまでの自己点検・評価結果の活用実績

年度毎の自己点検・評価の結果は、協議会や教授会等で分析・検討され、次年度の教育研究活動の課題や目標として全教職員に共有されるものとなっている。また、この結果は次年度の事業計画や予算に原則として反映されている。

2) 今後の活用について

各年度の自己点検・評価の結果は、今後とも本学全体の教育研究の改善に役立てていく方針に変わりはない。特に、自己点検・評価の結果をPDCAサイクルの中に位置付けること、「3つの方針」との乖離の有無の検証に努めるとともに、認証評価の基礎資料となるべきものとしていきたい。また、自己点検・評価の結果をより発展的なものとするため外部評価も有効であると認識しており、それらの結果は長期計画に盛り込む必要がある。

【相互評価や外部評価について】

(1)平成21年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

現在のところ相互評価及び外部評価を実施していないが、平成21年度に併設大学現代文化学部で外部評価を実施した。今後本学でも実施する予定である。

(2)相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

平成21年度に外部評価を実施するための規程等が設けられ、実施環境の整備を図っているところである。具体的な方策を決め、実施について早期に取りかかるよう準備をしている。

◆参考資料 144 文化女子大学短期大学部外部評価委員会規程

【第三者評価（認証評価）について】

(1)第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

併設大学とともに自己点検・評価を実施している「全学自己点検・評価委員会」とは別に、平成21年度に「文化女子大学短期大学部認証評価推進委員会」を組織した。

委員会は副学長を委員長とし、ALO、教員7名、事務職員8名、計17名で構成している。本報告書作成に当たっては、執筆及びデータの収集を含め、各委員会・事務局各部署の責任者から全面的な協力を得た。

(2)第三者評価に当たって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及びALO（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。

1) 学長

本学は、学園内における大学教育の展開という意味で、短期大学制度が発足した時代に創設され独自の歴史を経過している。併設大学との協働もあって、今日もその社会的使命を果たしていると自負するものである。ただし、本学も短期大学の置かれた今日的な厳しさの中にあり、第三者評価は今日の社会的状況下での短期大学としてのあり方を具体的に見定める絶好の機会と認識している。第三者評価に当たっては、学長を中心に教授会、各委員会はもとより、将来構想委員会と全学自己点検・評価委員会を機軸として、点検・評価作業を進めてきた。今次の第三者評価に関しては「文化女子大学短期大学部認証評価推進委員会」を組織して、自己点検・評価報告書の編集を全学的視野で行うこととした。ALOを通じて短期大学基準協会の評価方針を理解するとともに、評価結果が本学の新たな発展につながることを期待しているところである。

2) 全学自己点検・評価委員会

従来本学は併設大学と合同・連携して教育研究機関としての運営を進めることを基本としてきたが、この第三者評価実施を見据えて、数年前より短期大学としてのあり

X 改革・改善

方を教職員自身が自問し改革や改善の方策を探ろうとする意識が高まってきている。この機会に、短期大学としての特性についても新しい時代に合致する方向を見定めて行くことが重要であると考え。

【特記事項について】

(1) この《X改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

年度の初めに、本学と併設大学の全教職員が参加して「全学FD・SD研修会」を終日かけて実施している。ここでは授業改善や自己点検・評価活動に関わる講演の後、分科会でディスカッションをし、相互研鑽の場としている。その結果は報告書としてまとめ、各自の自己点検の一助としている。平成19年度には、3年ごとに2年生を対象とした「学生生活調査」を実施し、満足度調査等を行っている。この調査結果は報告書としてまとめられ各研究室に配布されている他、本学ホームページでも公開されFD活動の一資料として活用されている。また全学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「全学FD委員会」という）が平成20年度に実施した「学生による授業・カリキュラム改善アンケート」の集計結果は、各研究室宛に配信され組織的個人的にシラバスの作成や授業方法の改善に反映させている。続けて平成21年度末には、その活用実態を研究室ごとに問う「学生によるカリキュラム・授業改善アンケートに関する研究室長アンケート調査」を行い、結果を報告書としてまとめた。自己点検・評価のPDCAサイクルの一環として、その集計結果は平成22年度4月の全学FD・SD研修会において検討された。

平成21年度は9月に健康管理センター、学生生活委員会（平成22年度より「学生支援委員会」）及び全学FD委員会が共同で主催してメンタルヘルスセミナーを開催し、学生心理への理解と学生指導のあり方について再確認した。

◆ 参考資料 54 2007学生生活調査結果報告書

<http://bwu.bunka.ac.jp/life/index.html>

18 平成19～22年度 全学FD・SD研修会 プログラム・分科会報告書

146 文化女子大学 文化女子大学短期大学部

平成20年度「学生によるカリキュラム・授業改善アンケート」に関する研究室長アンケート調査の結果報告書

132 文化女子大学メンタルヘルスセミナー

ー学生のこころの問題を考えるー資料

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特になし。

＜ ＊ ＊ 将来計画の策定（自由記述） ＞

1. 本学は、かつて服装学科、生活造形学科、国際文化学科と専攻科（3専攻）を置き、質・量ともに有数の短期大学として知られたが、高等教育への進学希望者の4年制大学志向と18歳人口の減少という社会的状況の変化によって、今日の体制と規模に至っている。したがって、本学は短期大学としての社会的使命と高等教育に占める意義と位置について、中・長期的展望に立って、再検討しなければならない時期にある。そのため、社会や産業界の変化を見据えた教育課程の見直しやカリキュラムの改定が従来にも増して必要である。また、両学科の専門領域に関心が高く、適性と感性を備えた学生を受け入れるための入学試験制度、入学前から卒業後に至る学生支援のシステムの構築を再検討することとしている。加えて、短大志向者の経済的状況に対応する学内奨学制度の整備、カウンセリング・相談活動の充実、就職支援の効率化等の改革・改善は着実に進められつつあるといえる。このような改革・改善と並行して、本学は「建学の精神」と、学則に定めた両学科の「人材育成の目的」に基づいて、ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）、アドミッションポリシー（入学者受入方針）をより明確化した。これら「3つの方針」に基づいて、短期大学としての教育における両学科及び専攻科の特徴を今後とも、より鮮明にしなければならないといえる。これらの点を踏まえて、過去60年にわたる短期大学としての実績と、学園や併設大学が内包する種々のリソースとを活用する将来計画が検討されてきた。学園は平成25年に創立90周年、平成35年には100周年を迎えるのに伴い、これら周年事業を中長期計画に重ねあわせた基本構想が策定されている。さらに、平成26年に併設大学が創立50周年を迎えるに当たり、以下の通り本学と併設大学に共通する中期計画を策定し、新たな教育研究システムを構築するプランが用意されている。
2. 上記の観点に立脚して策定された本学と併設大学の中期計画の大綱は、以下の通りである。
 - 1) 基本的な考え方
 - 本学は「新しい美と文化の創造」を建学の精神とし、実学重視の理念とクリエイティブな校風の下で教育研究を展開して来た。しかしながら、創立以来半世紀を経過した現在、本学を取り巻く環境は著しく変容している。すなわち18歳人口の減少、産業構造の変化に伴うファッション産業を中心とした産業社会の人材需要の激しい変容及び地球的規模での対応が求められる人類共通の課題の出現等、高等教育を取り巻く環境は大きく変化している。
 - これらの状況を踏まえて、本学は社会の要請と学術研究の進展に応じて教育内容と教育組織を不断に見直すという観点から中期計画を策定する。そして、この中期計画の下で教職員が一丸となって本学のさらなる発展と持続性の確保に取り組むものとする。
 - 2) 教育に関する計画
 - 教育目的・目標を一層明確にするため、アドミッションポリシーを見直すとともに、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーをより鮮明にし、広く社会

** 将来計画の策定(自由記述)

に公表する。

- カリキュラムポリシーの下で特色あるカリキュラムを編成し、授業計画（シラバス）に反映させる。
- 志願者数と入学者数の推移と社会の人材需要を見極め、学部・学科の再編を行う。
- 教育内容・教育組織の再編に伴って、キャンパスの再開発及び統合に関する具体策を検討する。
- 校名変更・共学化について具体策の検討に着手し、実施計画を作成する。

3) 研究に関する計画

- 教育研究のイノベーションを図るために産学連携を組織的・計画的に推進する。
- 文化ファッション研究機構における共同研究を推進し、その成果を研究コミュニティのみならず広く社会に発信する。
- 研究活動の高度化を図るために、他大学との連携を強化する。また、渋谷区及び小平市をはじめキャンパスの近隣の地域と連携を密にし、地域の振興に貢献する。

4) 学生の確保に関する計画

- アドミッションポリシーに沿った学生を確保するための具体的な方策を検討する。
- 偏差値のみに偏重しない本学独自の選抜方法を具体化する。
- 優秀な学生を確保するために奨学金の充実を図る。

5) 学生支援に関する計画

- 経済社会の変動に鑑み、学生に対し多様な支援措置を検討するとともに、留学生と日本人学生のバランスを考慮しつつ奨学金を給付する。
- 就職活動が厳しさを増す中で、就職準備教育の充実を図るとともに、「就職情報の高速化と支援体制のネットワーク化」事業を通して個別支援を格段に強化する。さらに、インターンシップ及びキャリア形成教育科目の一層の充実を図る。
- 学生の心身の健康を維持し学生生活を全うさせるために、医師やカウンセラー等専門家の配置を充実させる。また、教職員のカウンセリングマインドを養成する研修の機会を多様なものとする。

3. 上記のように、本学の将来計画は学園及び本学と併設大学の歴史的区切りの時点を目途に、中期計画としてまとめられている。今次の中期計画を含む将来計画の基本には「イノベーション、クリエーション、グローバリゼーション」の3つの要因を置くこととしている。したがって、将来計画に基づく具体案の策定に当たっては、本学と高等教育に関わる環境の、より多角的な分析を前提とするものとする。